

「市民満足度調査」及び「市内高校3年生を対象とした定住等意識調査」 の調査結果について

1. 調査の目的

第1期出雲市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証と第2期総合戦略の策定等の基礎資料とするため。

2. 市民満足度調査について

(1) 調査の概要

- ①調査対象者 市内に居住する満18歳以上の者
- ②調査数 住民基本台帳から無作為抽出した2,800人
- ③調査方法 郵送にて調査票を配付・回収
- ④調査期間 令和元年5月上旬～下旬
- ⑤調査項目
 - ・出雲市の住みやすさ、定住意向
 - ・市の施策・取組(60項目)についての重要度、満足度
 - ・多文化共生について

(2) 調査の結果

回収数：1,199人(回収率42.8%)

調査の結果は2～7ページを参照

3. 市内高校3年生を対象とした定住等意識調査について

(1) 調査の概要

- ①調査対象 出雲市内の高等学校8校に通う3年生の生徒
- ②調査方法 学校を通じて調査票を配布・回収
- ③調査期間 平成31年4月
- ④調査項目
 - ・出雲市への定住意向、将来希望する仕事等について
 - ・結婚希望年代、子どもを持ちたい年代等について
 - ・出雲市をもっと元気なまちにする取組について

(2) 調査の結果

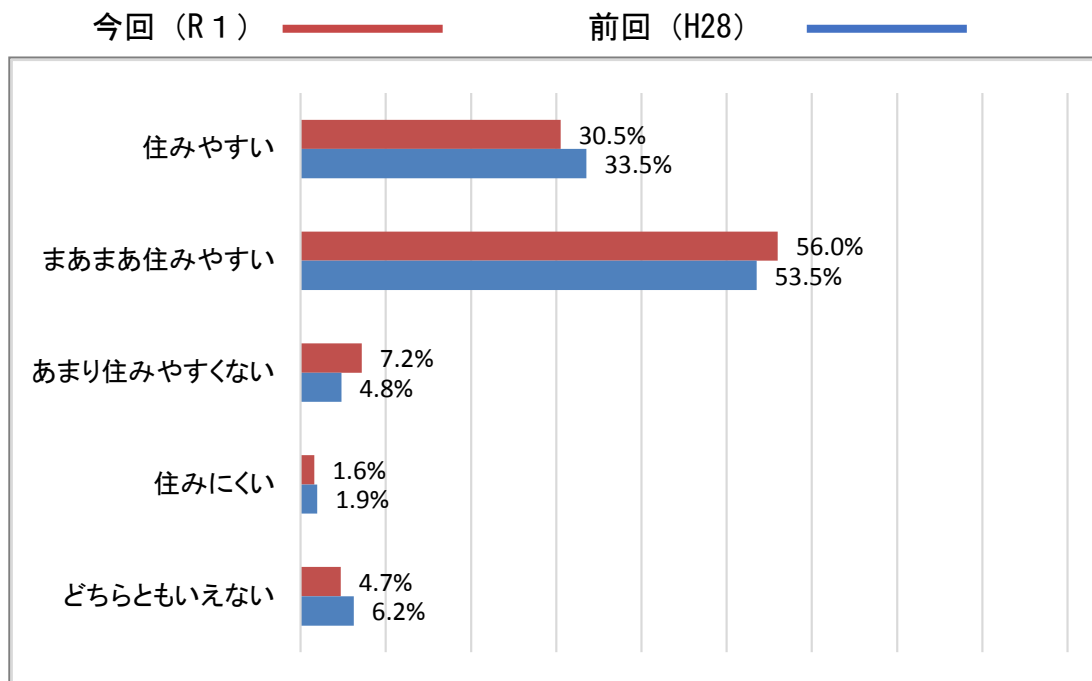
回収数：1,504人

調査の結果は8～11ページを参照

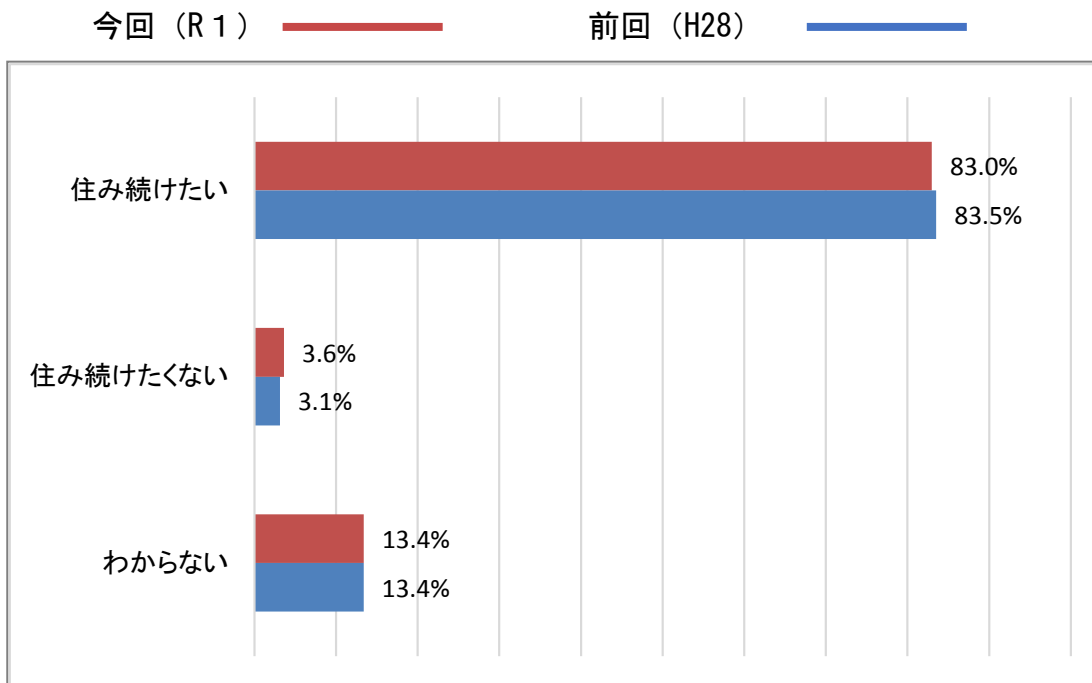
4. 市民満足度調査の結果概要

(1) 出雲市の住みやすさ・定住意向

●出雲市の住みやすさについて、どのようにお感じですか。



●これからも出雲市に住み続けたいと思いますか。



「住みやすい」又は「まあまあ住みやすい」と回答した人の割合は、86.5%であり、「これからも出雲市に住み続けたい」と回答した人の割合は、83.0%でした。いずれも前回調査（平成28年度）の結果を若干下回ったものの、ほぼ横ばいの結果となりました。

(2) 市の施策・取組についてのニーズ度（重要度・満足度）

①【重要度 上位10項目】 ※重要度が高い順

順位	施策・取組	点数
1	消防、救急体制の充実・強化	85.7
2	ごみの収集、減量やリサイクルなどの取組	83.0
3	防災体制の充実・強化	82.5
4	義務教育(小中学校)の充実	82.4
5	病院、診療所等の医療施設の充実	82.4
6	交通安全対策の充実	80.5
7	防犯に関する取組	77.6
8	保健施策の充実	76.5
9	高齢者福祉施策の充実	76.2
10	子育て支援の充実	76.0

重要度が高い上位10項目には、「安心・安全」分野の5項目のうち、4項目が入っています。また、「健康・福祉」分野の8項目のうち、4項目が入っており、この2分野で8割を占めています。

②【満足度 下位10項目】 ※満足度が低い順

順位	施策・取組	点数
1	公共交通機関(バス)の利用しやすさ	△ 37.6
2	定住促進に関する取組	△ 23.6
3	周辺地域の整備	△ 22.8
4	就職支援の取組	△ 19.8
5	歩道整備などバリアフリーに対する配慮	△ 19.8
6	義務教育(小中学校)の充実	△ 17.6
7	観光客を誘客するための取組	△ 17.4
8	公共交通機関(JR)の利用しやすさ	△ 15.3
9	新エネルギーの利用促進、普及	△ 13.6
10	行財政改革の推進	△ 13.1

「産業・経済」分野（就職支援の取組、観光客を誘客する取組、新エネルギーの利用促進、普及）や、「都市基盤・機能」分野（公共交通機関（バス・JR）の利用しやすさ、周辺地域の整備、歩道整備などバリアフリーに対する配慮など）の満足度が低い傾向にあります。

③【ニーズ度 上位10項目】 ※③ニーズ度＝①重要度－②満足度

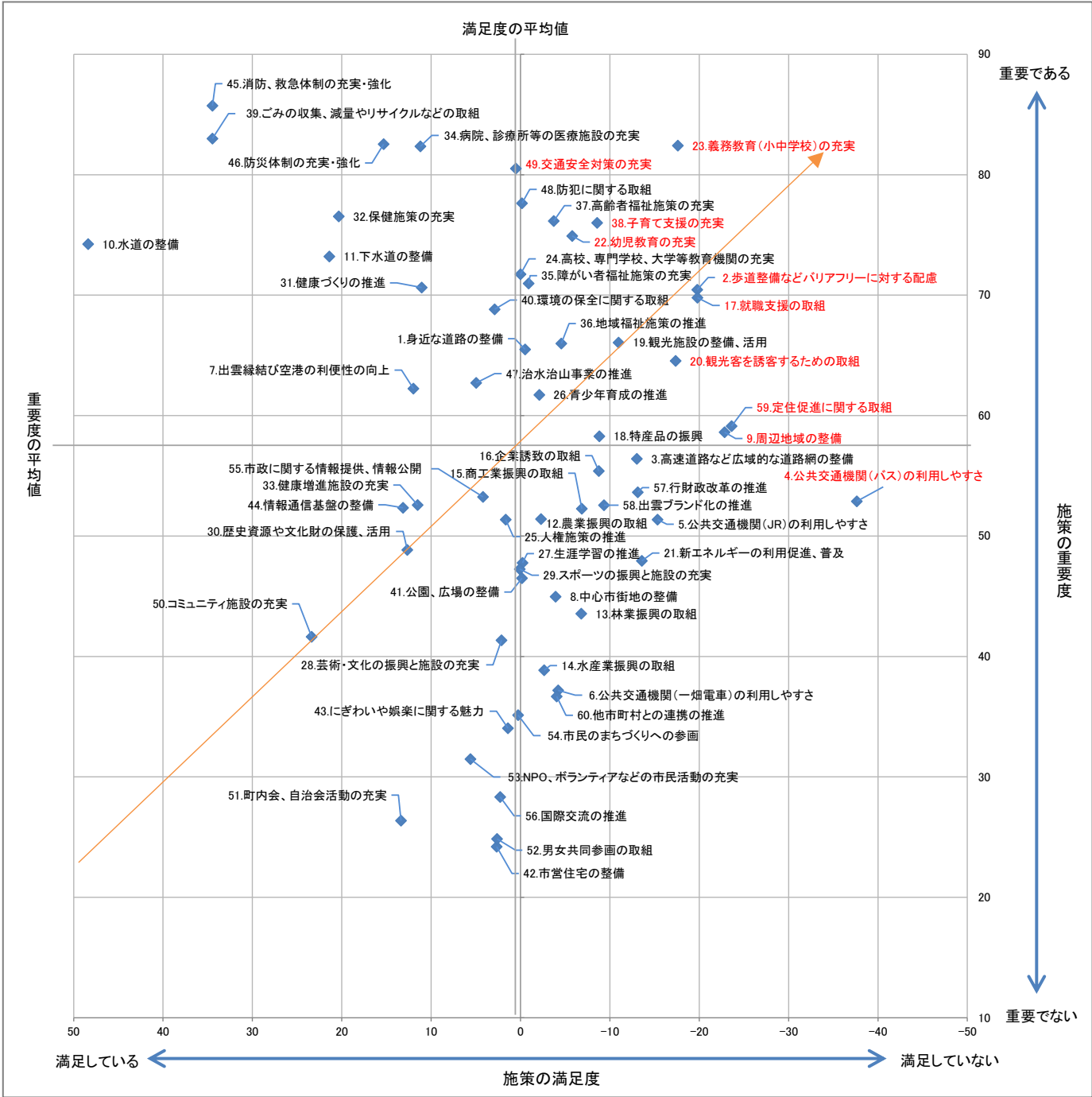
順位	施策・取組	点数
1	義務教育(小中学校)の充実	100.0
2	公共交通機関(バス)の利用しやすさ	90.5
3	歩道整備などバリアフリーに対する配慮	90.2
4	就職支援の取組	89.6
5	子育て支援の充実	84.6
6	定住促進に関する取組	82.7
7	観光客を誘客するための取組	81.9
8	周辺地域の整備	81.5
9	幼児教育の充実	80.7
10	交通安全対策の充実	80.0

ニーズ度が高い項目は、いずれも満足度が「低い」、あるいは「比較的低い」項目です。

前回調査と比較すると、「周辺地域の整備」と「交通安全対策の充実」の2項目が新たに上位10項目に入っています。

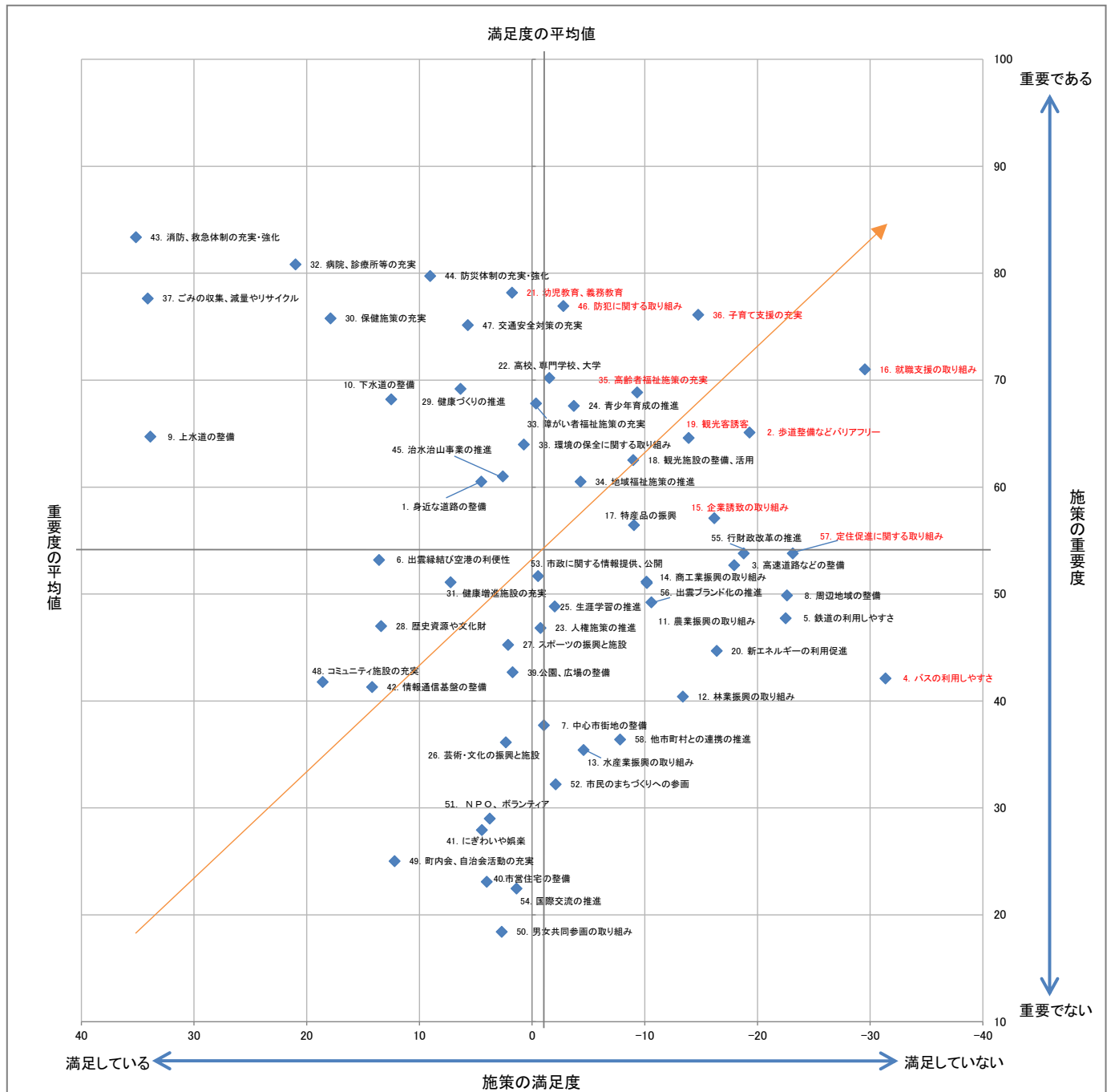
今回（令和元年度）のニーズマップ

右上にあるものほど優先的に
取り組むべき施策
（ニーズ度のベスト10の施策を赤字）



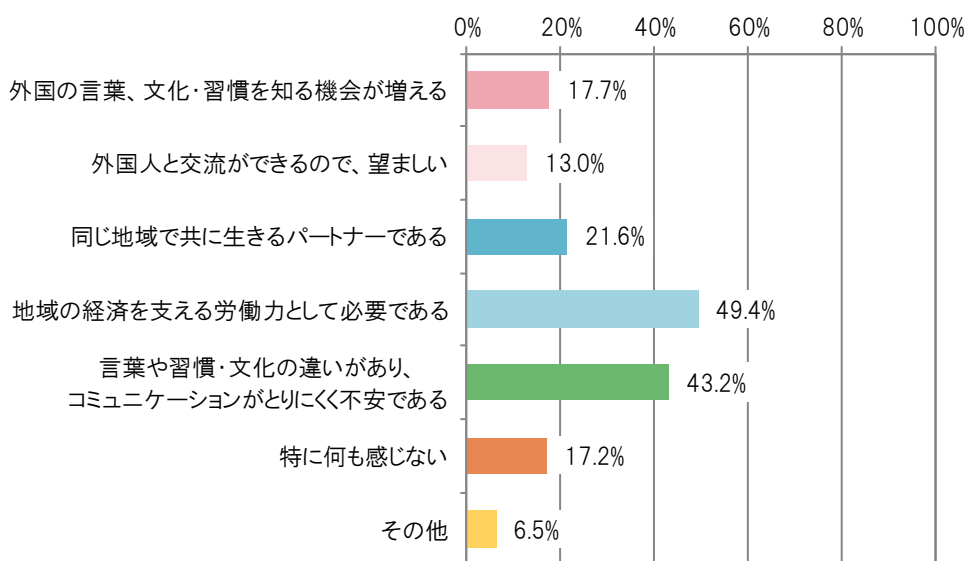
■前回（平成28年度）のニーズマップ

右上にあるものほど優先的に
取り組むべき施策
(ニーズ度のベスト10の施策を赤字)



(3) 多文化共生について

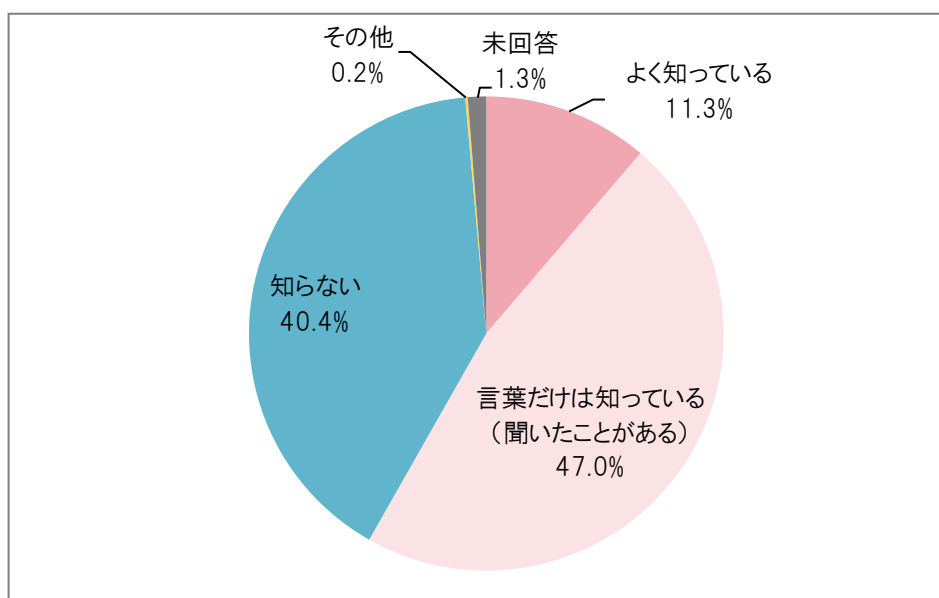
●出雲市には、多くの外国人住民が暮らしています。あなたは、そのことについて、どう感じていますか。(複数回答)



※無回答・無効回答を除く

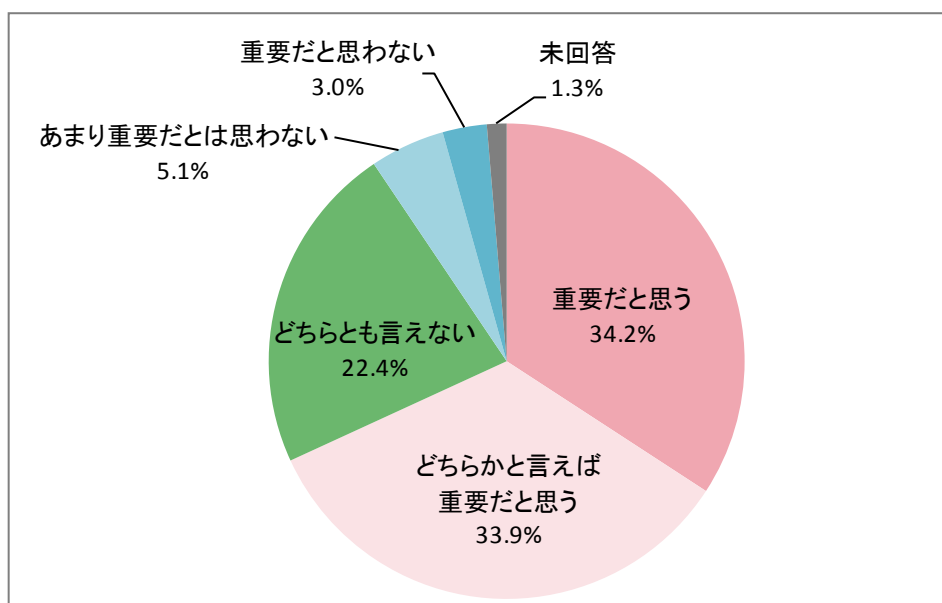
「地域の経済を支える労働力として必要」との回答が最も多く、労働力として期待されている一方、「言葉や習慣・文化の違いから、コミュニケーションがとりにくく不安」との回答が多くありました。

●あなたは「多文化共生」という言葉・考え方を聞いたことがありますか。



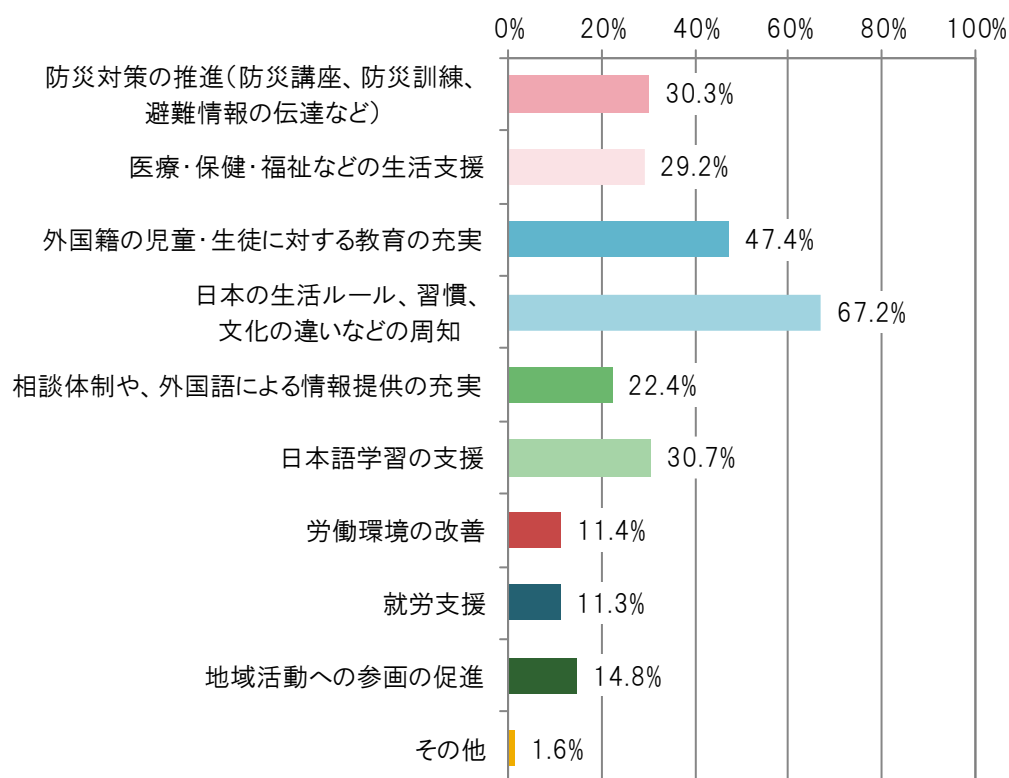
多文化共生という言葉「良く知っている」又は「言葉だけは知っている (聞いたことがある)」と回答した方は、約6割ありました。

●あなたは、外国人住民と互いに認め合い、共に暮らす多文化共生社会の実現についてどう思いますか。



多文化共生社会の実現について、「重要」又は「どちらかと言えば重要」との回答は7割弱あり、「重要だと思わない」又は「あまり重要だとは思わない」との回答は、1割に満たない結果でした。

●今後、多文化共生を進めるうえで、外国人住民を対象にどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

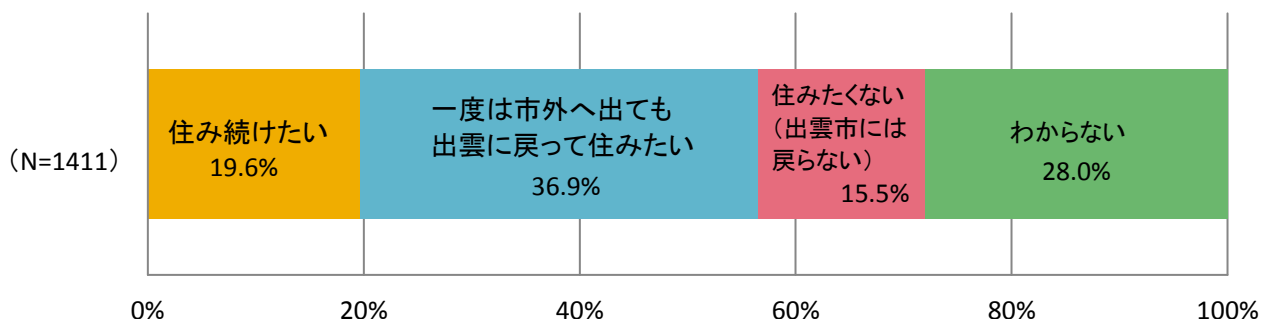


5. 市内高校3年生を対象とした定住等意識調査の結果概要

(1) 出雲市への定住意向

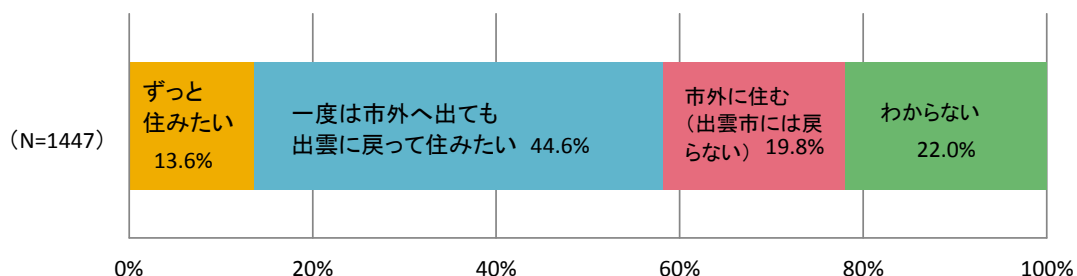
●あなたは、これからも出雲市に住み続けたいと思いますか。

出雲市への定住意向について



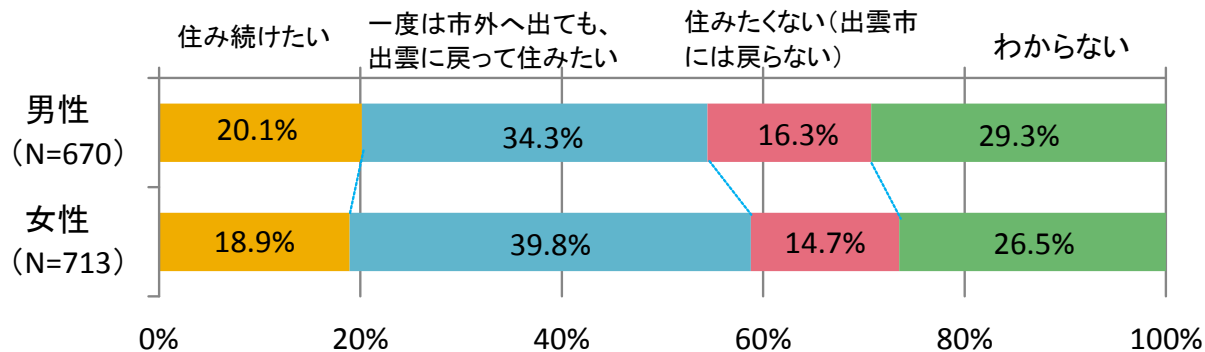
参考：前回調査結果（平成27年度）

出雲市への定住意向について



【男女別】

出雲市への定住意向について(男女別集計)



「一度は市外へ出ても、出雲に戻って住みたい」との回答が、36.9%と最も多く、次いで「わからない」28.0%でした。

前回調査（平成27年度）と比較すると、「住み続けたい」又は「一度は市外へ出ても出雲に戻って住みたい」との回答が、1.7ポイント減少した

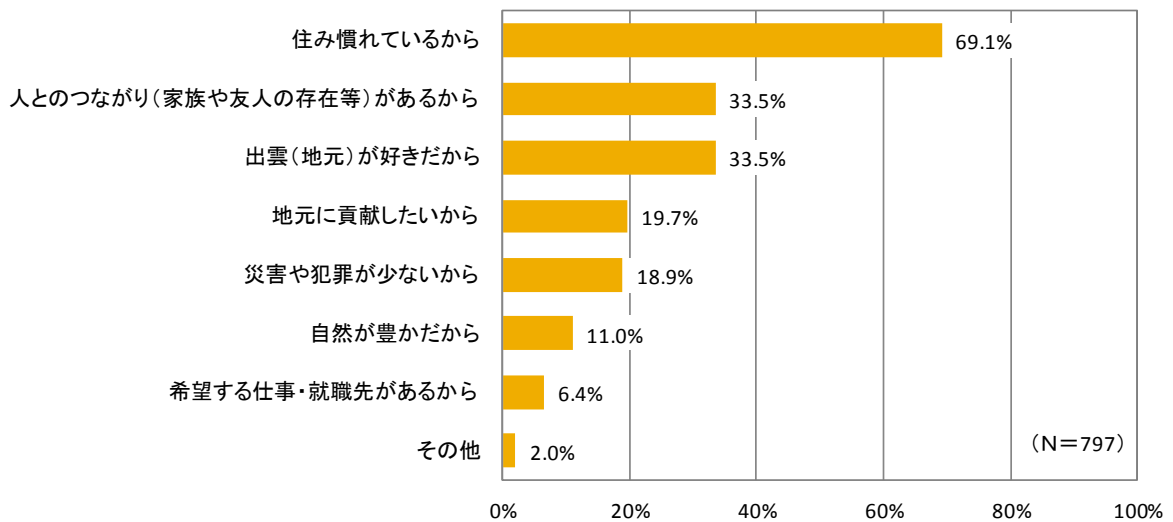
ものの、「住み続けたい」との回答は6ポイント増加し、「住みたくない（出雲市には戻らない）」の回答は約4ポイント減少しました。

男女別の集計では、「住み続けたい」と回答した人が、男性は20.1%、女性は18.9%であり、わずかに男性の割合が高くなりました。

一方、「一度は市外へ出ても、出雲に戻って住みたい」と回答した人は、男性が34.3%、女性が39.8%と女性の割合が高くなり、「住み続けたい」と「一度は市外へ出ても、出雲に戻って住みたい」をあわせると、女性の割合が高くなりました。

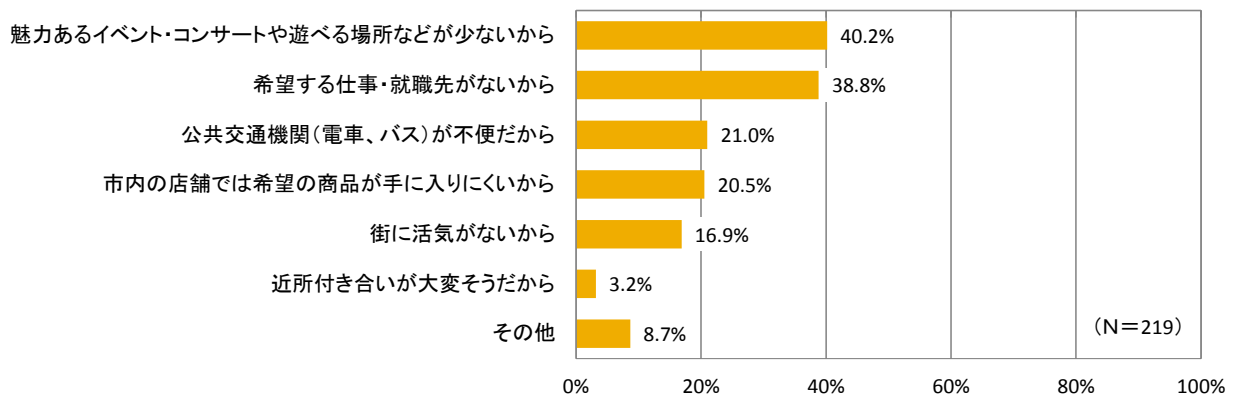
●出雲市に住みたい理由を教えてください。（出雲市に「住み続けたい」または「一度は市外へ出ても、出雲に戻って住みたい」を選択した方のみ回答）

出雲市に住みたい理由（2つまで回答可）

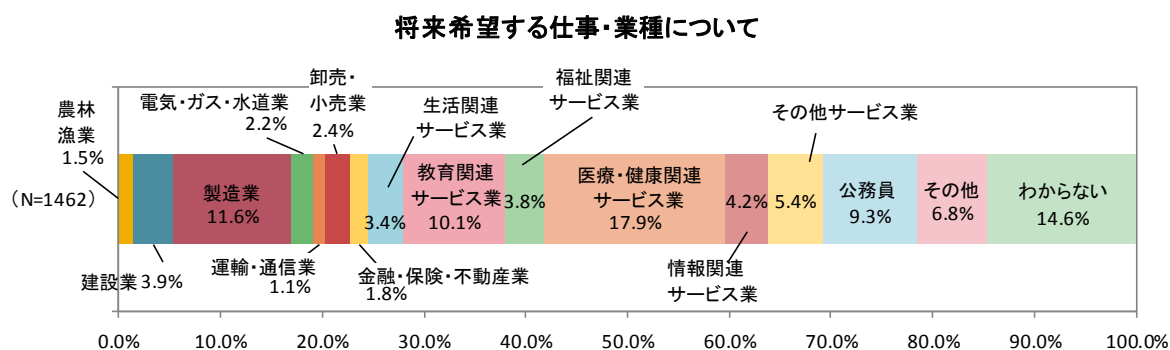


●出雲市に住みたくない理由を教えてください。（出雲市に「住みたくない（市外に出て、出雲市には戻らない）」を選択した方のみ回答）

出雲市に住みたくない理由（2つまで回答可）



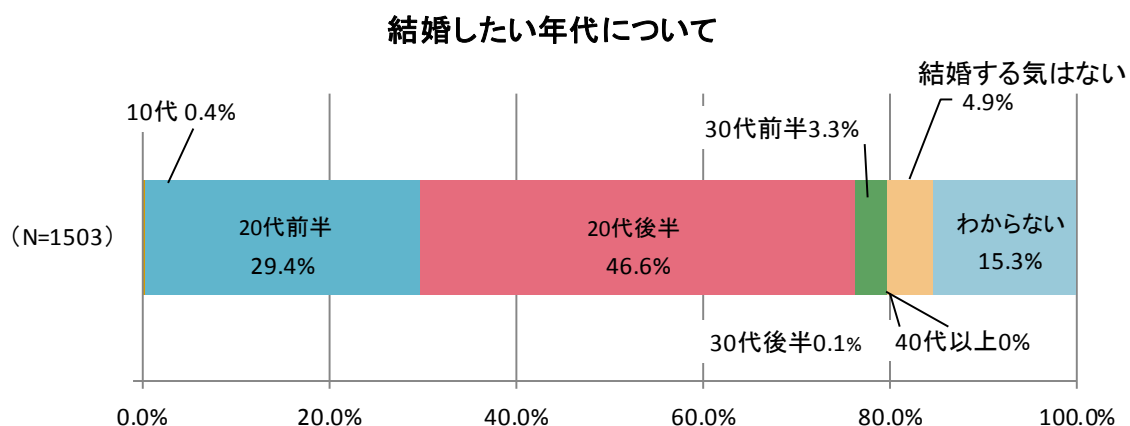
●将来希望する仕事・業種を教えてください。



将来希望する仕事・業種は、「医療・健康関連サービス業（医師、看護師等）」の割合が17.9%と最も高く、次いで「わからない」14.6%、「製造業」11.6%、「教育関連サービス業（小・中・高等学校の教員等）」10.1%と続きました。

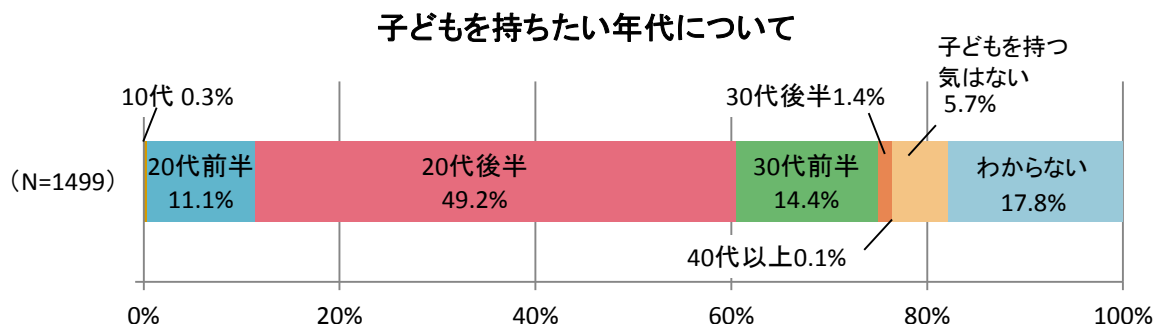
(2) 結婚・子育てについて

●結婚したい年代を教えてください。



結婚したい年代は、「20代後半」が46.6%と最も高く、次いで「20代前半」29.4%であり、20代での結婚を希望する人が全体の76%を占めました。

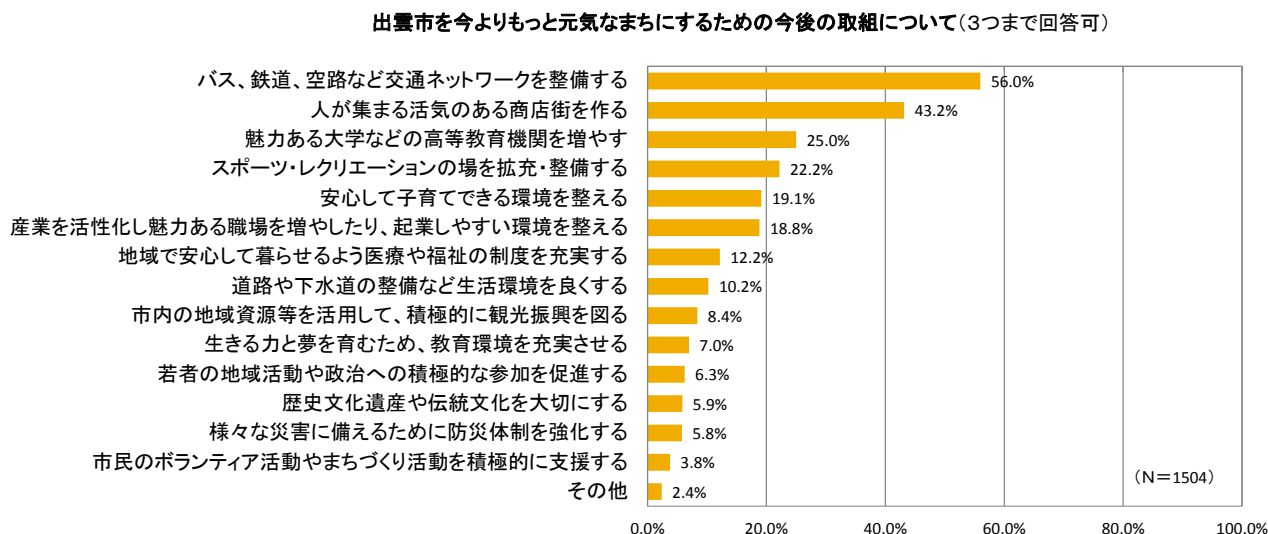
●子どもを持ちたい年代を教えてください。



子どもを持ちたい年代は、「20代後半」が49.2%と最も高く、次いで「わからない」17.8%、「30代前半」14.4%でした。20代での子どもを持ちたい人が全体の約60%を占めました。

(3) 出雲市について

●出雲市を今よりもっと元気なまちにするためには、今後どのような取組をすれば良いと思いますか。



出雲市を今よりもっと元気なまちにするための取組については、「バス、鉄道、空路など交通ネットワークの整備」との回答が56.0%と最も高く、「人が集まる活気のある商店街をつくる」43.2%、「魅力ある大学などの高等教育機関を増やす」25.0%と続きました。

その他の回答では、「若者向けの商業・娯楽施設の充実」と回答した人が、多くありました。

令和元年度 市民満足度調査 報告書

令和元年9月

出雲市 総合政策部 政策企画課

目 次

調査の概要	1
回答者の属性	2
出雲市の住みやすさについて	3
単純集計（重要度）	4
単純集計（満足度）	12
多文化共生について	20
施策の評価方法について	23
重要度と満足度のスコア化、ニーズ度	24
ニーズマップ	27
総括	30
資料編	32
（１）重要度のグラフ	33
（２）満足度のグラフ	36
（３）分野ごとのニーズマップ経年変化図	39
（４）地域別のニーズマップ	46
（５）年齢階層別のニーズマップ	53

●調査の概要

1. 調査目的

市民を対象に市の施策・取組に対する満足度・重要度、住みやすさ、多文化共生についての調査を行い、第1期出雲市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証と第2期総合戦略策定等の基礎資料とすることを目的とします。

2. 調査内容

○個人属性（性別、年齢、国籍、居住地域、居住年数）

○出雲市の住みやすさ、定住意向

○市の施策・取組についての重要度、満足度

都市基盤・機能 / 産業・経済 / 教育・文化 / 健康・福祉 / 生活環境
安心・安全 / まちづくり、行政サービス

○多文化共生について

○自由意見

3. 調査の対象・調査方法

出雲市にお住まいの18歳以上の方の中から2,800名を無作為に抽出。
市民満足度調査票を郵送にて配布、無記名で回答いただき郵送にて回収。

4. 調査実施時期

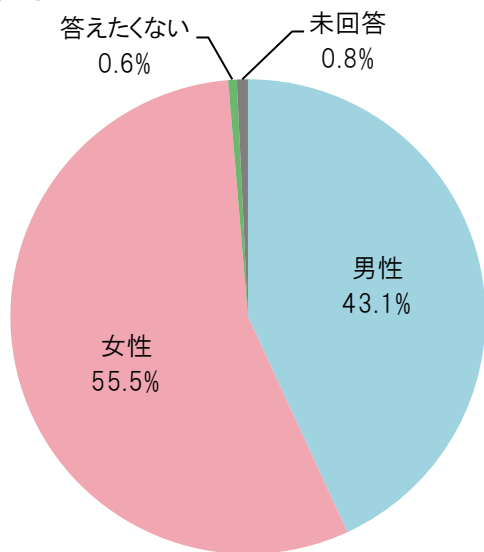
令和元年（2019）5月7日（火）～5月31日（金）

5. 調査票回収状況

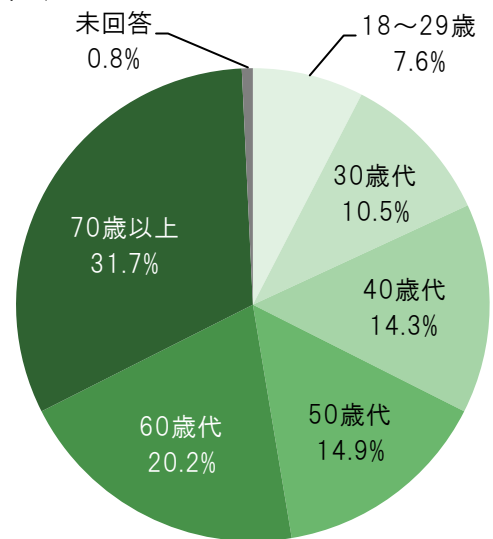
送付数	回収数	回収率
2,800	1,199	42.8%

●回答者の属性

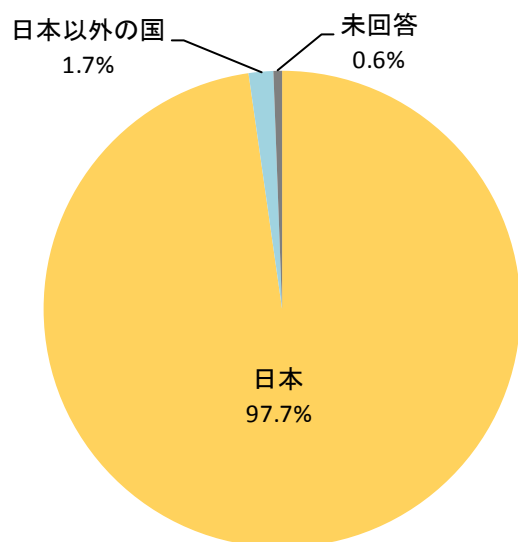
■性別



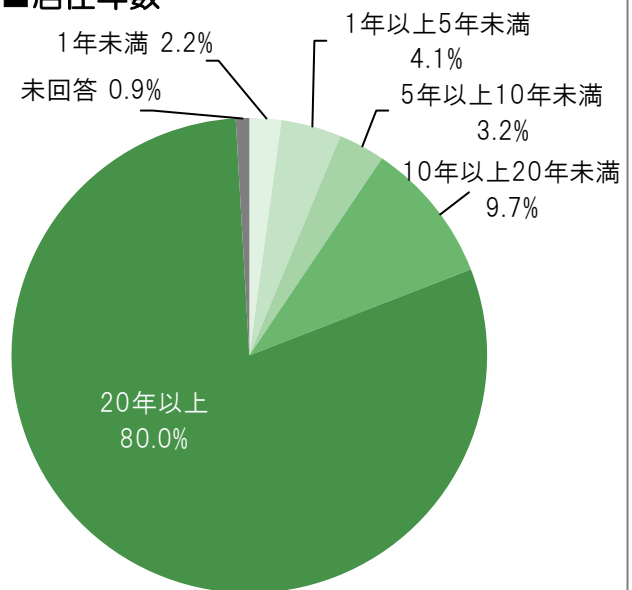
■年齢



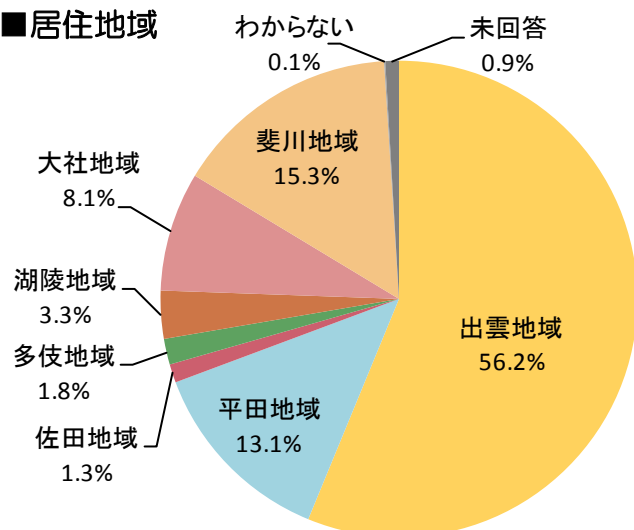
■国籍



■居住年数



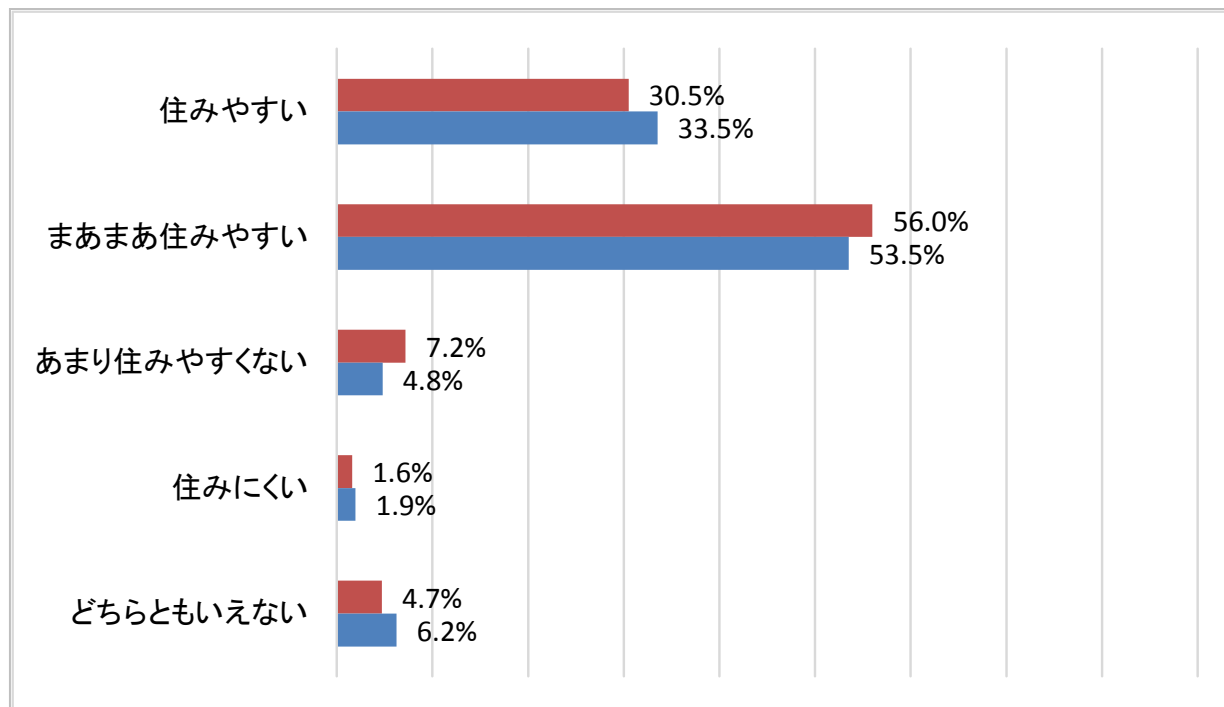
■居住地域



●出雲市の住みやすさについて、どのようにお感じですか？

今回（R1）

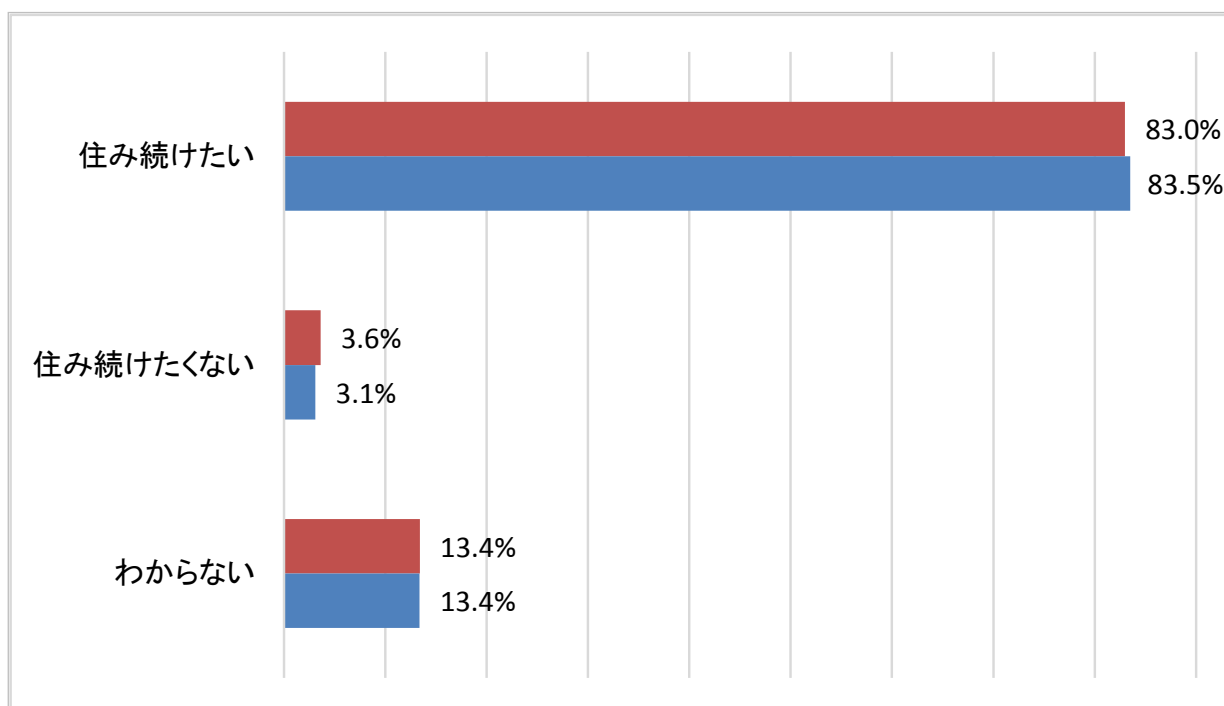
前回（H28）



●これからも出雲市に住み続けたいと思いますか？

今回（R1）

前回（H28）



●単純集計

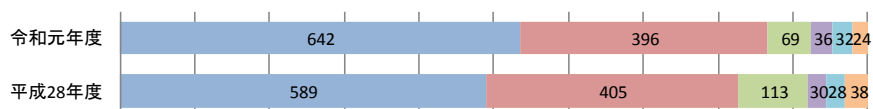
■重要度

★都市基盤・機能について

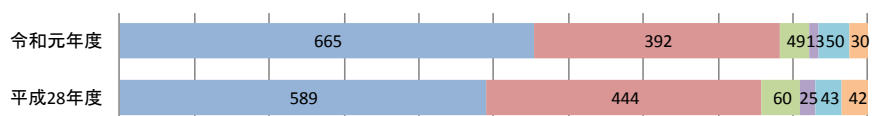
(単位：人)

■重要である ■どちらかといえば重要である ■どちらかといえば重要でない ■重要ではない ■わからない ■未回答

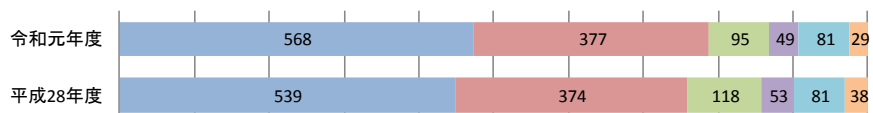
1. 身近な道路の整備



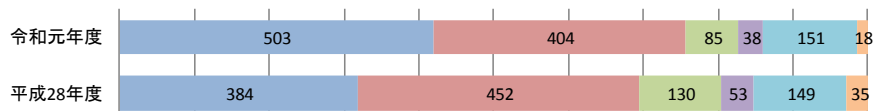
2. 歩道整備などバリアフリーに対する配慮



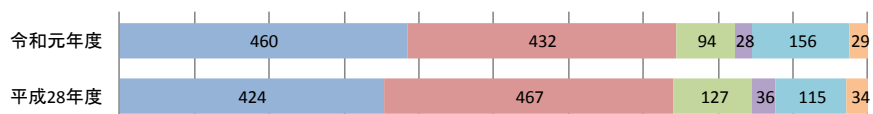
3. 高速道路など広域的な道路網の整備



4. 公共交通機関(バス)の利用しやすさ

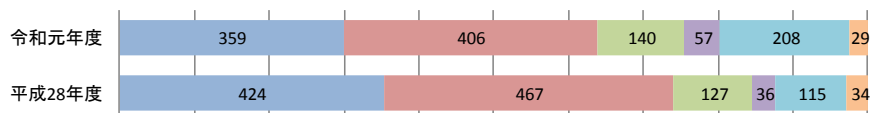


5. 公共交通機関(JR)の利用しやすさ(※)

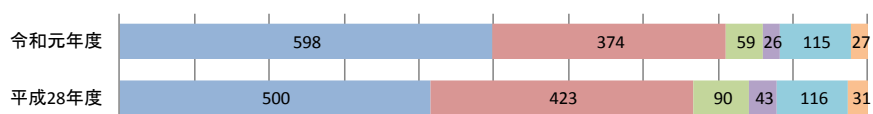


※平成28年度の設問では「公共交通機関(鉄道)の利用しやすさ」で記載

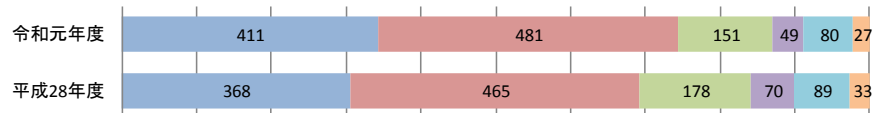
6. 公共交通機関(一畑電車)の利用しやすさ(※)



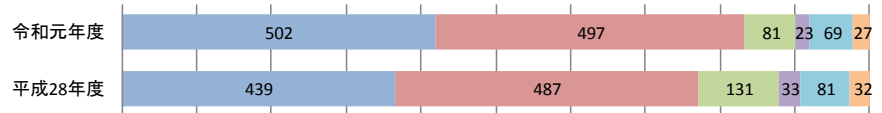
7. 出雲縁結び空港の利便性の向上



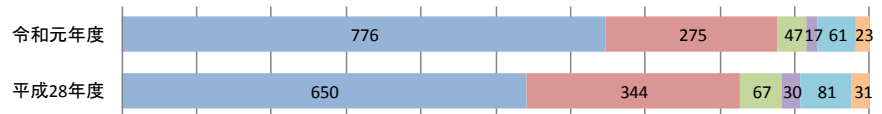
8. 中心市街地の整備



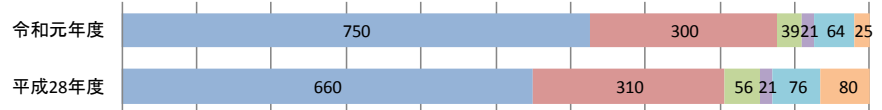
9. 周辺地域の整備



10. 水道の整備



11. 下水道の整備

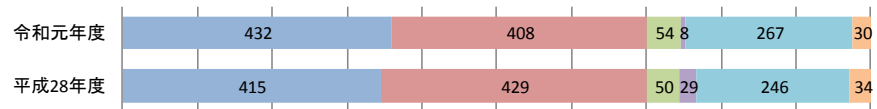


★産業・経済について

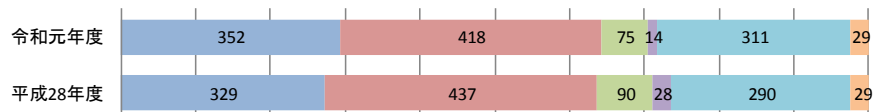
(単位：人)

■重要である ■どちらかといえば重要である ■どちらかといえば重要でない ■重要ではない ■わからない ■未回答

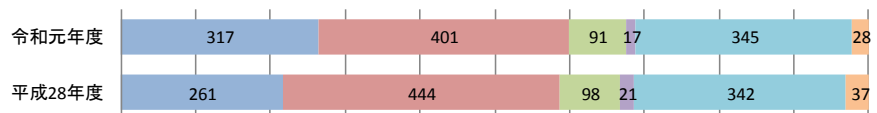
12. 農業振興の取組



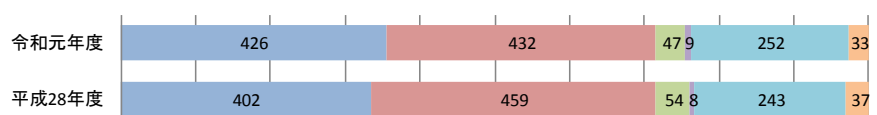
13. 林業振興の取組(森林整備・
松くい虫対策など)



14. 水産業振興の取組



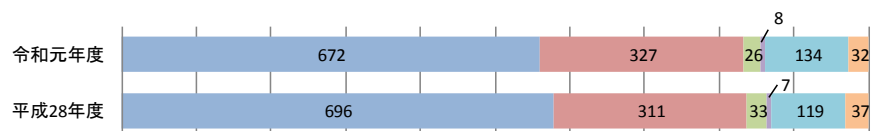
15. 商工業振興の取組



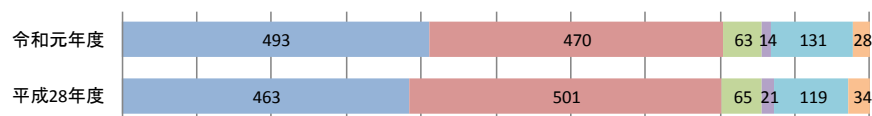
16. 企業誘致の取組



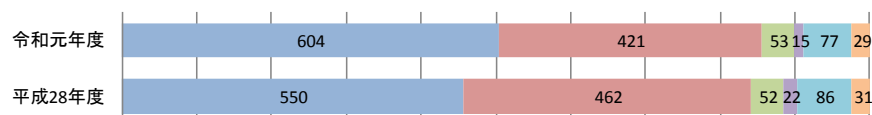
17. 就職支援の取組



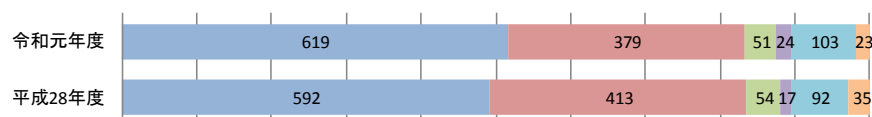
18. 特産品の振興



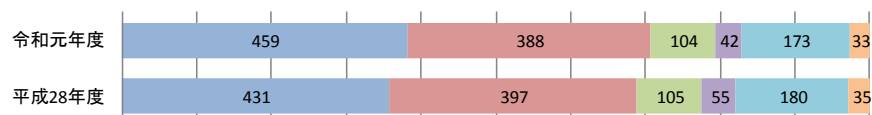
19. 観光施設の整備、活用



20. 観光客を誘客するための取組



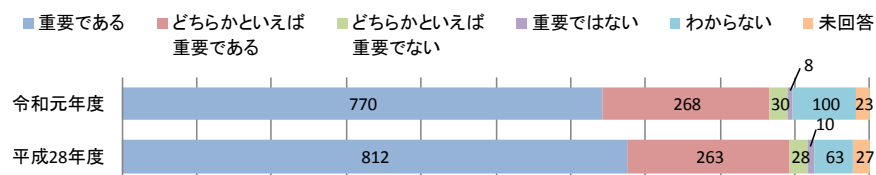
21. 新エネルギー(風力、バイオマス、太陽光など)の利用促進、普及



★教育・文化について

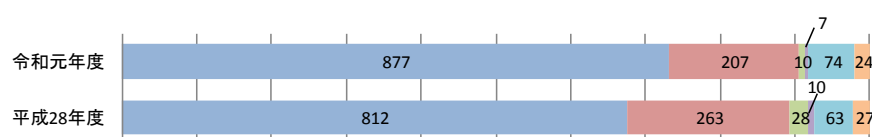
(単位：人)

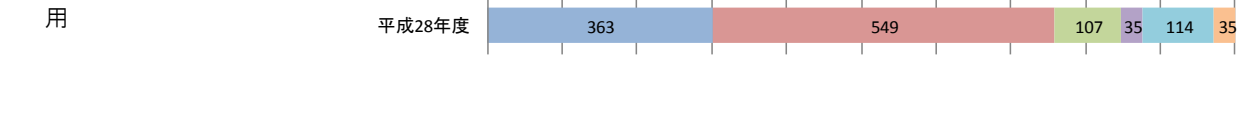
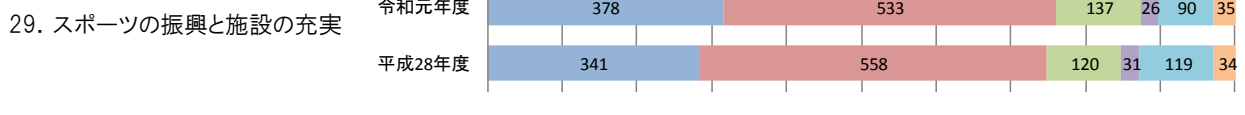
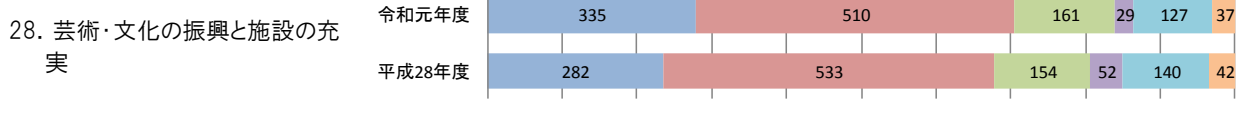
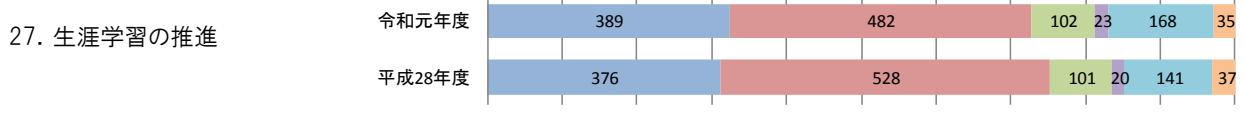
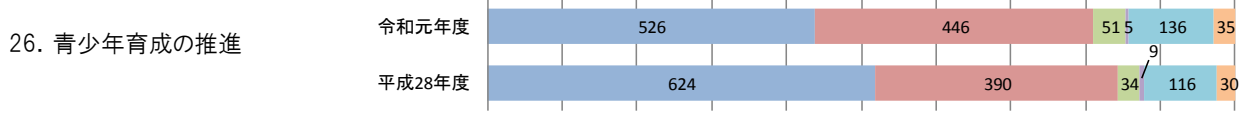
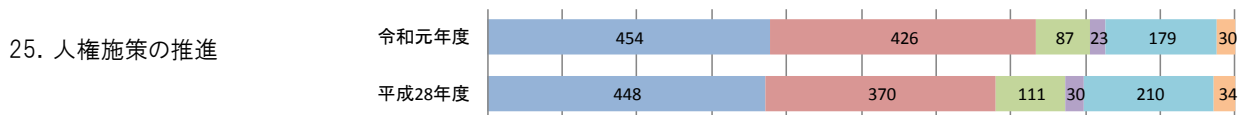
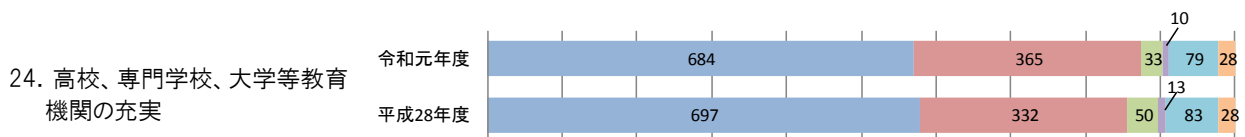
22. 幼児教育の充実(※)



※平成28年度の設問では「幼児教育(幼稚園)、義務教育(小中学校)の充実」で記載

23. 義務教育(小中学校)の充実(学力向上の取組、特別支援教育、不登校・いじめ対策、施設環境整備など)(※)



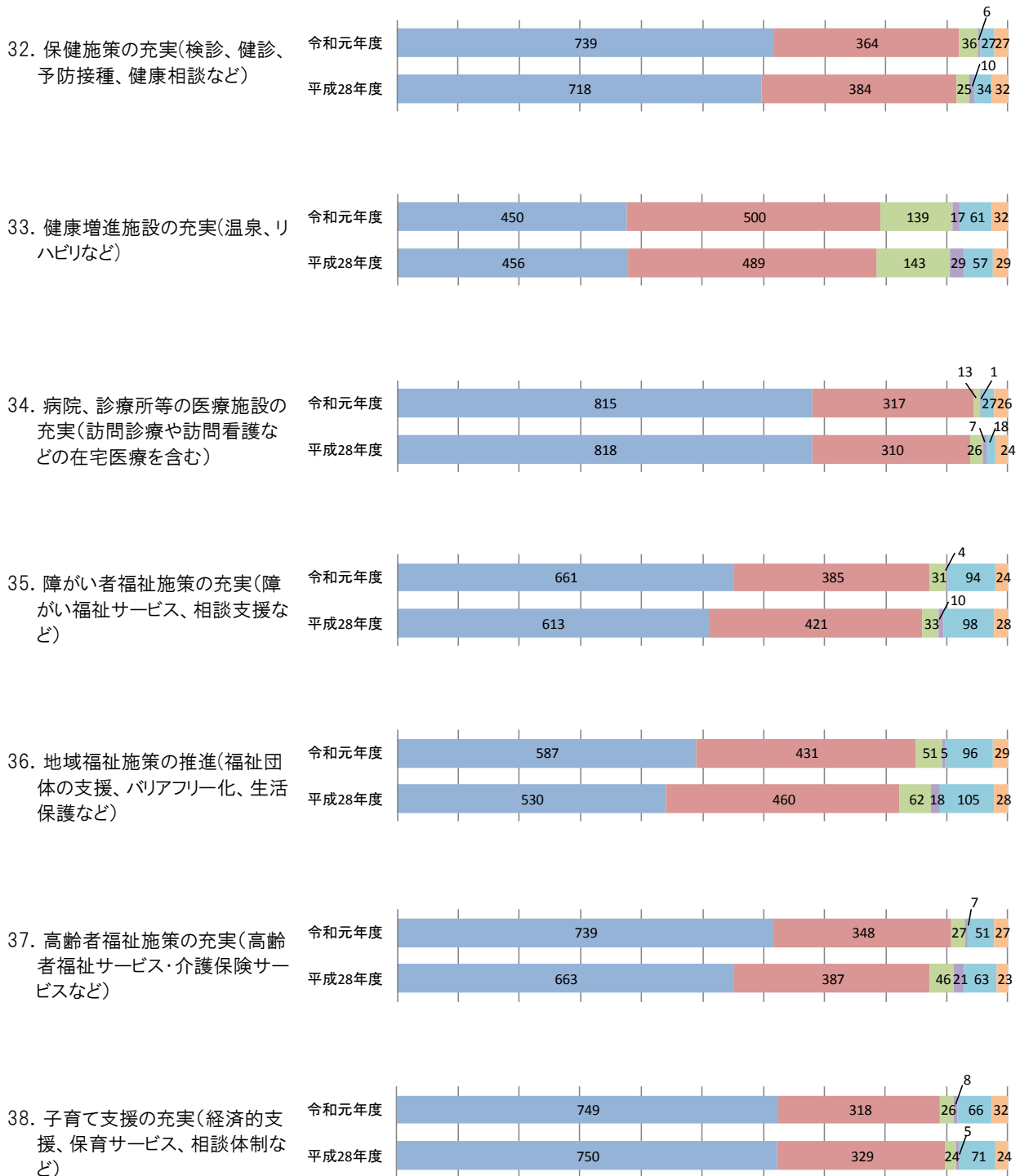


★健康・福祉について

(単位：人)

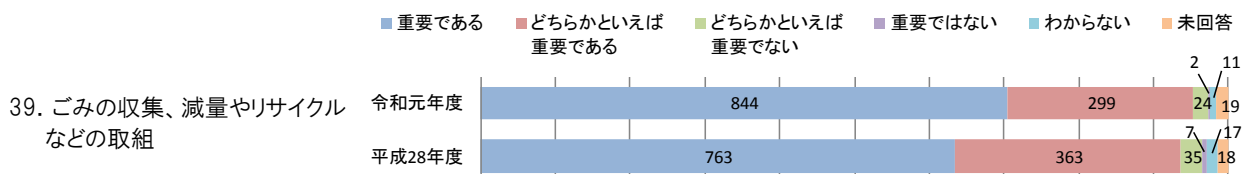
■重要である ■どちらかといえば重要である ■どちらかといえば重要でない ■重要ではない ■わからない ■未回答



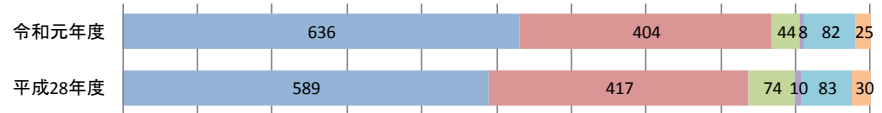


★生活環境について

(単位：人)



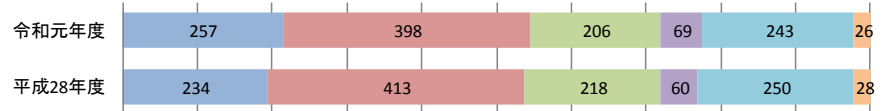
40. 環境の保全に関する取組(省エネ対策、地球温暖化対策など)



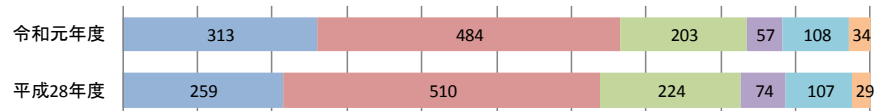
41. 公園、広場の整備



42. 市営住宅の整備



43. にぎわいや娯楽に関する魅力(祭り、イベント)



44. 情報通信基盤の整備(ケーブルテレビ、インターネット、携帯電話、有線放送など)

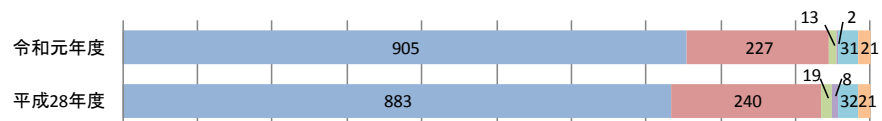


★安心・安全について

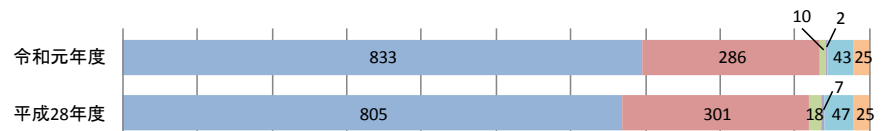
(単位：人)

■重要である ■どちらかといえば重要である ■どちらかといえば重要でない ■重要ではない ■わからない ■未回答

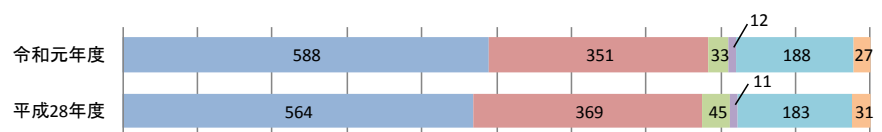
45. 消防、救急体制の充実・強化



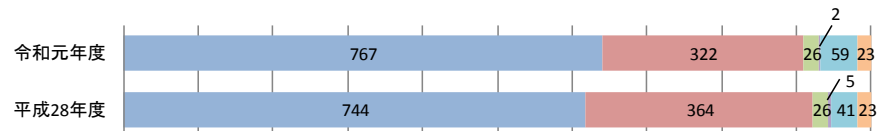
46. 防災体制の充実・強化



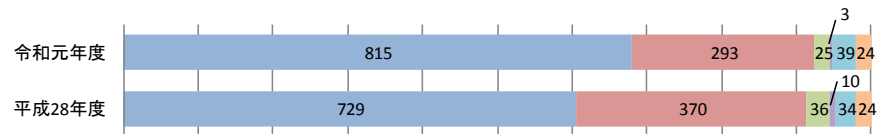
47. 治水治山事業の推進



48. 防犯に関する取組



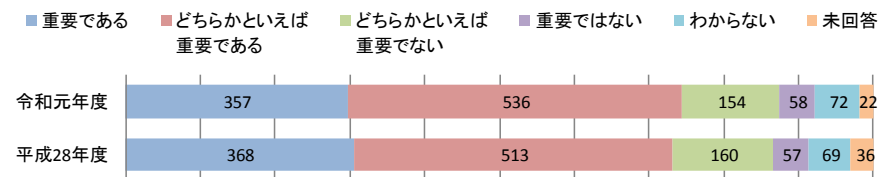
49. 交通安全対策の充実



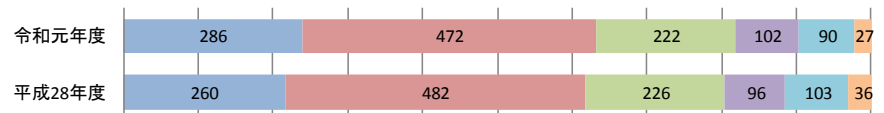
★まちづくり、行政サービスについて

(単位：人)

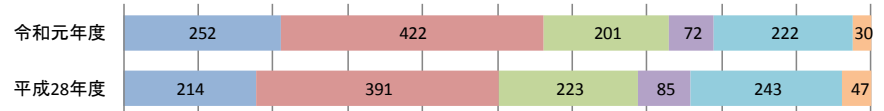
50. コミュニティ施設(コミュニティセンター、集会所など)の充実



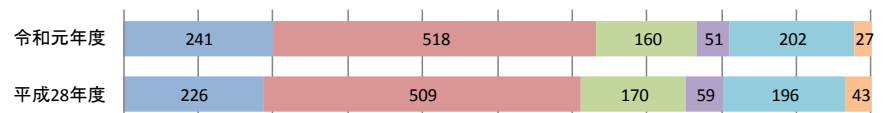
51. 町内会、自治会活動の充実



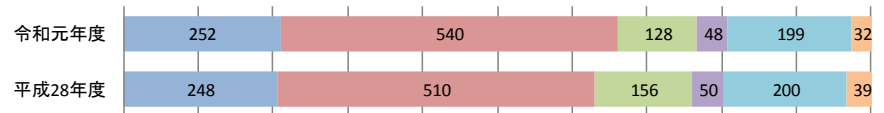
52. 男女共同参画の取組



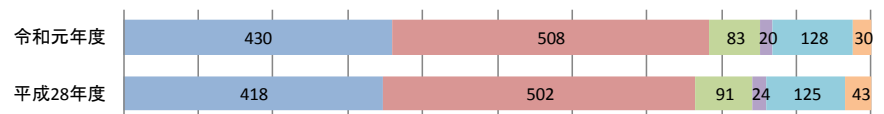
53. NPO、ボランティアなどの市民活動の充実



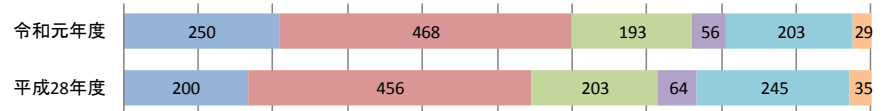
54. 市民のまちづくりへの参画



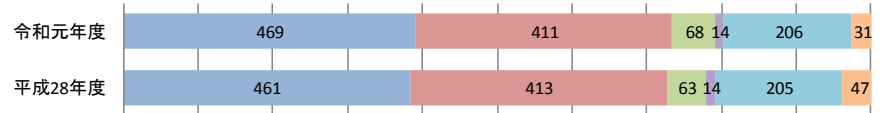
55. 市政に関する情報提供、情報公開



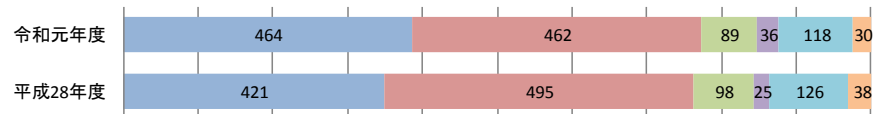
56. 国際交流の推進



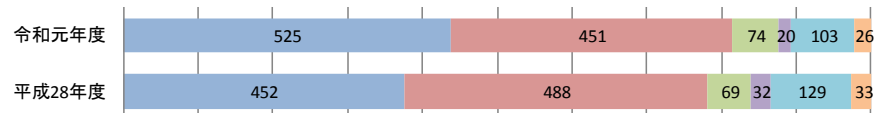
57. 行財政改革の推進



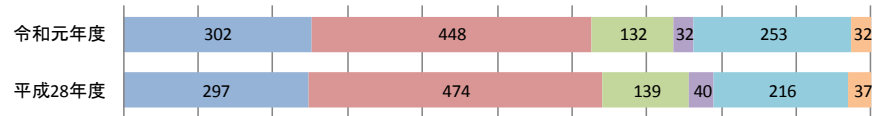
58. 出雲ブランド化の推進(地域の魅力情報発信)



59. 定住促進に関する取組(U・ターン、空き家活用など)



60. 他市町村との連携の推進(中海・宍道湖・大山圏域市長会の取組など)



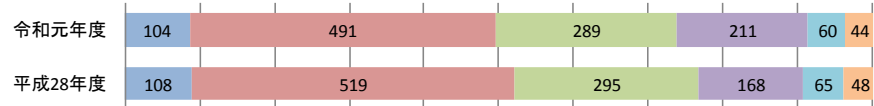
■満足度

★都市基盤・機能について

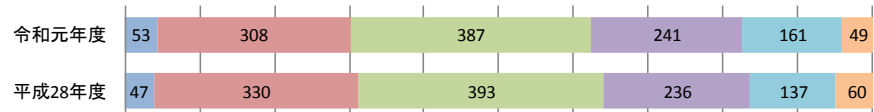
(単位：人)

■ 満足している ■ どちらかといえば満足している ■ どちらかといえば満足していない ■ 満足していない ■ わからない ■ 未回答

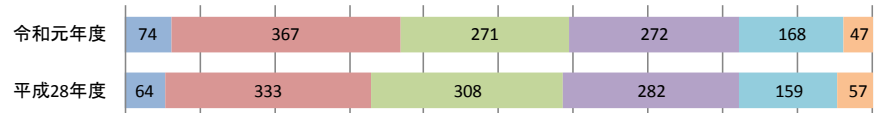
1. 身近な道路の整備



2. 歩道整備などバリアフリーに対する配慮



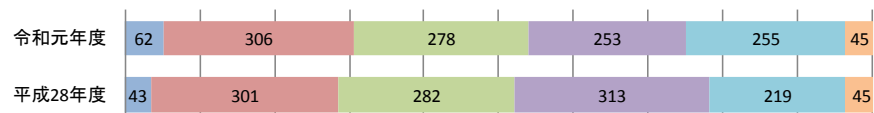
3. 高速道路など広域的な道路網の整備



4. 公共交通機関(バス)の利用しやすさ

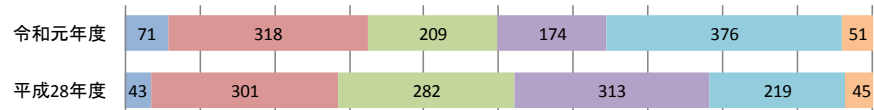


5. 公共交通機関(JR)の利用しやすさ(※)

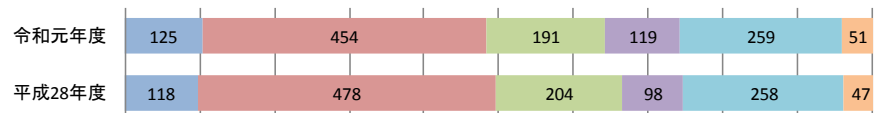


※平成28年度の設問では「公共交通機関(鉄道)の利用しやすさ」で記載

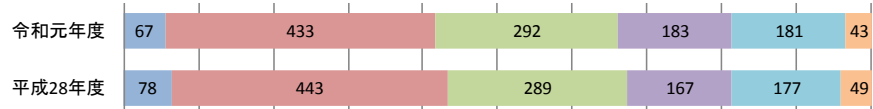
6. 公共交通機関(一畑電車)の利用しやすさ(※)



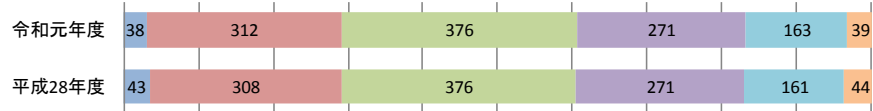
7. 出雲縁結び空港の利便性の向上



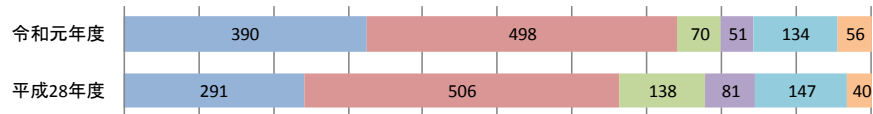
8. 中心市街地の整備



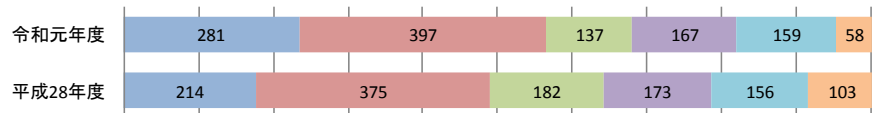
9. 周辺地域の整備



10. 水道の整備



11. 下水道の整備

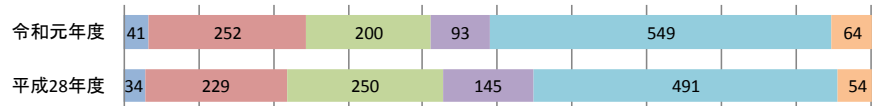


★産業・経済について

(単位：人)

■ 満足している ■ どちらかといえば満足している ■ どちらかといえば満足していない ■ 満足していない ■ わからない ■ 未回答

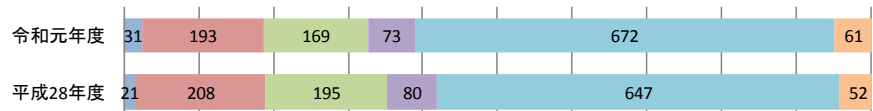
12. 農業振興の取組



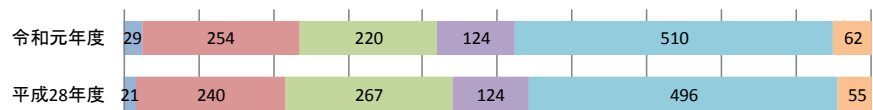
13. 林業振興の取組(森林整備・
松くい虫対策など)



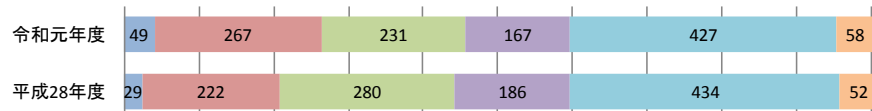
14. 水産業振興の取組



15. 商工業振興の取組



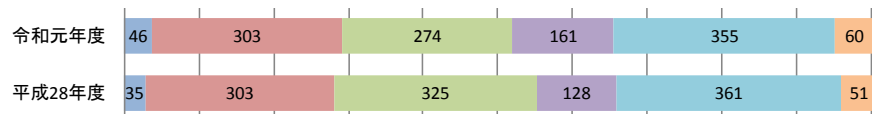
16. 企業誘致の取組



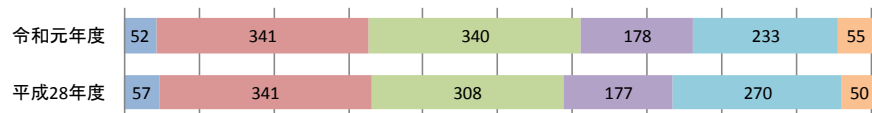
17. 就職支援の取組



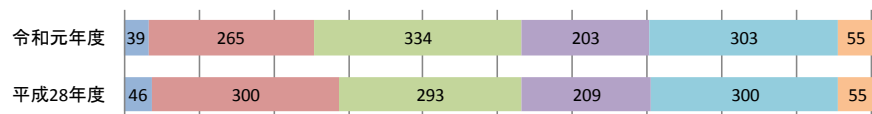
18. 特産品の振興



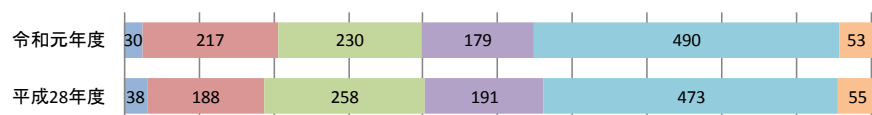
19. 観光施設の整備、活用



20. 観光客を誘客するための取組



21. 新エネルギー(風力、バイオマス、太陽光など)の利用促進、普及

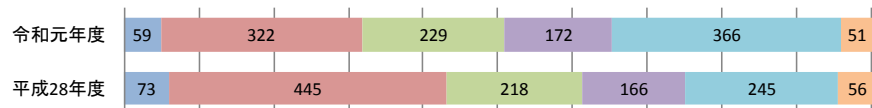


★教育・文化について

(単位：人)

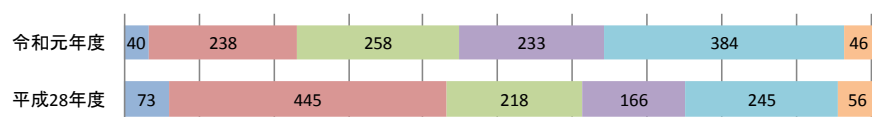
■ 満足している ■ どちらかといえば満足している ■ どちらかといえば満足していない ■ 満足していない ■ わからない ■ 未回答

22. 幼児教育の充実(※)

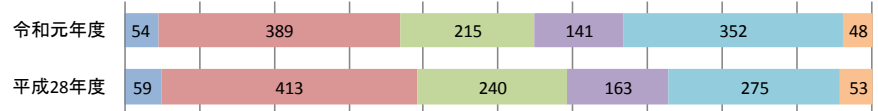


※平成28年度の設問では「幼児教育(幼稚園)、義務教育(小中学校)の充実」で記載

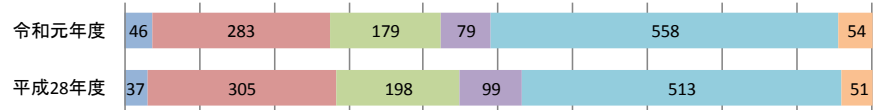
23. 義務教育(小中学校)の充実(学力向上の取組、特別支援教育、不登校・いじめ対策、施設環境整備など)(※)



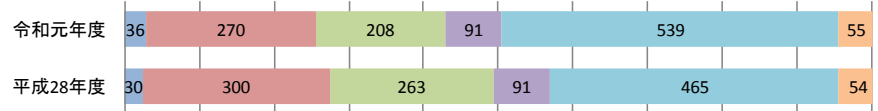
24. 高校、専門学校、大学等教育機関の充実



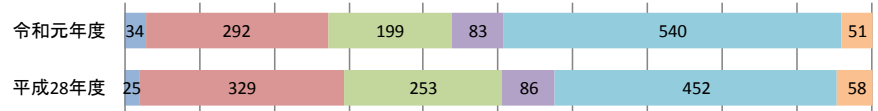
25. 人権施策の推進



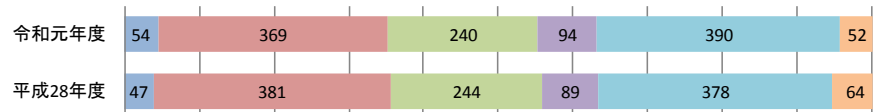
26. 青少年育成の推進



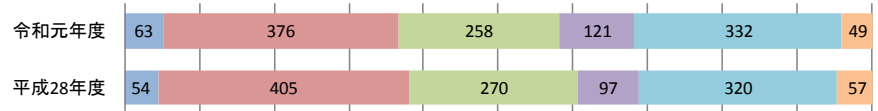
27. 生涯学習の推進



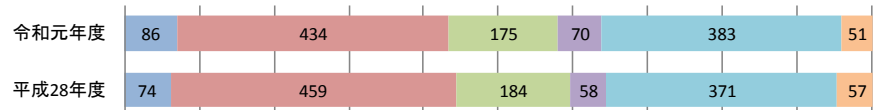
28. 芸術・文化の振興と施設の充実



29. スポーツの振興と施設の充実



30. 歴史資源や文化財の保護、活用

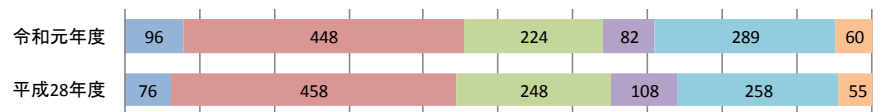


★健康・福祉について

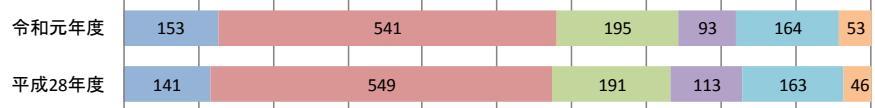
(単位：人)

■ 満足している ■ どちらかといえば満足している ■ どちらかといえば満足していない ■ 満足していない ■ わからない ■ 未回答

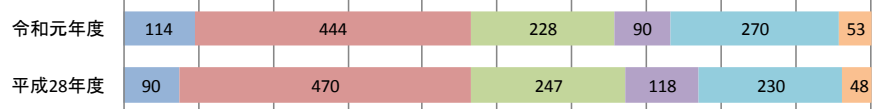
31. 健康づくりの推進



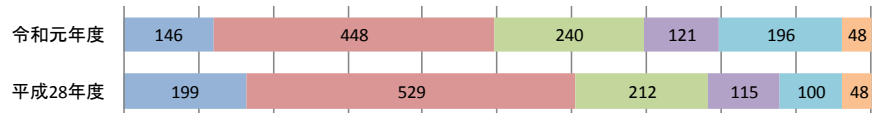
32. 保健施策の充実(検診、健診、
予防接種、健康相談など)



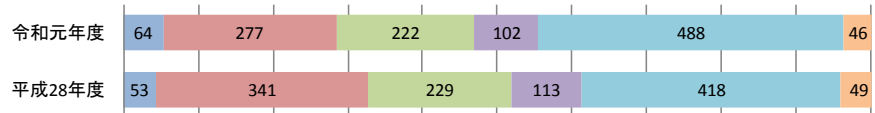
33. 健康増進施設の充実(温泉、リ
ハビリなど)



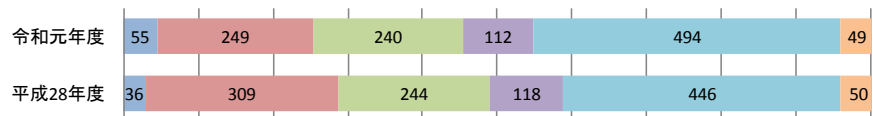
34. 病院、診療所等の医療施設の
充実(訪問診療や訪問看護な
どの在宅医療を含む)



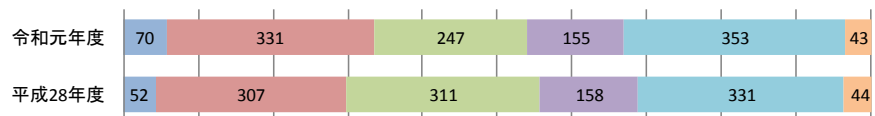
35. 障がい者福祉施策の充実(障
がい福祉サービス、相談支援な
ど)



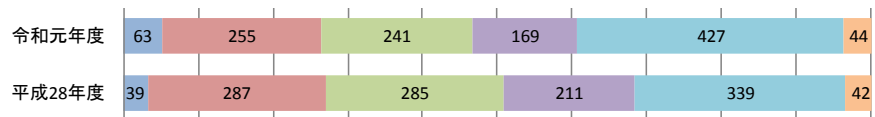
36. 地域福祉施策の推進(福祉団
体の支援、バリアフリー化、生活
保護など)



37. 高齢者福祉施策の充実(高齢
者福祉サービス・介護保険サー
ビスなど)



38. 子育て支援の充実(経済的支
援、保育サービス、相談体制な
ど)

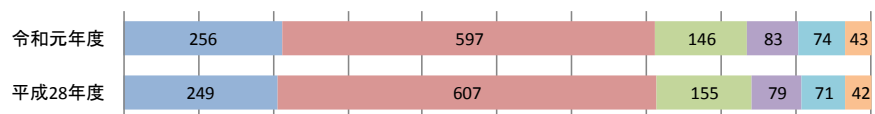


★生活環境について

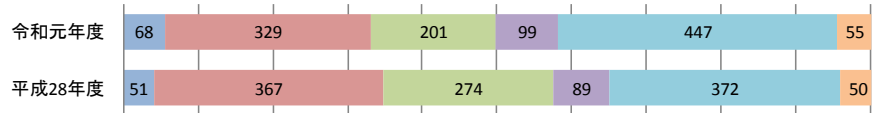
(単位：人)

■ 満足している ■ どちらかといえば満足している ■ どちらかといえば満足していない ■ 満足していない ■ わからない ■ 未回答

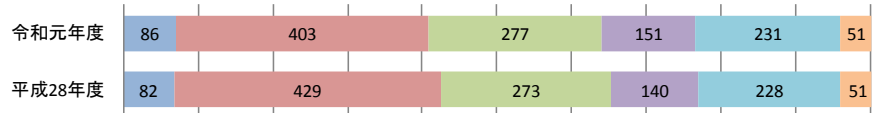
39. ごみの収集、減量やリサイクル
などの取組



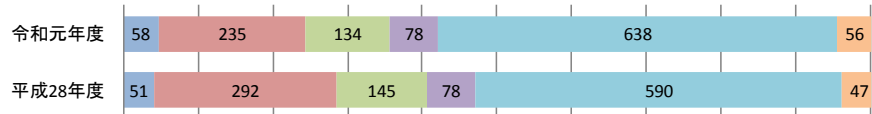
40. 環境の保全に関する取組(省エネ対策、地球温暖化対策など)



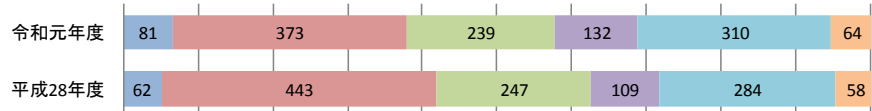
41. 公園、広場の整備



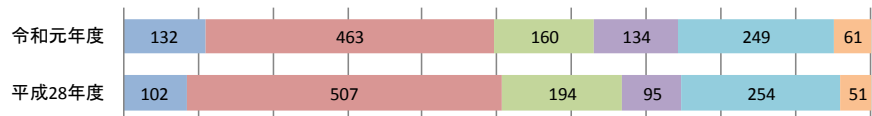
42. 市営住宅の整備



43. にぎわいや娯楽に関する魅力(祭り、イベント)



44. 情報通信基盤の整備(ケーブルテレビ、インターネット、携帯電話、有線放送など)

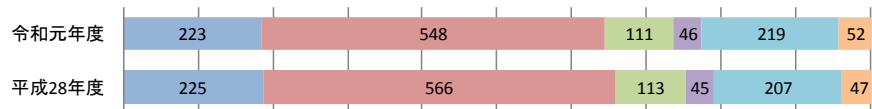


★安心・安全について

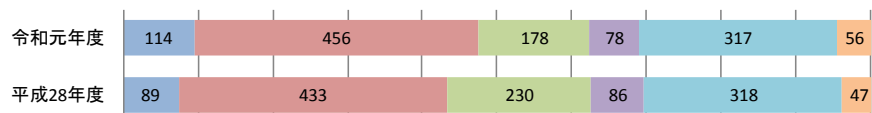
(単位：人)

■ 満足している ■ どちらかといえば満足している ■ どちらかといえば満足していない ■ 満足していない ■ わからない ■ 未回答

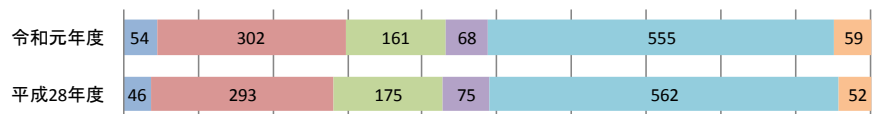
45. 消防、救急体制の充実・強化



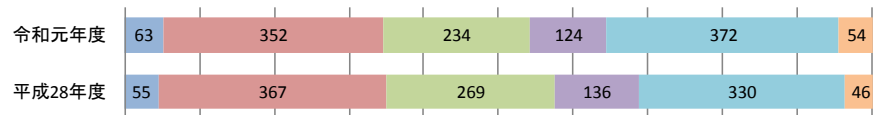
46. 防災体制の充実・強化



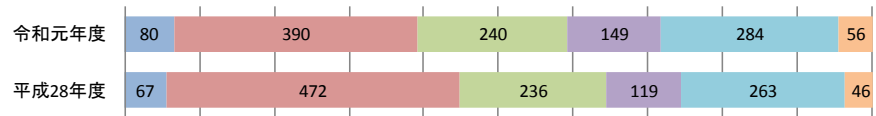
47. 治水治山事業の推進



48. 防犯に関する取組



49. 交通安全対策の充実

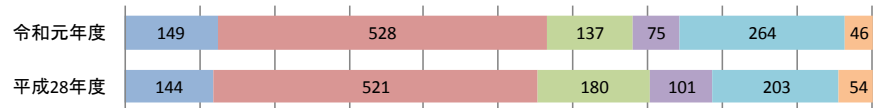


★まちづくり、行政サービスについて

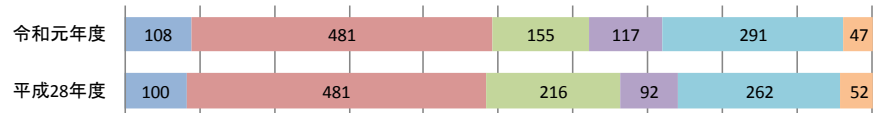
(単位：人)

■ 満足している ■ どちらかといえば満足している ■ どちらかといえば満足していない ■ 満足していない ■ わからない ■ 未回答

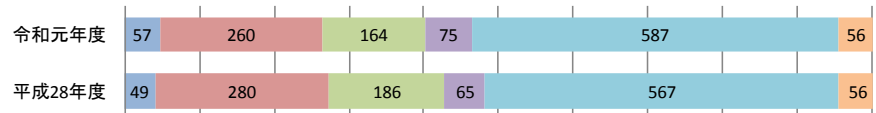
50. コミュニティ施設(コミュニティセンター、集会所など)の充実



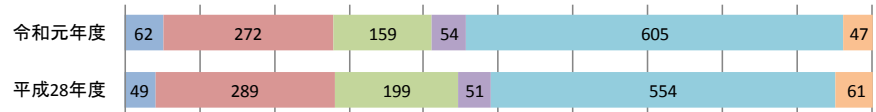
51. 町内会、自治会活動の充実



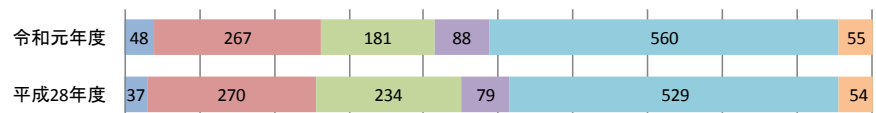
52. 男女共同参画の取組



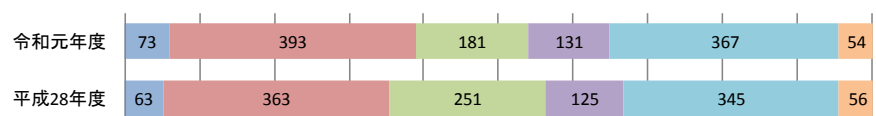
53. NPO、ボランティアなどの市民活動の充実



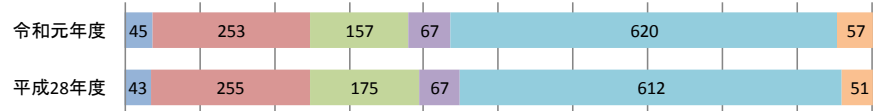
54. 市民のまちづくりへの参画



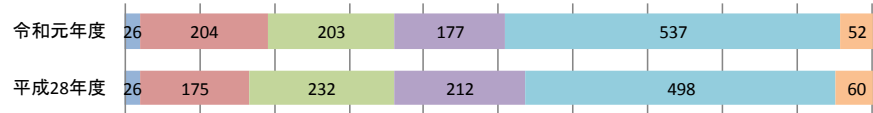
55. 市政に関する情報提供、情報公開



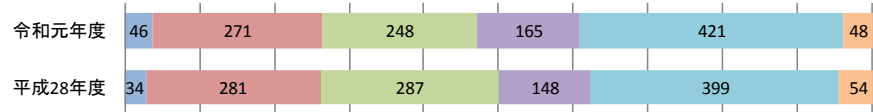
56. 国際交流の推進



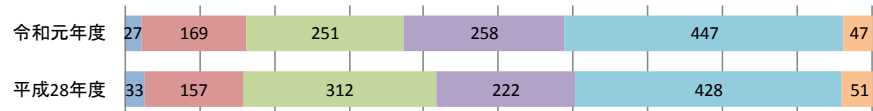
57. 行財政改革の推進



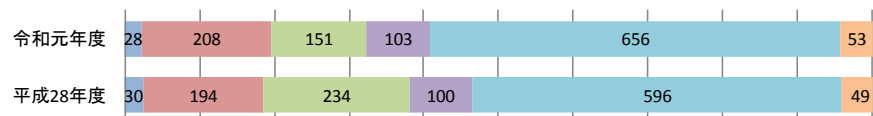
58. 出雲ブランド化の推進(地域の魅力情報発信)



59. 定住促進に関する取組(U・ターン、空き家活用など)

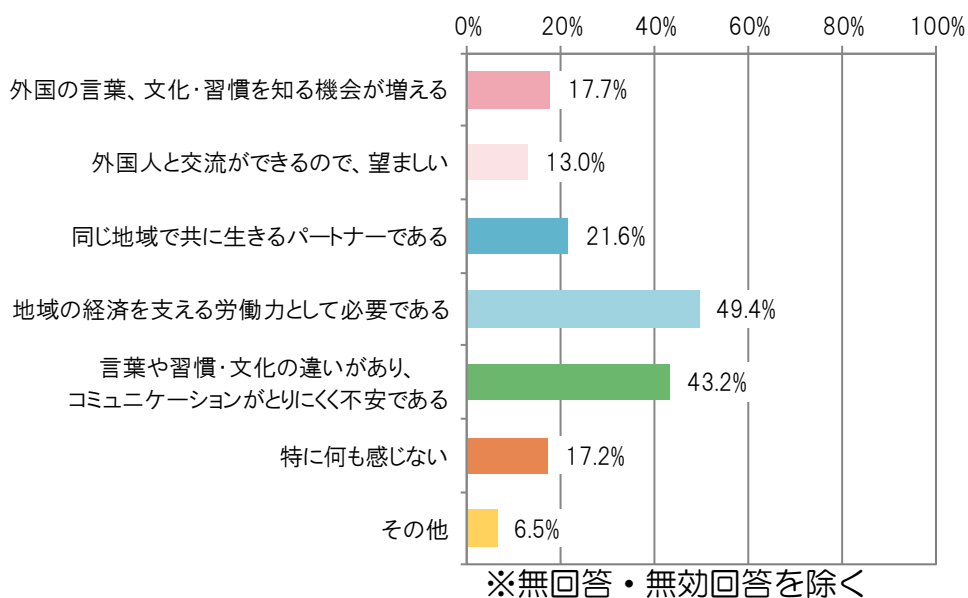


60. 他市町村との連携の推進(中海・穴道湖・大山圏域市長会の取組など)

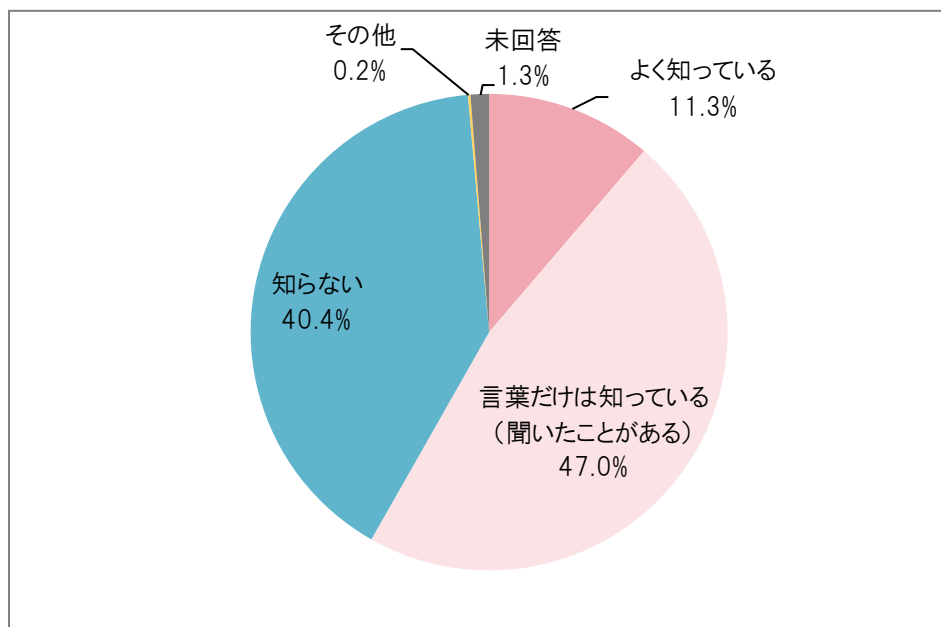


●多文化共生について

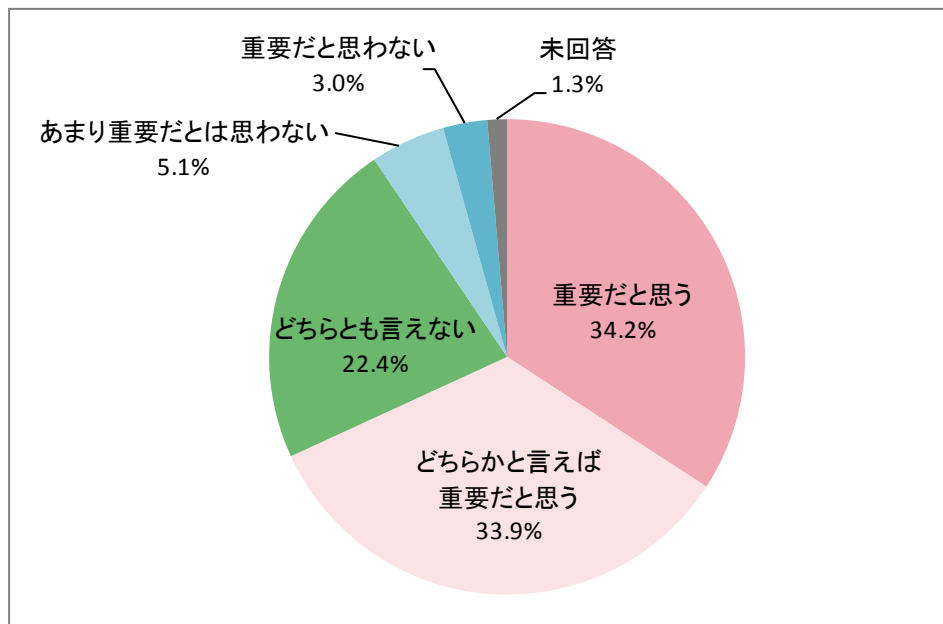
①出雲市には、多くの外国人住民が暮らしています。あなたは、そのことについてどう感じていますか。（複数回答）



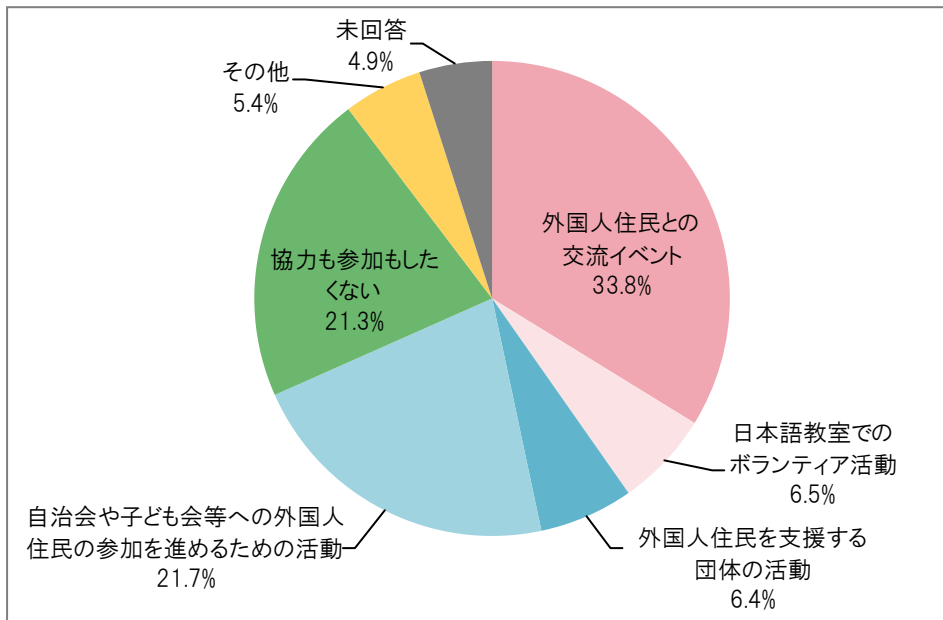
②あなたは「多文化共生」という言葉・考え方を聞いたことがありますか。



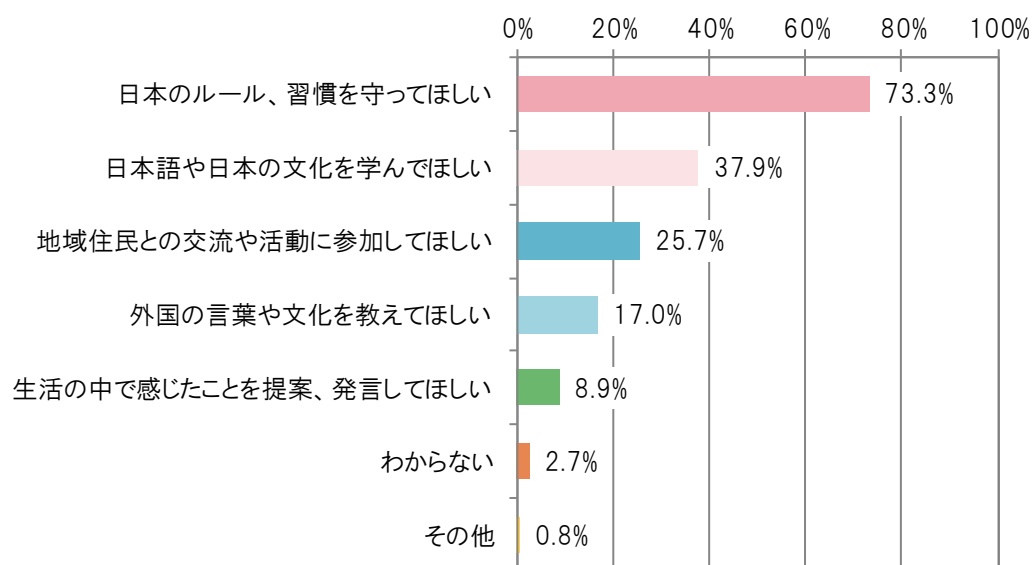
③あなたは、外国人住民と互いに認め合い、共に暮らす多文化共生社会の実現についてどう思いますか。



④あなたは多文化共生を進めるうえで、どのような活動であれば協力し、参加したいと思いますか。（日本人のみ回答）

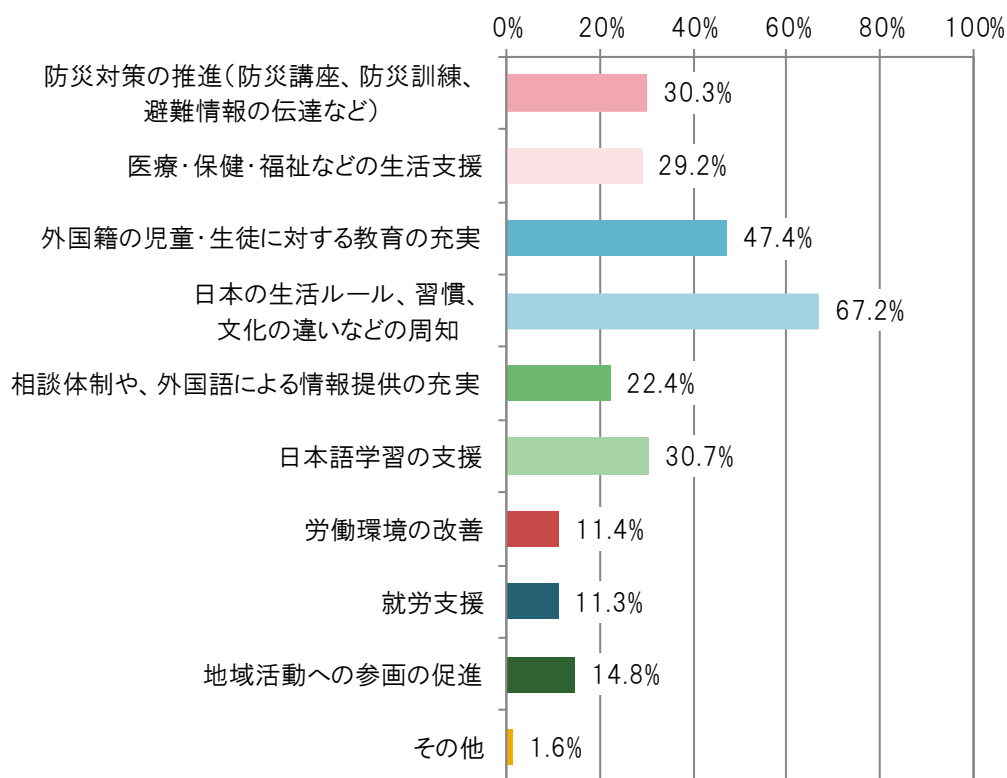


⑤あなたは多文化共生を進めるうえで、外国人住民にどのようなことを期待しますか。
（日本人のみ回答）（複数回答）



※無回答・無効回答を除く

⑥今後、多文化共生を進めるうえで、外国人住民を対象にどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）



※無回答・無効回答を除く

●施策の評価方法について

■重要度と満足度のスコア化

各施策の重要度、満足度について、アンケート調査結果を点数化することによって評価。

【計算方法】

①重要度の点数化

[（重要であると回答した数）×2 点]+[（どちらかといえば重要であると回答した数）×1 点]+[（どちらかといえば重要でない）×-1 点]+[（重要でないと回答した数）×-2 点]+[わからないと回答した数×0 点]

$$\frac{\text{[有効回答数} \times 2]}{\text{[有効回答数} \times 2]} \times 100$$

②満足度の点数化

[（満足していると回答した数）×2 点]+[（どちらかといえば満足していると回答した数）×1 点]+[（どちらかといえば満足していない）×-1 点]+[（満足していないと回答した数）×-2 点]+[わからないと回答した数×0 点]

$$\frac{\text{[有効回答数} \times 2]}{\text{[有効回答数} \times 2]} \times 100$$

* 算出した数値を 100 点換算する。

* 「重要（満足）である」は評価が高いので 2 点、「どちらかといえば重要（満足）である」はある程度評価が高いので 1 点、「どちらかといえば重要（満足）でない」はある程度評価が低いので-1 点、「重要（満足）でない」は評価が低いので-2 点、わからないは 0 点と 5 段階評価し、等間隔で数値化しました。

* $-100 \leq \text{点数} \leq 100$

全員が重要（満足）であると答えた場合 100 点、全員が重要（満足）でないと答えた場合、-100 点となります。

* 有効回答数＝総回収数－（未回答＋無効回答）

■二ーズ度の評価

（二ーズ度）＝（重要度）－（満足度）

* 上記の計算方法で重要度と満足度を点数化し、重要度から満足度を引いた値を二ーズ度としました。

●重要度と満足度のスコア化、ニーズ度

施策・取組	今回(令和元年度)						前回 (平成28年度)	
	重要度		満足度		ニーズ度 (重要度－満足度)		ニーズ度 (重要度－満足度)	
	点数	(高い順)	点数	(低い順)	点数	(高い順)	点数	(高い順)
全施策の平均点	57.2	－	0.1	－	57.2	－	55.1	－
都市基盤・機能について <項目ごとの平均点>	58.8	3	△ 3.2	2	62.1	4	59.2	4
1. 身近な道路の整備	65.5	22	△ 0.5	29	66.0	23	56.0	32
2. 歩道整備などバリアフリーに対する配慮	70.4	17	△ 19.8	5	90.2	3	84.4	3
3. 高速道路など広域的な道路網の整備	56.4	30	△ 13.0	11	69.4	18	70.6	17
4. 公共交通機関(バス)の利用しやすさ	52.9	34	△ 37.6	1	90.5	2	73.5	9
5. 公共交通機関(JR)の利用しやすさ	51.4	41	△ 15.3	8	66.7	22	70.2	18
6. 公共交通機関(一畑電車)の利用しやすさ	37.2	52	△ 4.2	21	41.4	46	70.2	18
7. 出雲縁結び空港の利便性の向上	62.2	25	12.0	50	50.3	37	39.6	45
8. 中心市街地の整備	45.0	47	△ 3.9	23	48.9	40	38.8	46
9. 周辺地域の整備	58.6	28	△ 22.8	3	81.5	8	72.5	12
10. 水道の整備	74.2	12	48.4	60	25.9	56	30.8	50
11. 下水道の整備	73.2	13	21.4	56	51.8	34	55.7	33
産業・経済について <項目ごとの平均点>	54.8	5	△ 9.8	1	64.6	3	66.5	1
12. 農業振興の取組	51.4	39	△ 2.3	26	53.7	33	59.8	29
13. 林業振興の取組(森林整備・松くい虫対策など)	43.5	48	△ 6.8	18	50.3	36	53.8	34
14. 水産業振興の取組	38.9	51	△ 2.6	25	41.5	45	40.0	44
15. 商工業振興の取組	52.3	38	△ 6.9	17	59.1	30	61.3	25
16. 企業誘致の取組	55.4	31	△ 8.8	15	64.2	25	73.3	10
17. 就職支援の取組	69.8	18	△ 19.8	4	89.6	4	100.5	1
18. 特産品の振興	58.3	29	△ 8.8	14	67.1	20	65.5	21
19. 観光施設の整備、活用	66.1	20	△ 11.0	12	77.0	13	71.5	14
20. 観光客を誘客するための取組	64.5	23	△ 17.4	7	81.9	7	78.5	5
21. 新エネルギー(風力、バイオマス、太陽光など)の利用促進、普及	47.9	43	△ 13.6	9	61.5	28	61.1	27
教育・文化について <項目ごとの平均点>	58.6	4	△ 1.0	3	59.6	5	53.5	5
22. 幼児教育の充実	74.9	11	△ 5.8	19	80.7	9	76.4	8
23.義務教育(小中学校)の充実(学力向上の取組、特別支援教育、不登校・いじめ対策、施設環境整備など)	82.4	4	△ 17.6	6	100.0	1	76.4	8
24. 高校、専門学校、大学等教育機関の充実	71.7	14	0.0	33	71.7	15	71.7	13
25. 人権施策の推進	51.4	40	1.7	38	49.7	38	47.6	38
26. 青少年育成の推進	61.7	26	△ 2.1	27	63.8	26	71.3	15
27. 生涯学習の推進	47.8	44	△ 0.2	30	48.0	42	50.9	36
28. 芸術・文化の振興と施設の充実	41.4	50	2.1	39	39.2	50	33.8	48
29. スポーツの振興と施設の充実	47.3	45	0.1	34	47.2	43	43.1	42
30. 歴史資源や文化財の保護、活用	48.8	42	12.7	51	36.2	51	33.6	49

※1

※2

施策・取組	今回（令和元年度）						前回 （平成28年度）	
	重要度		満足度		ニーズ度 （重要度－満足度）		ニーズ度 （重要度－満足度）	
	点数	（高い順）	点数	（低い順）	点数	（高い順）	点数	（高い順）
健康・福祉について ＜項目ごとの平均点＞	71.4	2	4.5	5	66.9	1	65.8	2
31. 健康づくりの推進	70.6	16	11.1	47	59.6	29	62.8	24
32. 保健施策の充実（検診、健診、予防接種、健康相談など）	76.5	8	20.3	55	56.2	32	57.9	31
33. 健康増進施設の充実（温泉、リハビリなど）	52.6	35	11.5	49	41.1	47	43.9	40
34. 病院、診療所等の医療施設の充実（訪問診療や訪問看護などの在宅医療を含む）	82.4	5	11.2	48	71.1	16	59.8	28
35. 障がい者福祉施策の充実（障がい福祉サービス、相談支援など）	71.0	15	△ 0.9	28	71.9	14	68.2	20
36. 地域福祉施策の推進（福祉団体の支援、バリアフリー化、生活保護など）	66.0	21	△ 4.6	20	70.5	17	64.8	22
37. 高齢者福祉施策の充実（高齢者福祉サービス・介護保険サービスなど）	76.2	9	△ 3.7	24	79.9	11	78.2	6
38. 子育て支援の充実（経済的支援、保育サービス、相談体制など）	76.0	10	△ 8.6	16	84.6	5	90.9	2
生活環境について ＜項目ごとの平均点＞	51.5	6	9.1	6	42.4	6	36.2	7
39. ごみの収集、減量やリサイクルなどの取組	83.0	2	34.5	58	48.5	41	43.5	41
40. 環境の保全に関する取組（省エネ対策、地球温暖化対策など）	68.8	19	2.9	43	65.9	24	63.2	23
41. 公園、広場の整備	46.5	46	△ 0.2	32	46.7	44	41.0	43
42. 市営住宅の整備	24.2	60	2.7	42	21.5	58	19.1	56
43. にぎわいや娯楽に関する魅力（祭り、イベント）	34.0	55	1.4	37	32.6	53	23.5	53
44. 情報通信基盤の整備（ケーブルテレビ、インターネット、携帯電話、有線放送など）	52.4	37	13.1	52	39.2	49	27.1	51
安心・安全について ＜項目ごとの平均点＞	77.8	1	11.0	7	66.8	2	65.3	3
45. 消防、救急体制の充実・強化	85.7	1	34.5	59	51.3	35	48.2	37
46. 防災体制の充実・強化	82.5	3	15.3	54	67.2	19	70.7	16
47. 治水治山事業の推進	62.7	24	5.0	45	57.8	31	58.4	30
48. 防犯に関する取組	77.6	7	△ 0.2	31	77.8	12	79.7	4
49. 交通安全対策の充実	80.5	6	0.5	36	80.0	10	69.4	19
まちづくり、行政サービスについて ＜項目ごとの平均点＞	40.3	7	0.1	4	40.1	7	40.0	6
50. コミュニティ施設（コミュニティセンター、集会所など）の充実	41.6	49	23.4	57	18.3	59	23.2	54
51. 町内会、自治会活動の充実	26.4	58	13.4	53	13.0	60	12.8	58
52. 男女共同参画の取組	24.9	59	2.6	41	22.2	57	15.7	57
53. NPO、ボランティアなどの市民活動の充実	31.5	56	5.6	46	25.9	55	25.2	52
54. 市民のまちづくりへの参画	35.1	54	0.3	35	34.9	52	34.3	47
55. 市政に関する情報提供、情報公開	53.3	33	4.2	44	49.1	39	52.2	35
56. 国際交流の推進	28.3	57	2.3	40	26.1	54	21.1	55
57. 行財政改革の推進	53.6	32	△ 13.1	10	66.8	21	72.6	11
58. 出雲ブランド化の推進（地域の魅力情報発信）	52.6	36	△ 9.3	13	61.9	27	61.2	26
59. 定住促進に関する取組（U・Iターン、空き家活用など）	59.1	27	△ 23.6	2	82.7	6	76.9	7
60. 他市町村との連携の推進（中海・宍道湖・大山園域市長会の取組など）	36.7	53	△ 4.1	22	40.7	48	44.2	39

※ 水色の網かけ部分は、各重要度、満足度、ニーズ度において、上位10位を示すものである

◎一部の施策・取組内容を前回調査より変更
前回調査（H28）

※1 公共交通機関（鉄道）の利用しやすさ

今回調査（R1）

5.公共交通機関（JR）の利用しやすさ

6.公共交通機関（一畑電車）の利用しやすさ

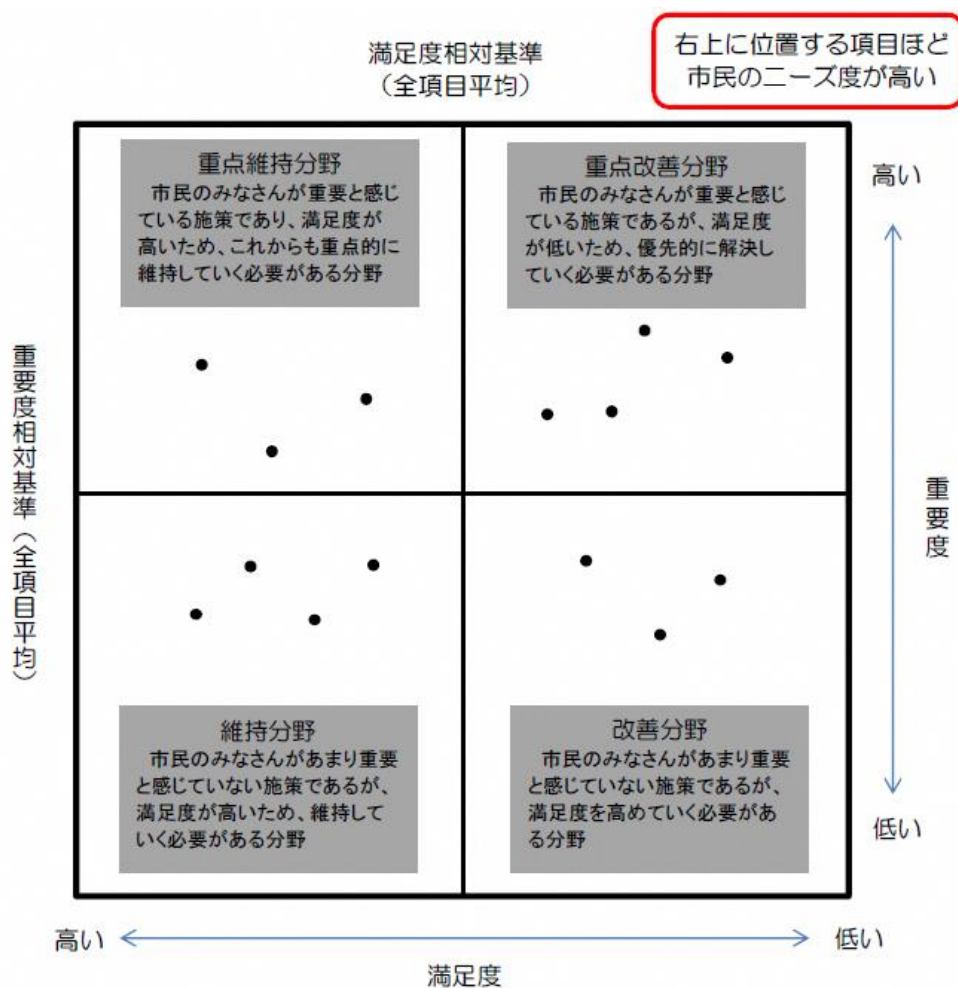
※2 幼児教育（幼稚園）、義務教育（小中学校）の充実

22.幼児教育の充実

23.義務教育（小中学校）の充実（学力向上の取組、特別支援教育、
不登校・いじめ対策、施設環境整備など）

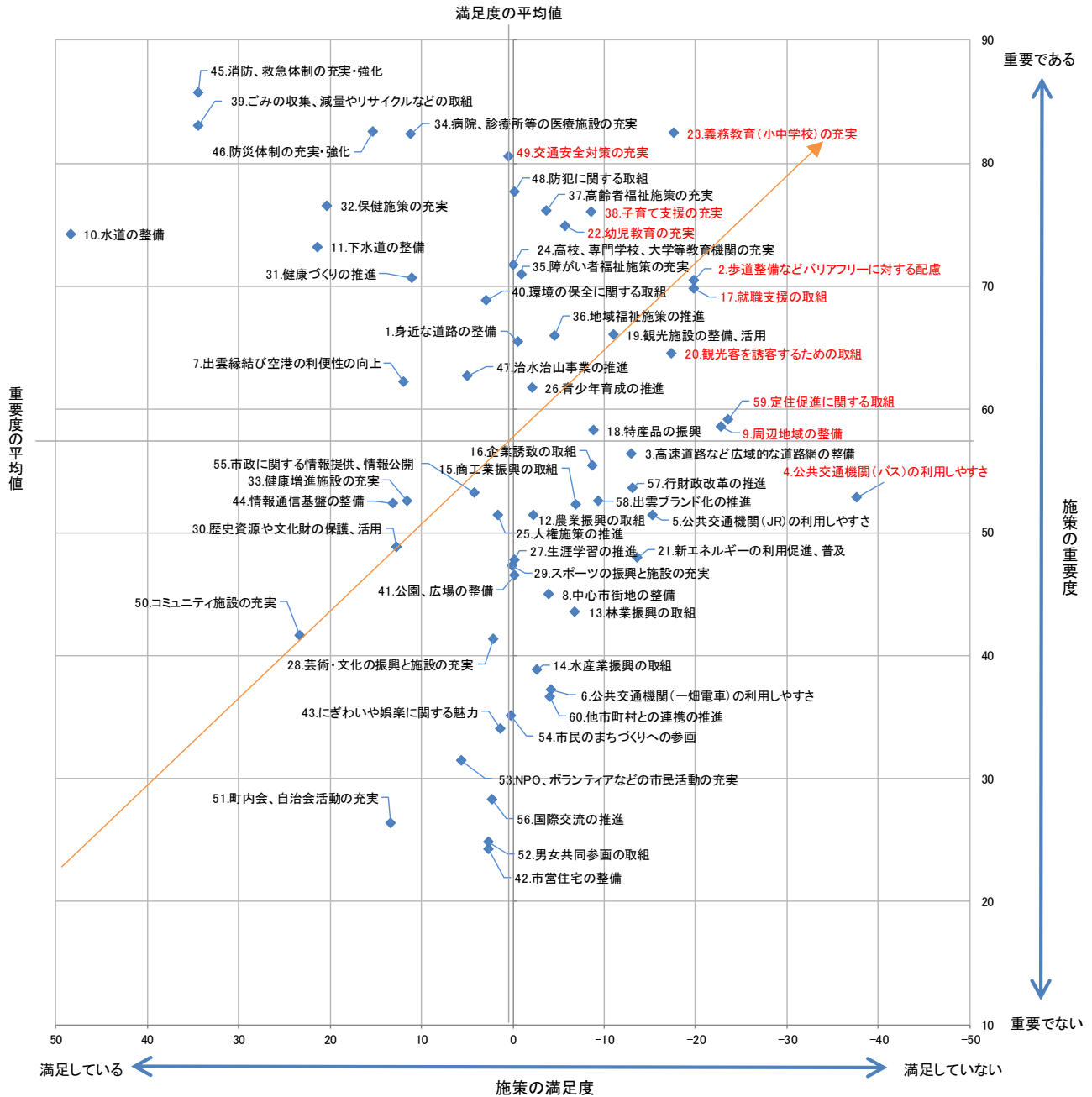
●ニーズマップ (p.28~p.29)

- * 横軸に満足度、縦軸に重要度をとって、散布図をつくり、満足度、重要度ともにその平均値のところに、縦軸と横軸をおくと、4つの象限が出来ます。
- * ニーズマップに落とし込むことで、ニーズの特性、度合いを読み取ることができます。
ニーズ度は、右上に位置する項目ほど高くなります。
- * 4つの象限でみると、ニーズ度は①右上→②右下と左上→③左下の順となりますが、相関的に傾向をとらえるものですので、ニーズ度の優先順位はニーズ度の点数での順位を見て、又は次の重要度と満足度のそれぞれのグラフを見て判断します。



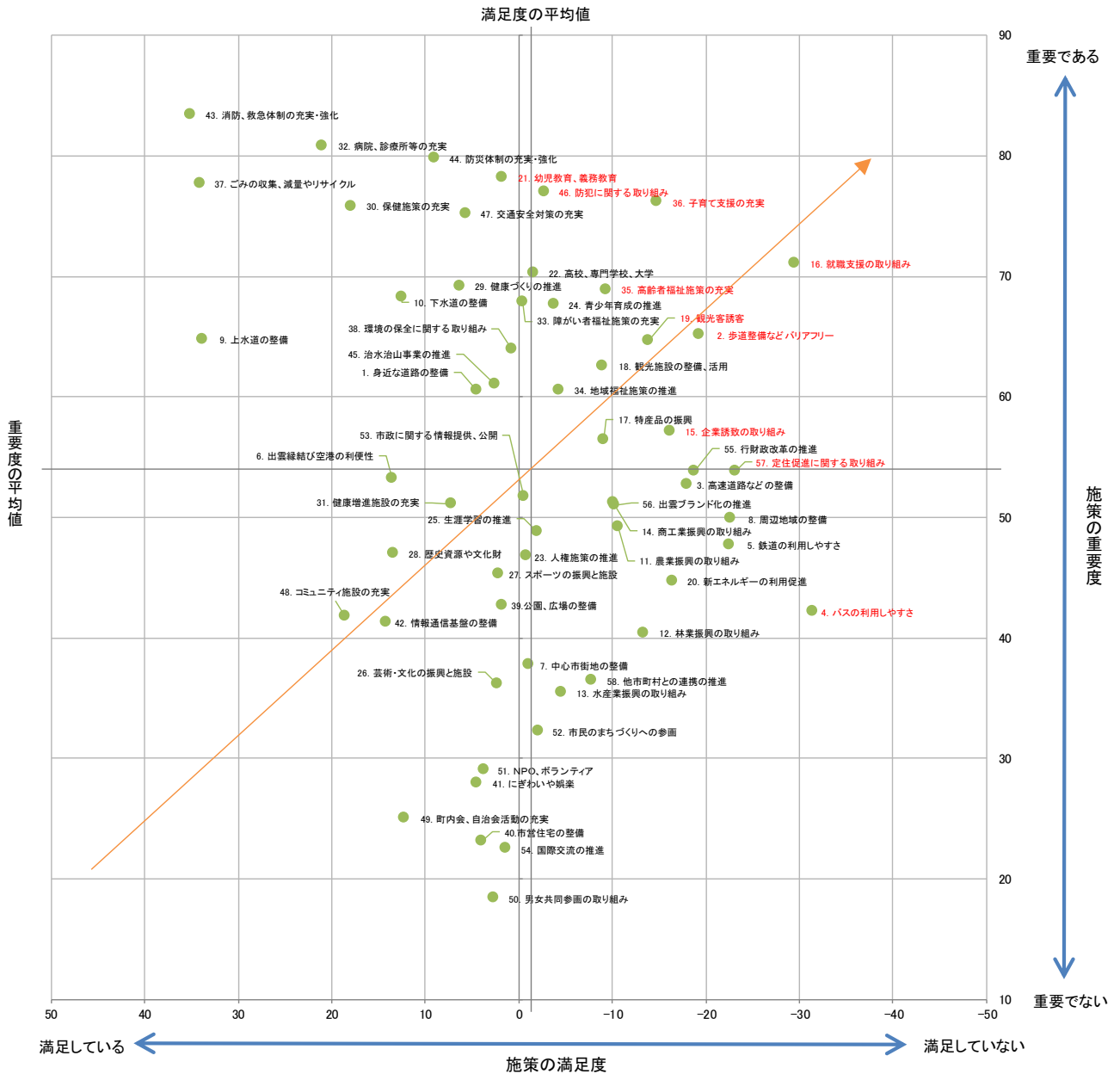
■今回のニーズマップ（令和元年度）

右上にあるものほど優先的に取り組むべき施策
（ニーズ度のベスト10の施策を赤字）



■前回のニーズマップ（平成 28 年度）

右上にあるものほど優先的に取り組むべき施策
(ニーズ度のベスト 10 の施策を赤字)



総 括

本調査は、出雲市が行っている施策・取組について、市民の皆様が満足しているか、何を重要施策と考えているかを把握するとともに、出雲市への定住意向や多文化共生に対する市民の意識を把握することを目的に実施しました。なお、満足度・重要度の調査に係る施策・取組の項目は、前回調査（平成 28 年）と比較するため、2 つの項目（p.26 参照）を除き、前回同様としました。

1. ニーズ度について

最もニーズ度の高い分野は、「健康・福祉」分野で、次いで「安心・安全」分野となっています。この 2 分野は重要度の高さとの相関関係を反映してニーズ度も高くなっています。

次いでニーズ度が高い分野は、「産業・経済」分野、「都市基盤・機能」分野であり、こちらは満足度の低さとの相関関係を反映してニーズ度が高くなっています。

（1）重要度について

最も重要度が高い分野は「安心・安全」分野で、次いで「健康・福祉」分野が高く、前回・前々回調査と同様の結果となりました。この 2 分野で、重要度上位 10 項目のうち 8 項目を占めています。

（2）満足度について

最も満足度が高い分野は「安心・安全」分野で、次いで「生活環境」分野、「健康・福祉」分野が上位を占め、前回・前々回調査と同様の結果となりました。

一方、満足度が最も低い分野は「産業・経済」分野、次いで「都市基盤・機能」分野が低くなっています。満足度下位項目 10 項目のうち、7 項目をこの 2 分野が占めています。

2. 住みやすさ・定住志向について

「住みやすい」又は「まあまあ住みやすい」と感じる人の割合は 86.5%であり、前回調査（87.0%）より 0.5 ポイント低くなっています。一方、「住みにくい」又は「あまり住みやすくない」と感じる人の割合は、2.1 ポイント高くなっています。

「住み続けたい」と感じる人の割合は 83.0%であり、前回調査（83.5%）より 0.5 ポイント低くなっています。

3. 多文化共生について

- （1）「多くの外国人住民が住んでいることについてどう感じていますか」との問いに対し、「地域の経済を支える労働力として必要である」という回答が最も多く、次いで「言葉や習慣・文化の違いがあり、コミュニケーションがとりにくく不安である」

が多くありました。

- (2)「多文化共生という言葉・考え方を聞いたことがありますか」との問いに対し、「良く知っている」又は「言葉だけは知っている（聞いたことがある）」と回答した方は6割弱を占め、4割の方は「知らない」という回答でした。
- (3)「多文化共生社会の実現についてどう思いますか」との問いに対し、「重要だと思う」又は「どちらかと言えば重要だと思う」と回答した方は7割弱を占め、「重要だと思わない」又は「あまり重要だとは思わない」と回答した方は1割を下回りました。
- (4)「多文化共生を進めるうえで、どのような活動であれば協力・参加したいと思いますか」との問いに対し、約 7 割の方が『「外国人住民との交流イベント」など何かしらの活動に参加・協力したい』と回答しています。
- (5)「多文化共生を進めるうえで、外国人住民にどのようなことを期待しますか」との問いに対し、「日本のルール、習慣を守ってほしい」との回答が最も多く、次いで「日本語や日本の文化を学んでほしい」、「地域住民との交流や活動に参加してほしい」との回答が多くありました。
- (6)「今後多文化共生を進めるうえで、外国人住民を対象にどのような取組に力を入れるべきだと思いますか」との問いに対し、「日本の生活ルール、習慣、文化の違いなどの周知」との回答が最も多く、次いで「外国籍の児童・生徒に対する教育の充実」、「日本語学習の支援」が多くありました。

【資料編】

(1) 重要度のグラフ (p.33～p.35)

重要度について、点数化したものを棒グラフで表し、各施策を比較しています。

(2) 満足度のグラフ (p.36～p.38)

満足度について、点数化したものを棒グラフで表し、各施策を比較しています。

(3) 分野ごとのニーズマップ経年変化図 (p.39～p.45)

今回調査結果を「◆」印で表し、前回（H28）調査結果を「●」印で表し、経年変化の状況を分野ごとにニーズマップで表現しています。

(4) 地域別のニーズマップ (p.46～p.52)

市内7地域ごとにニーズマップを作成し、各地域の住民ニーズをニーズマップで表現しています。

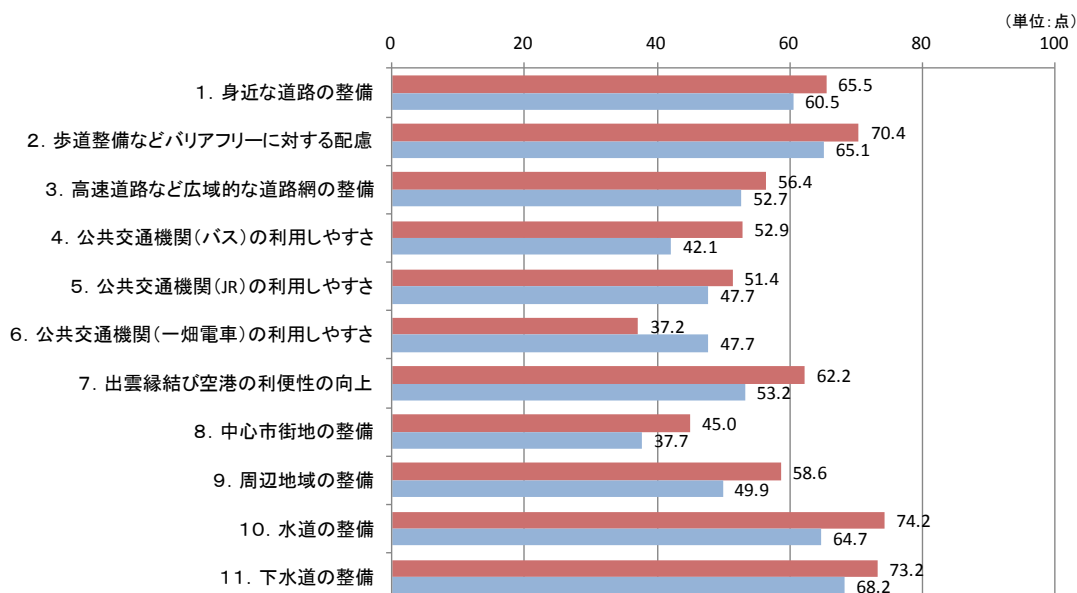
(5) 年齢階層別のニーズマップ (p.53～p.58)

回答者の年齢を6つの階層に分け、ニーズマップを作成し、年齢階層別のニーズをニーズマップで表現しています。

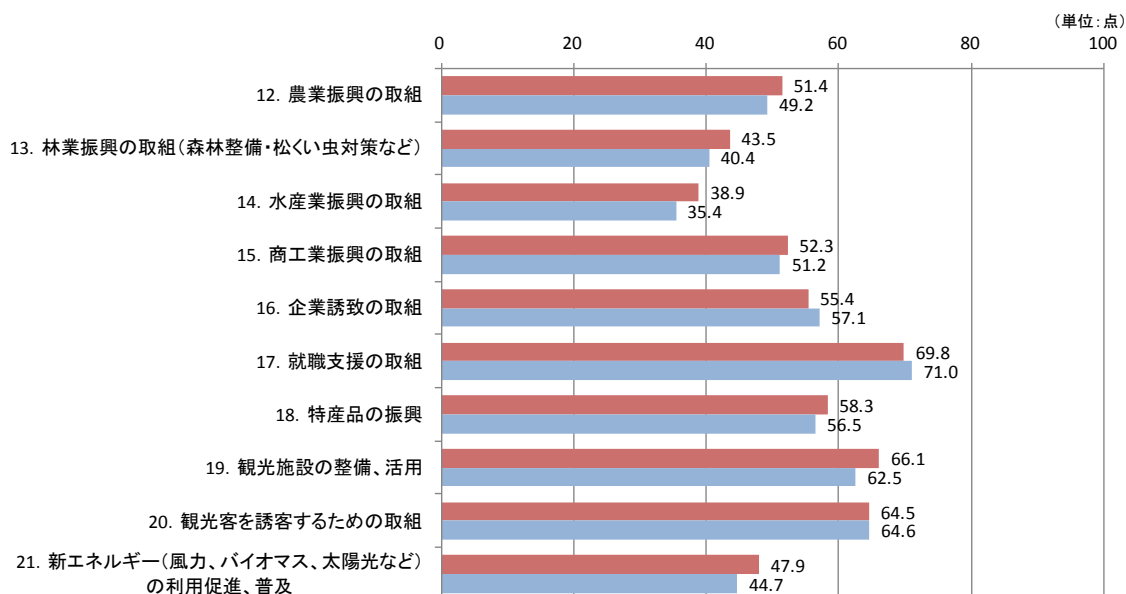
(1) 重要度のグラフ

今回 (R1) — 前回 (H28) —

★都市基盤・機能について

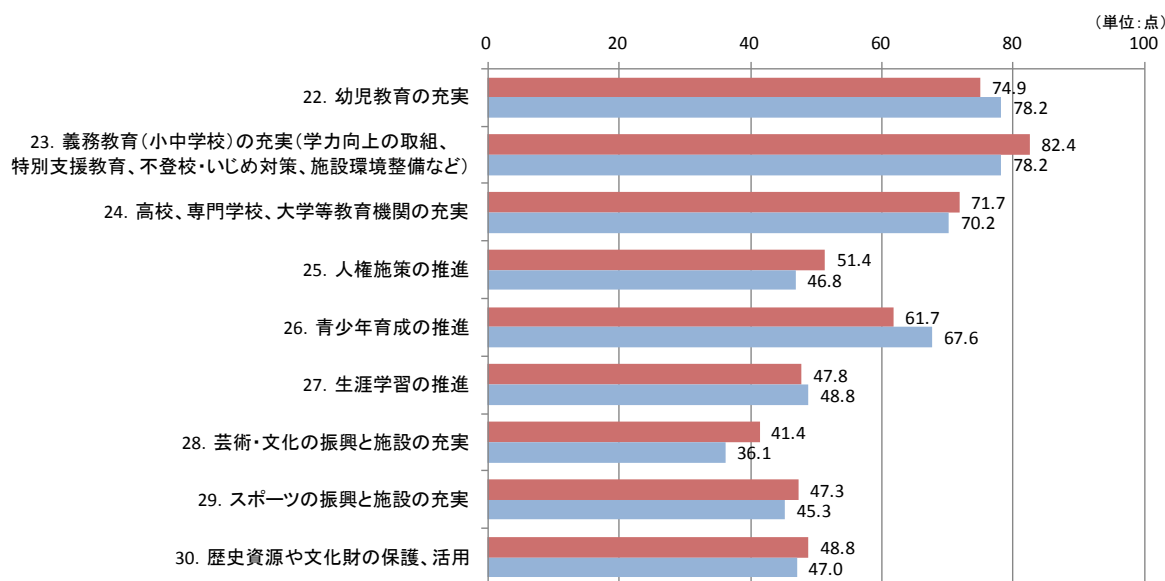


★産業・経済について

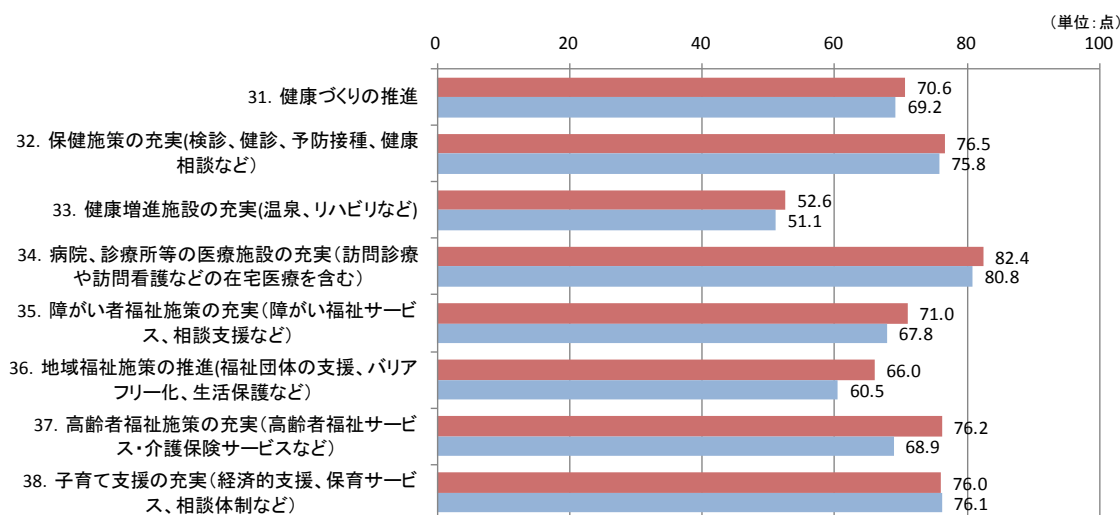


今回 (R1) 前回 (H28)

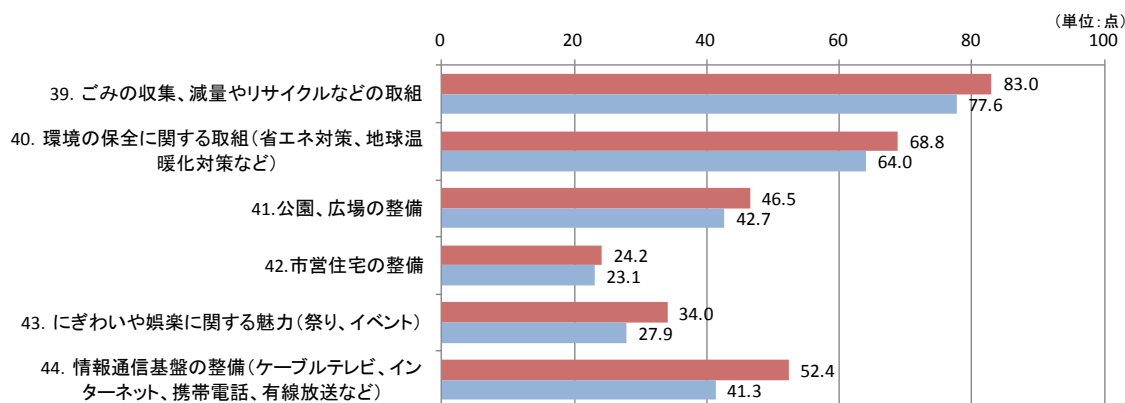
★教育・文化について



★健康・福祉について

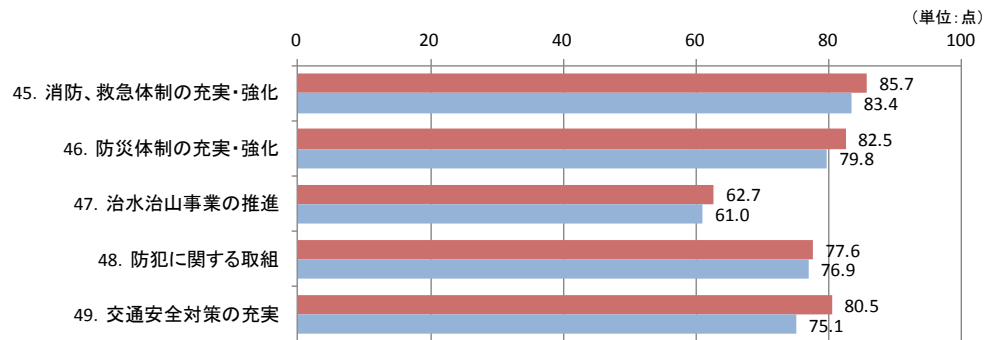


★生活環境について

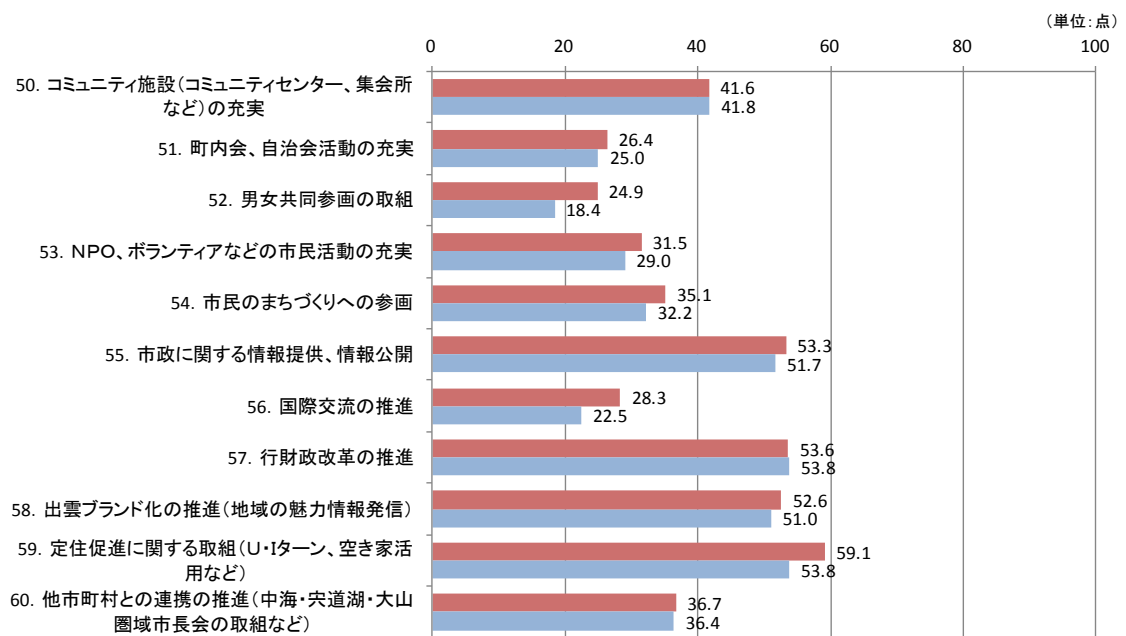


今回 (R1) — 前回 (H28) —

★安心・安全について



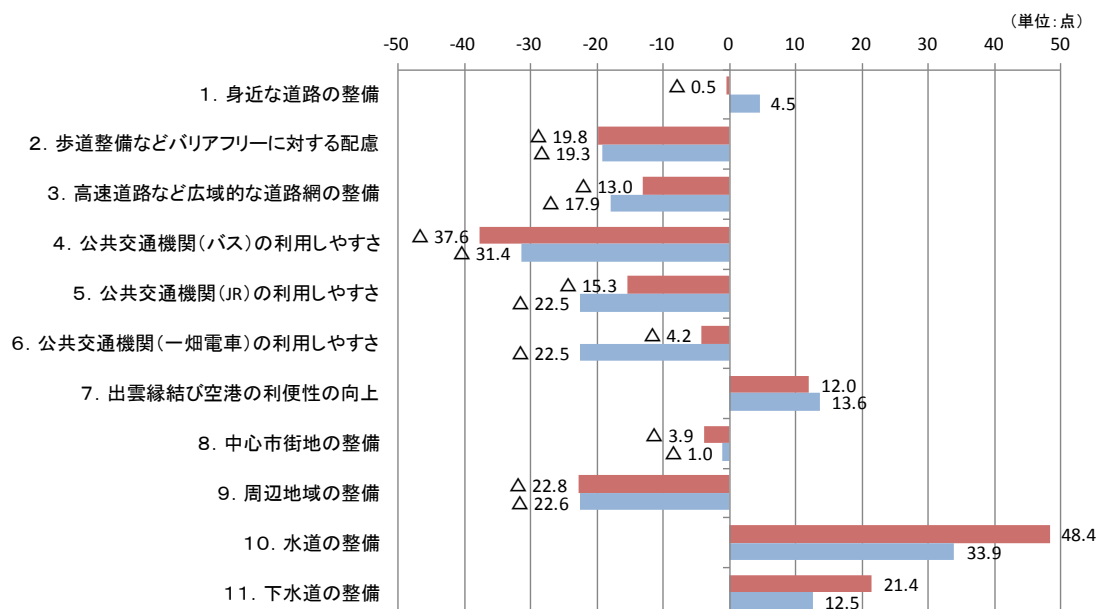
★まちづくり、行政サービスについて



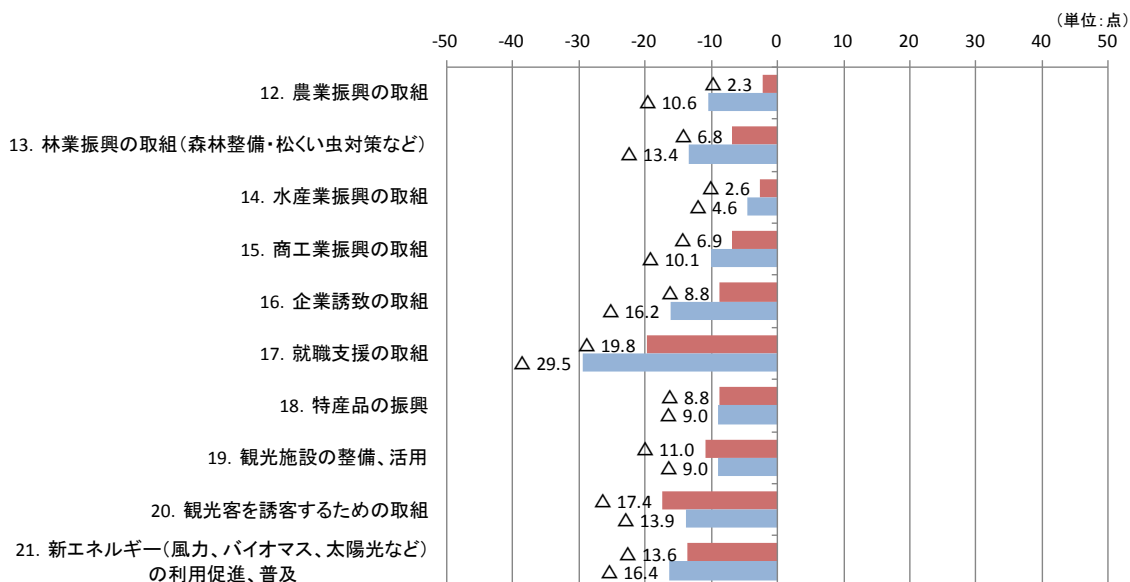
(2) 満足度のグラフ

今回 (R1) — 前回 (H28) —

★都市基盤・機能について

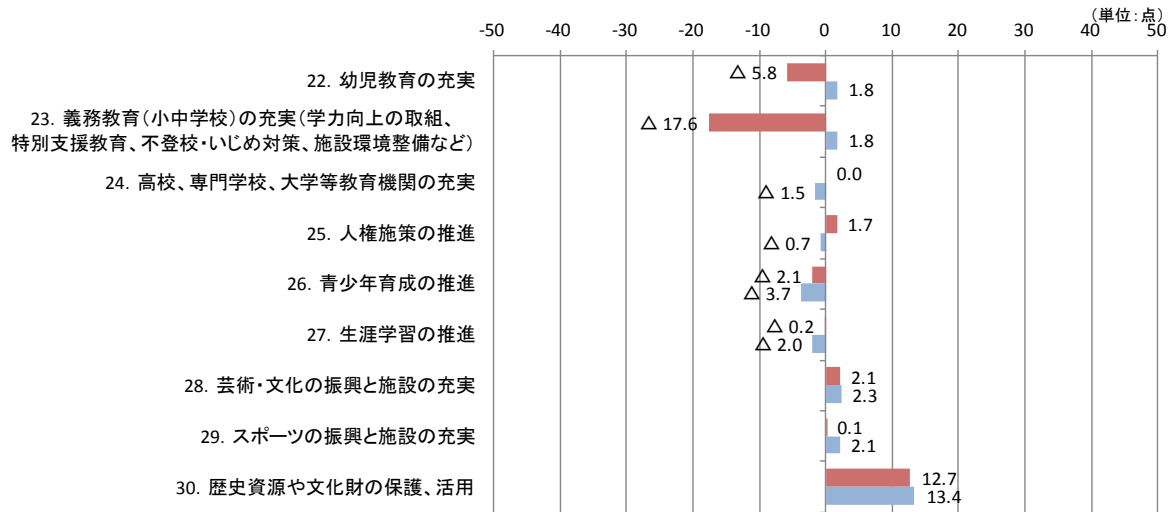


★産業・経済について

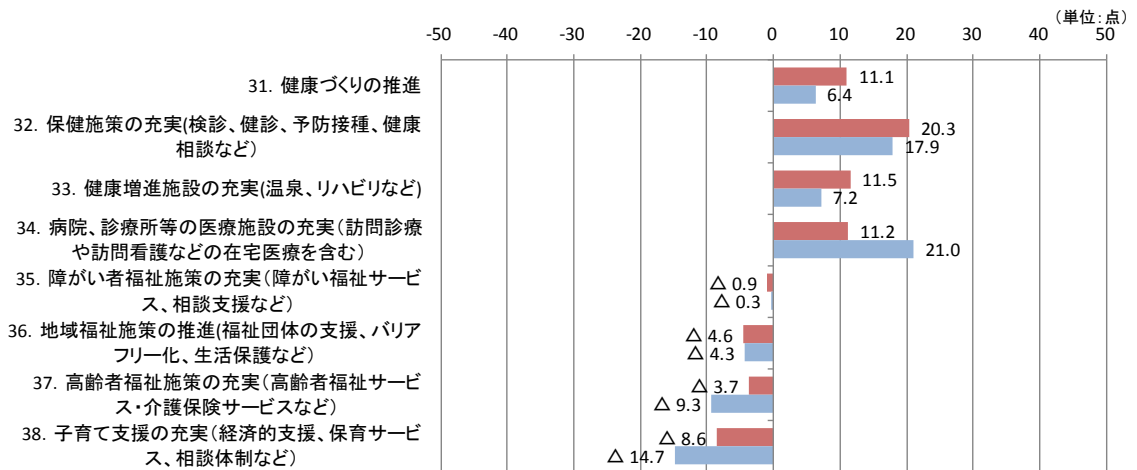


今回 (R1) 前回 (H28)

★教育・文化について



★健康・福祉について

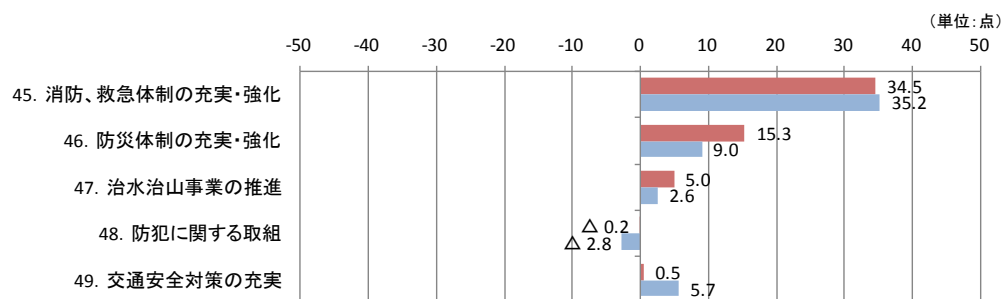


★生活環境について

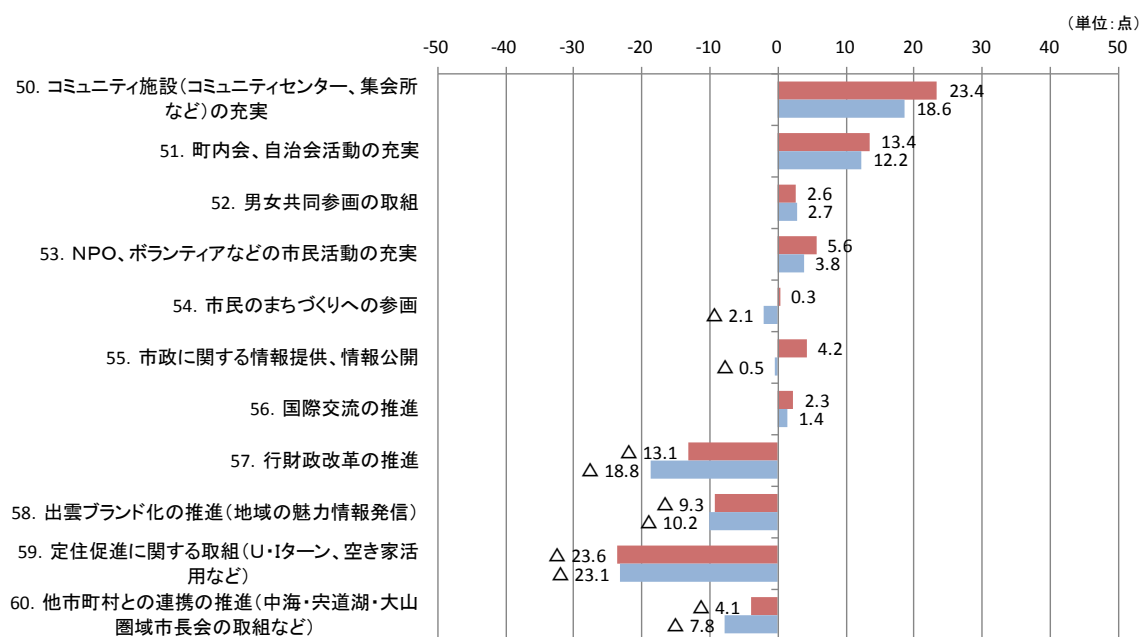


★安心・安全について

今回 (R1) 前回 (H28)

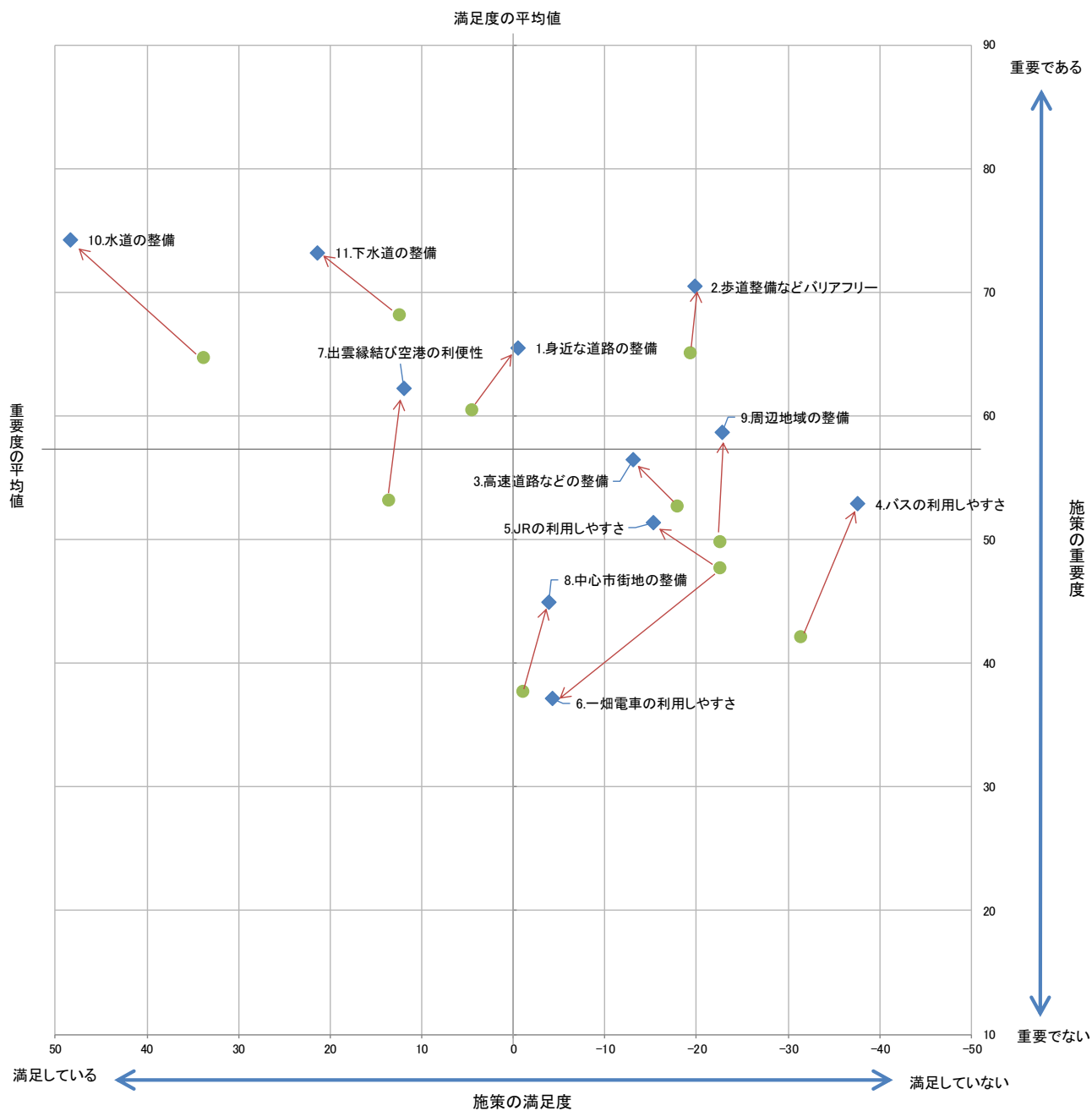


★まちづくり、行政サービスについて



(3) 分野ごとのニーズマップ経年変化図

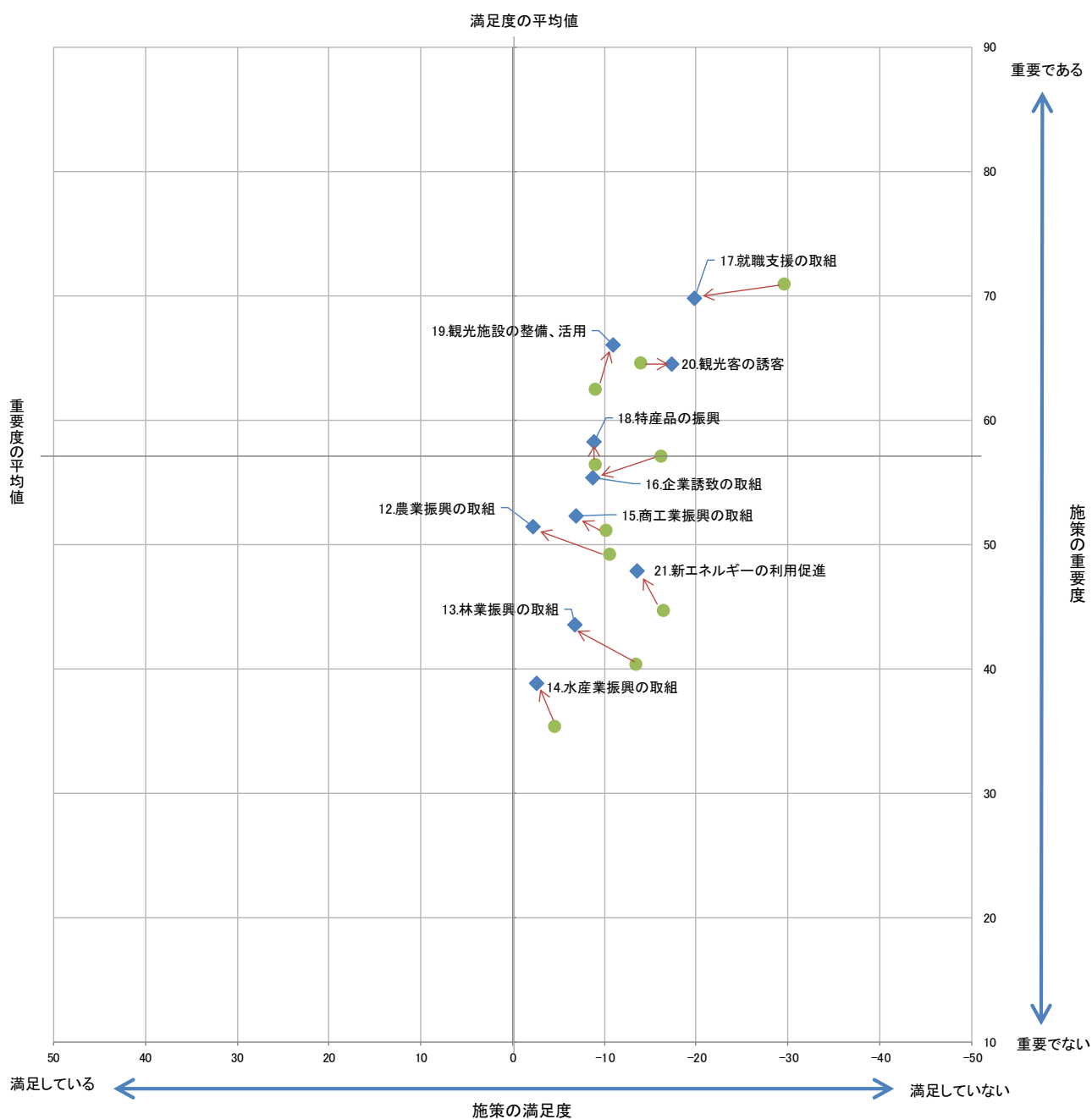
★ 都市基盤・機能



「都市基盤・機能」分野は、全体として重要度の上昇幅が大きくなりました。特に「バスの利用しやすさ」の満足度が全項目の中で最も低く、ニーズ度は高くなっています。

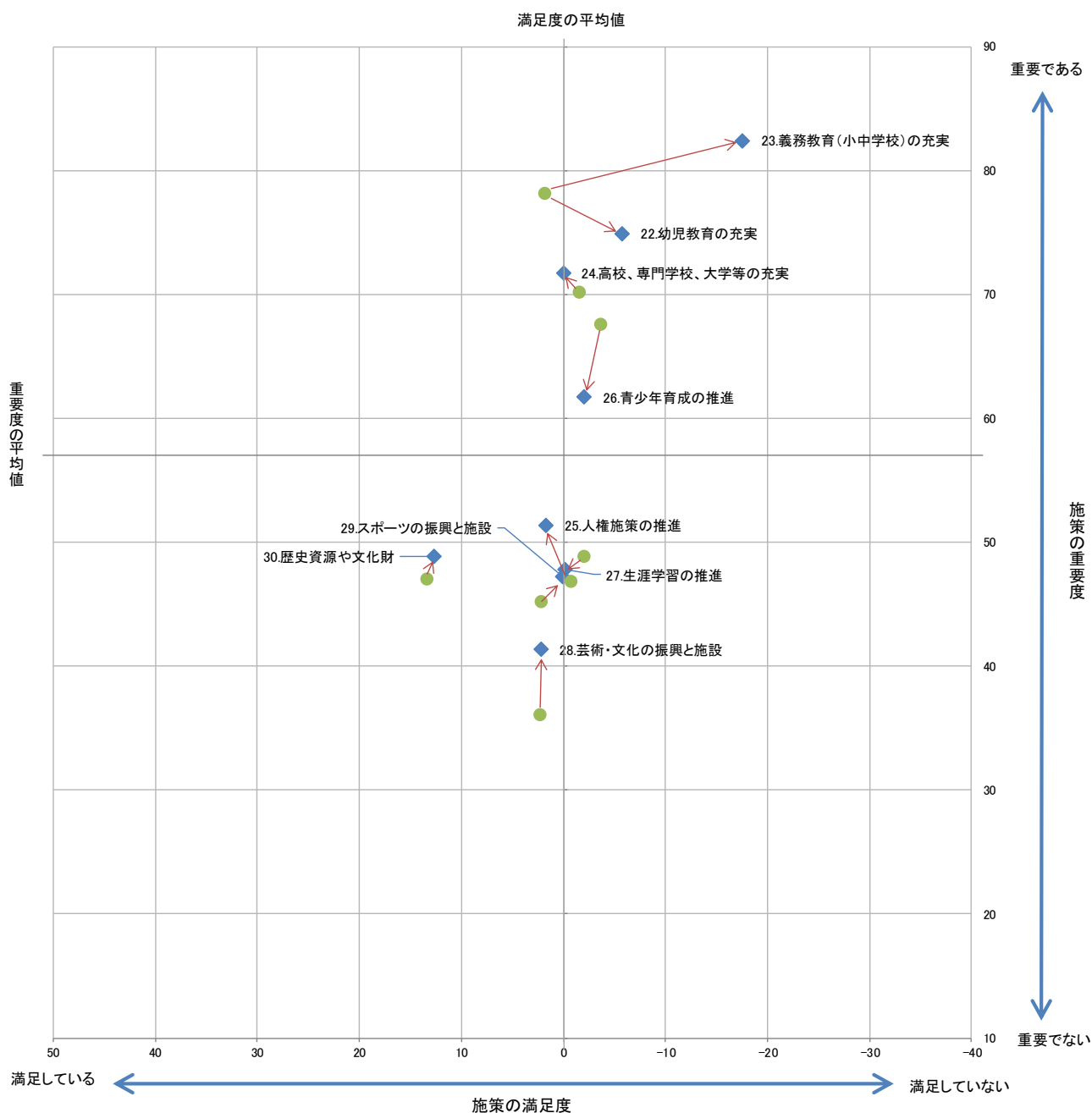
前回調査では「鉄道の利用しやすさ」の項目としていましたが、今回調査では「JR」と「一畑電車」に分けた項目としたところ、「JR」は「一畑電車」に比べ満足度は低いものの重要度は高い結果となりました。

★ 産業・経済



全体として、前回調査と比して重要度にほとんど変化はなく、満足度は上昇しています。全ての項目が「重点改善分野」「改善分野」に位置しており、満足度を高めていく必要があります。

★ 教育・文化

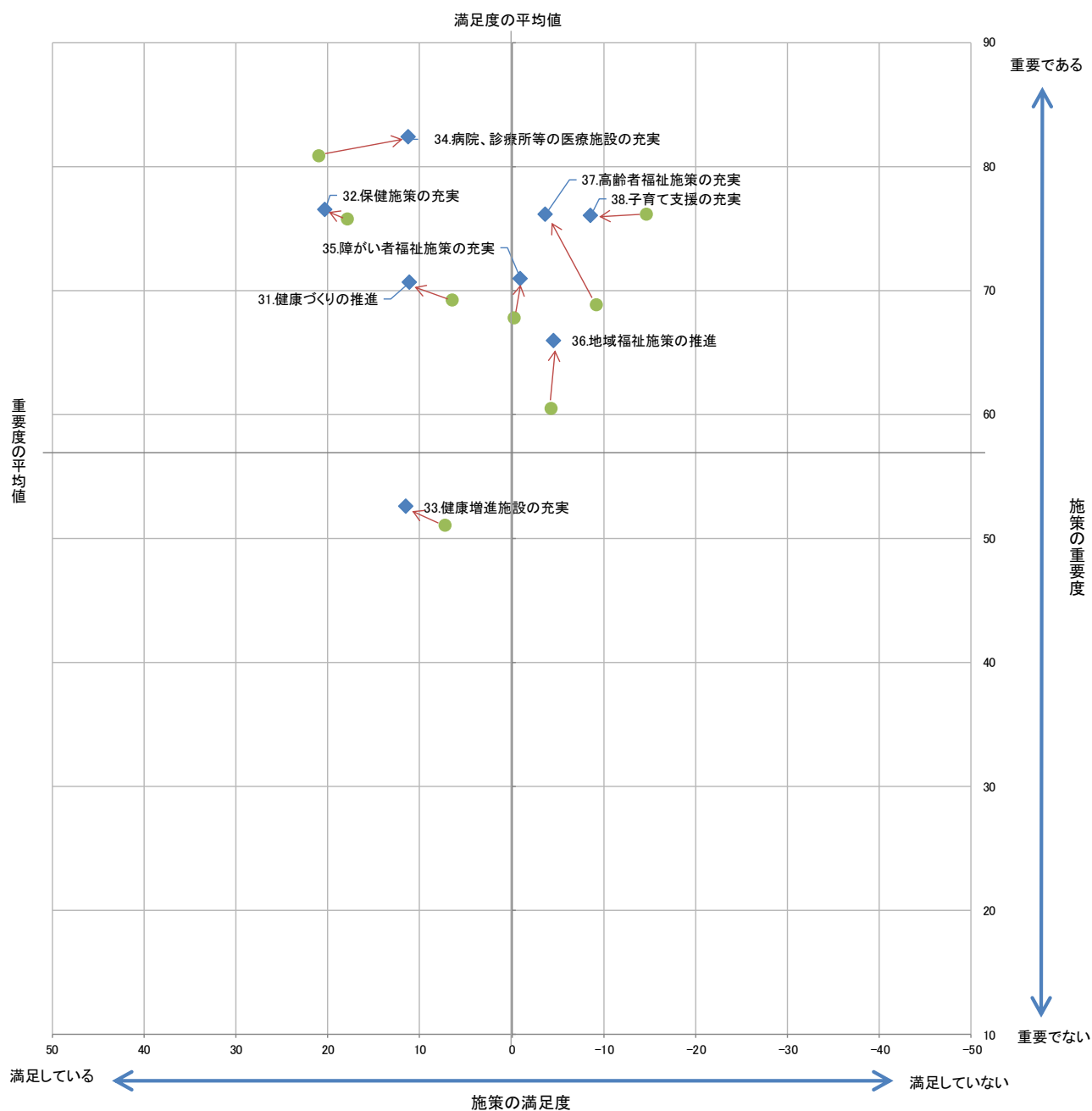


満足度については、「義務教育（小中学校）」と「幼児教育」を除き、前回調査に比してほとんど変化がありません。

前回調査では「幼児教育・義務教育の充実」としていましたが、今回調査では「義務教育（小中学校）」と「幼児教育」に分けた項目としたところ、「義務教育（小中学校）」の方が、満足度は低いものの重要度は高い結果となりました。

「義務教育（小中学校）」のニーズ度は、全 60 項目の中で最も高い結果となりました。（p.24 参照）

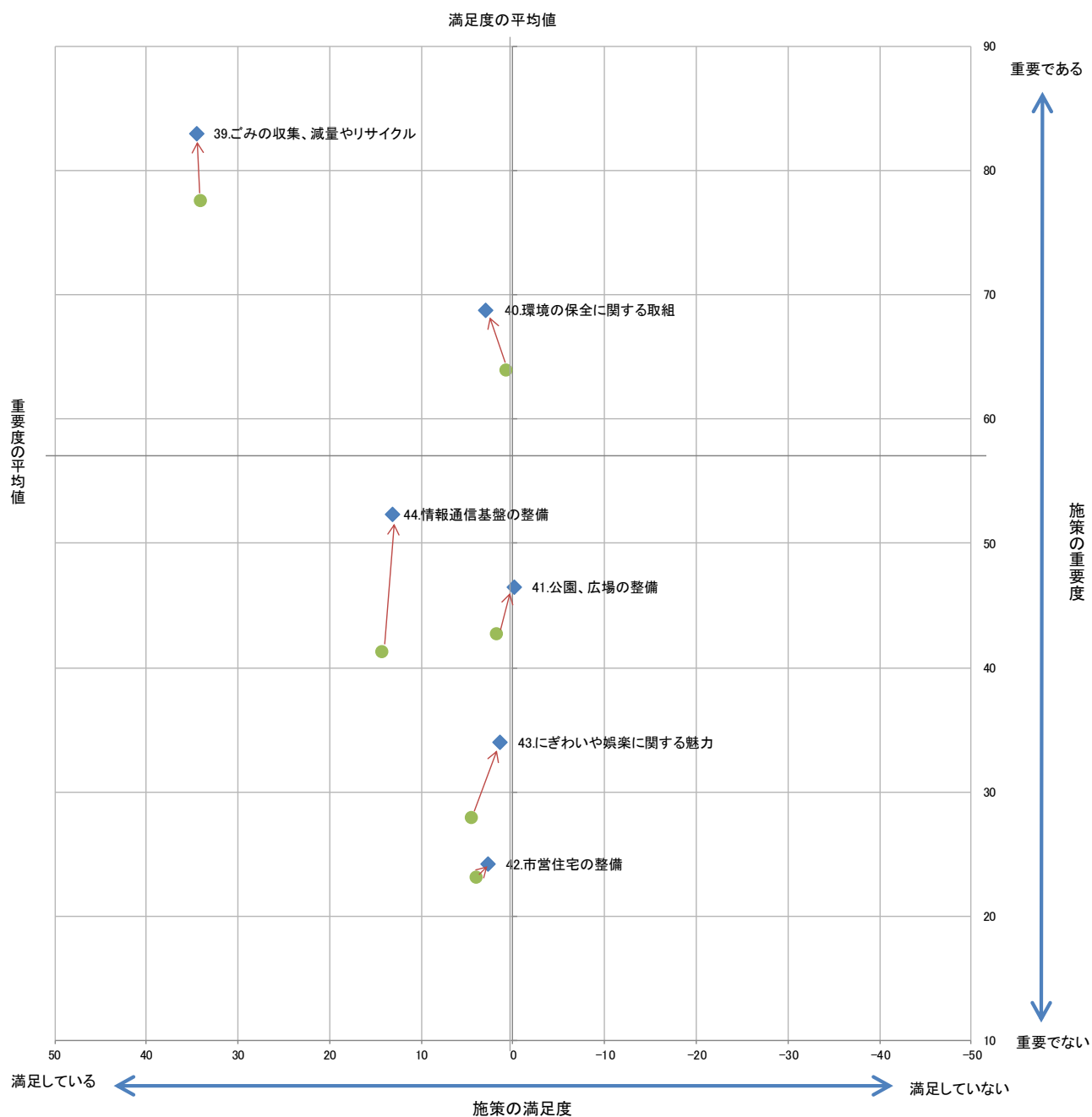
★ 健康・福祉



「健康・福祉」分野は、全7分野の中で重要度が2番目に高く、ニーズ度は最も高い分野となっています。(p.25 参照)

「健康・福祉」分野の中では、特に「子育て支援の充実」のニーズ度が高くなっています。

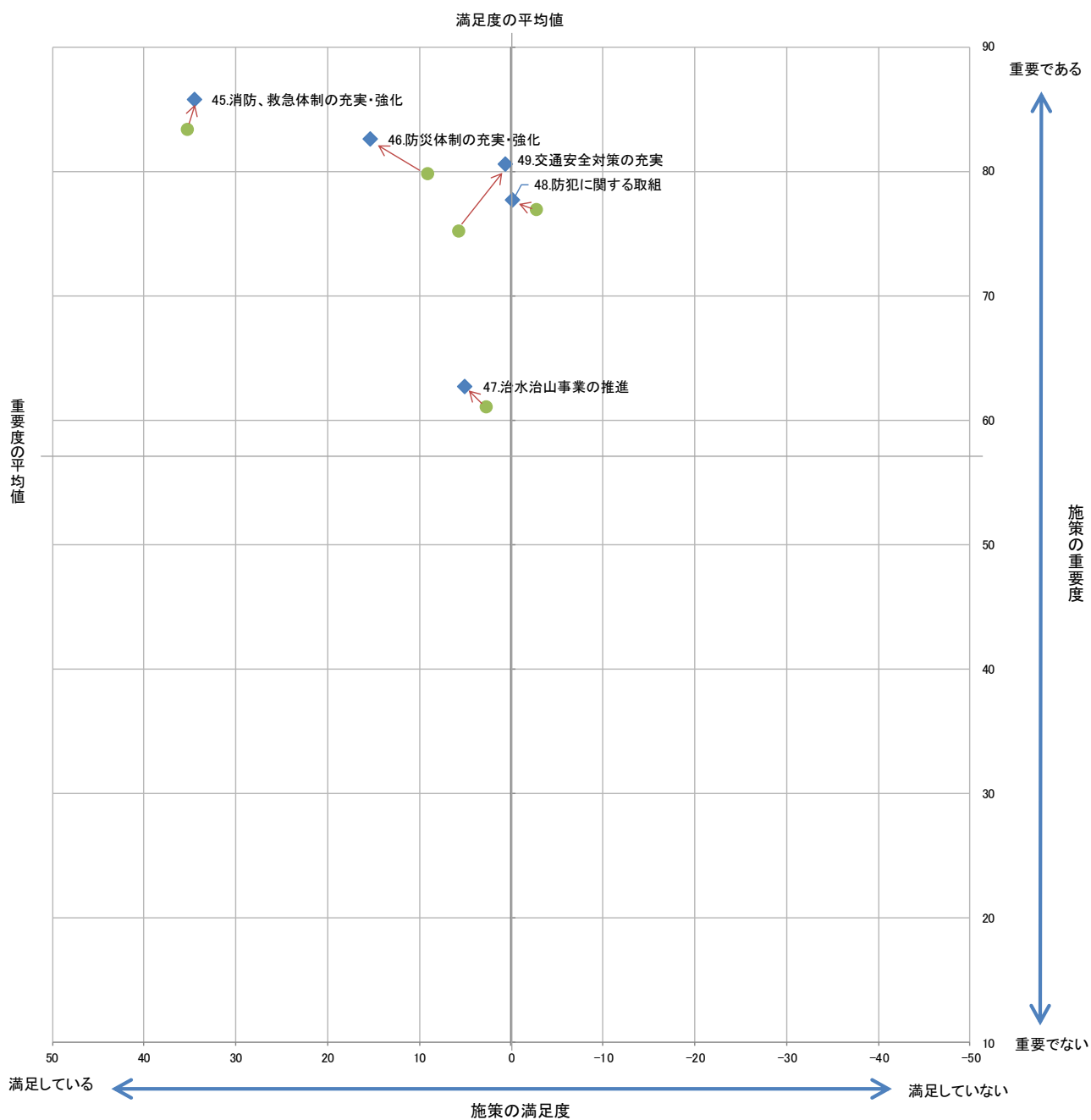
★ 生活環境



前回調査と比して、全体的に満足度に変化はなく、重要度が上昇しています。「生活環境」分野の中では、特に「情報通信基盤の整備」の重要度が上昇しています。

いずれの項目も、「重点維持分野」あるいは「維持分野」に位置しています。

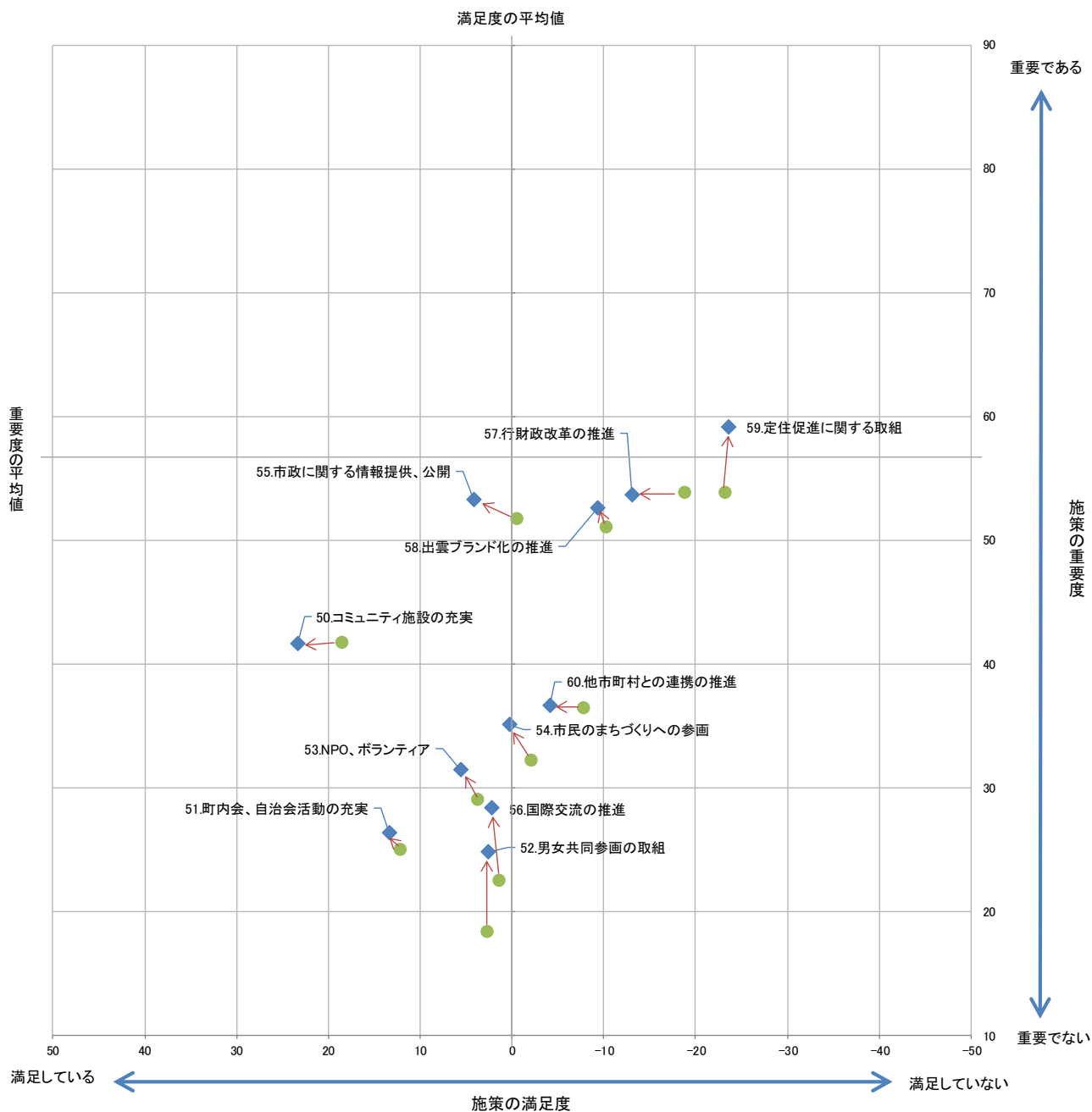
★ 安心・安全



「安心・安全」分野は、全7分野の中で最も重要度及び満足度が高い分野となっています。(p.25 参照)

「交通安全対策の充実」を除き、前回調査と比べて全体的に変化は少なく、いずれの項目も「重点維持分野」に位置しています。

★ まちづくり、行政サービス



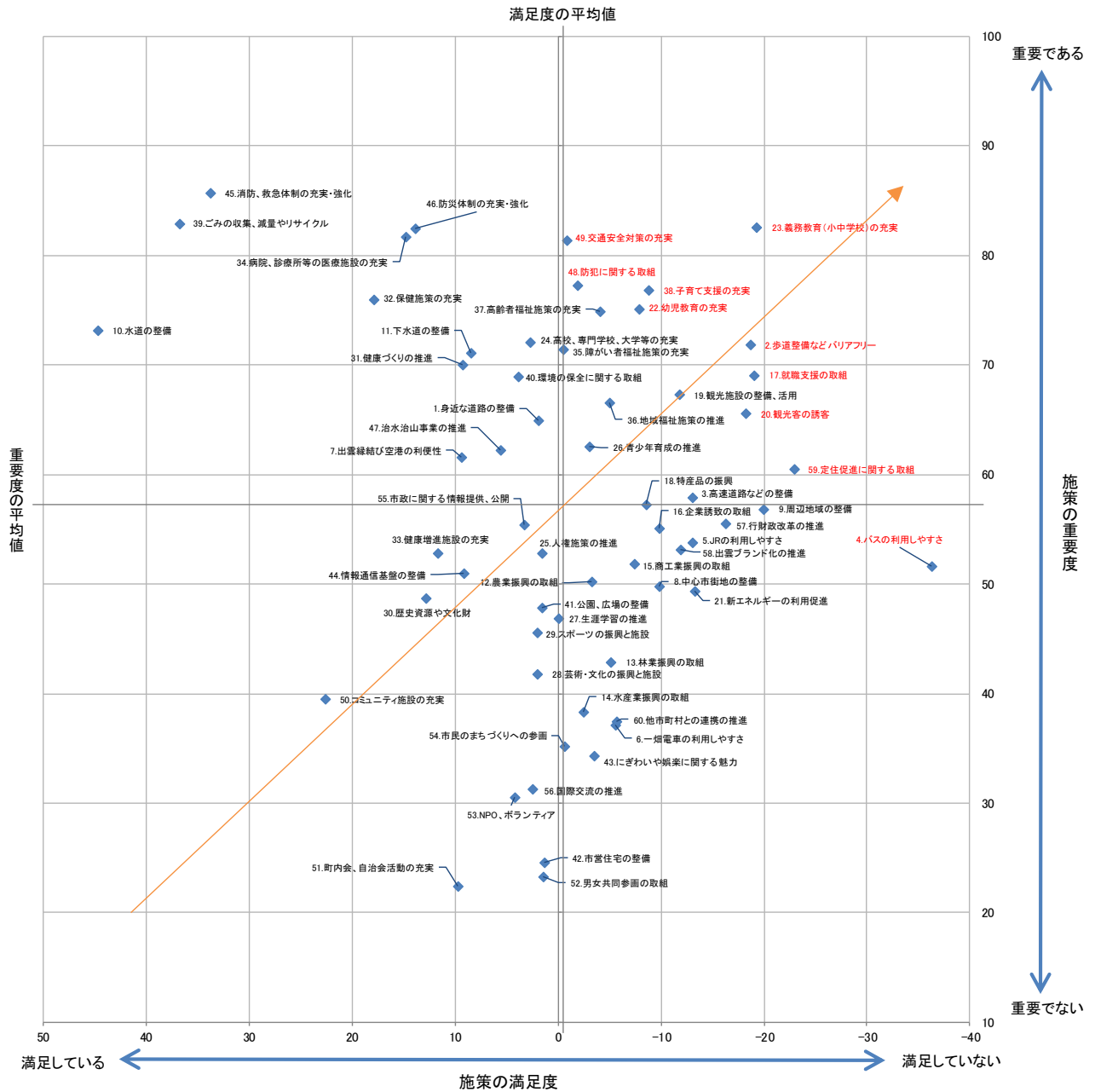
「まちづくり、行政サービス」分野は、全 7 分野の中で最も重要度が低い分野です。(p.25 参照)

「定住促進に関する取組」を除き、「維持分野」「改善分野」に位置しています。

(4) 地域別のニーズマップ

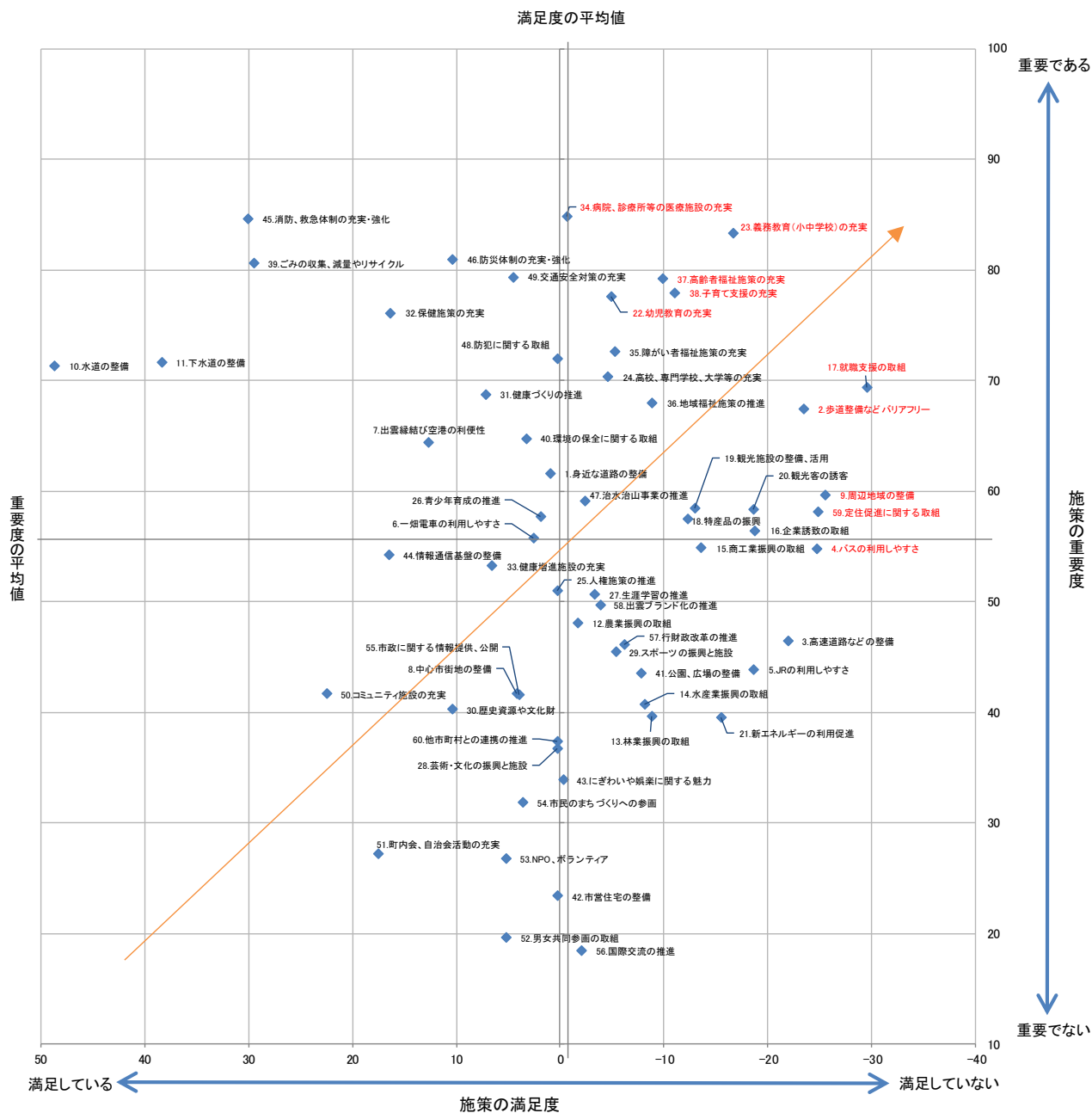
★出雲地域のニーズマップ

右上にあるものほど優先的に取り組むべき施策
(ニーズ度のベスト10の施策を赤字)



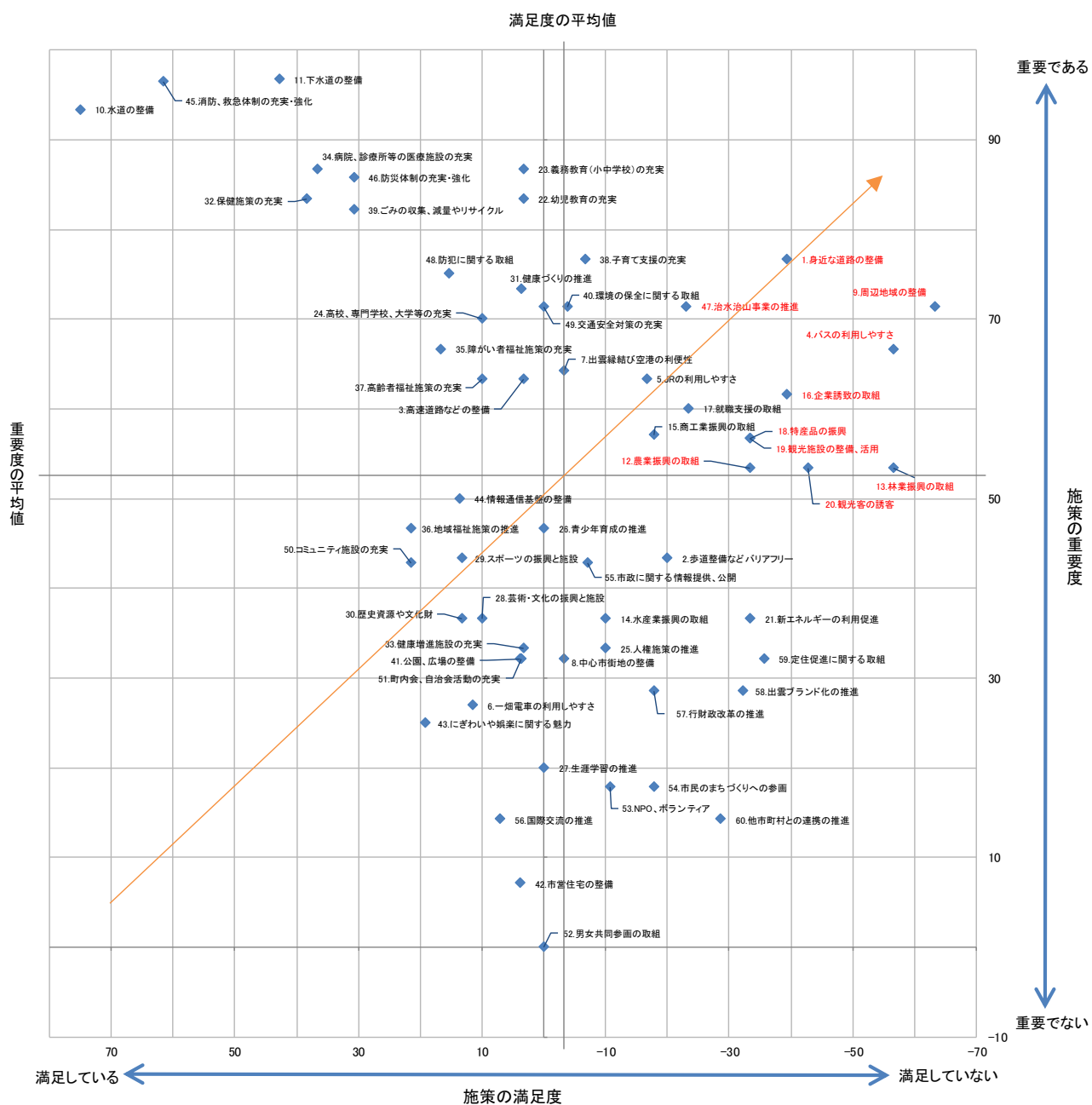
★平田地域の二ーズマップ

右上にあるものほど優先的に取り組むべき施策
(ニーズ度のベスト 10 の施策を赤字)



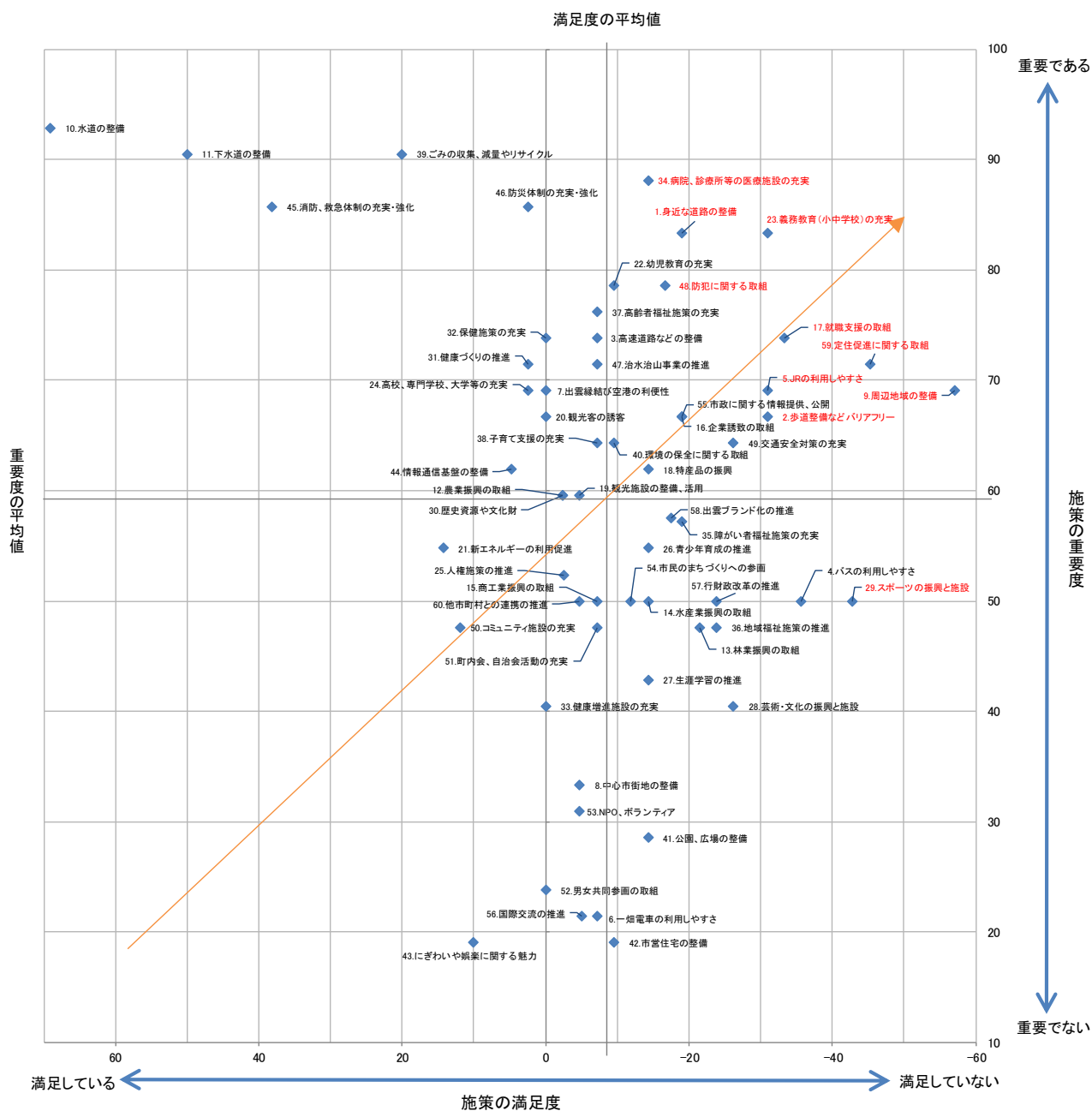
★佐田地域のニーズマップ

右上にあるものほど優先的に取り組むべき施策
(ニーズ度のベスト 10 の施策を赤字)



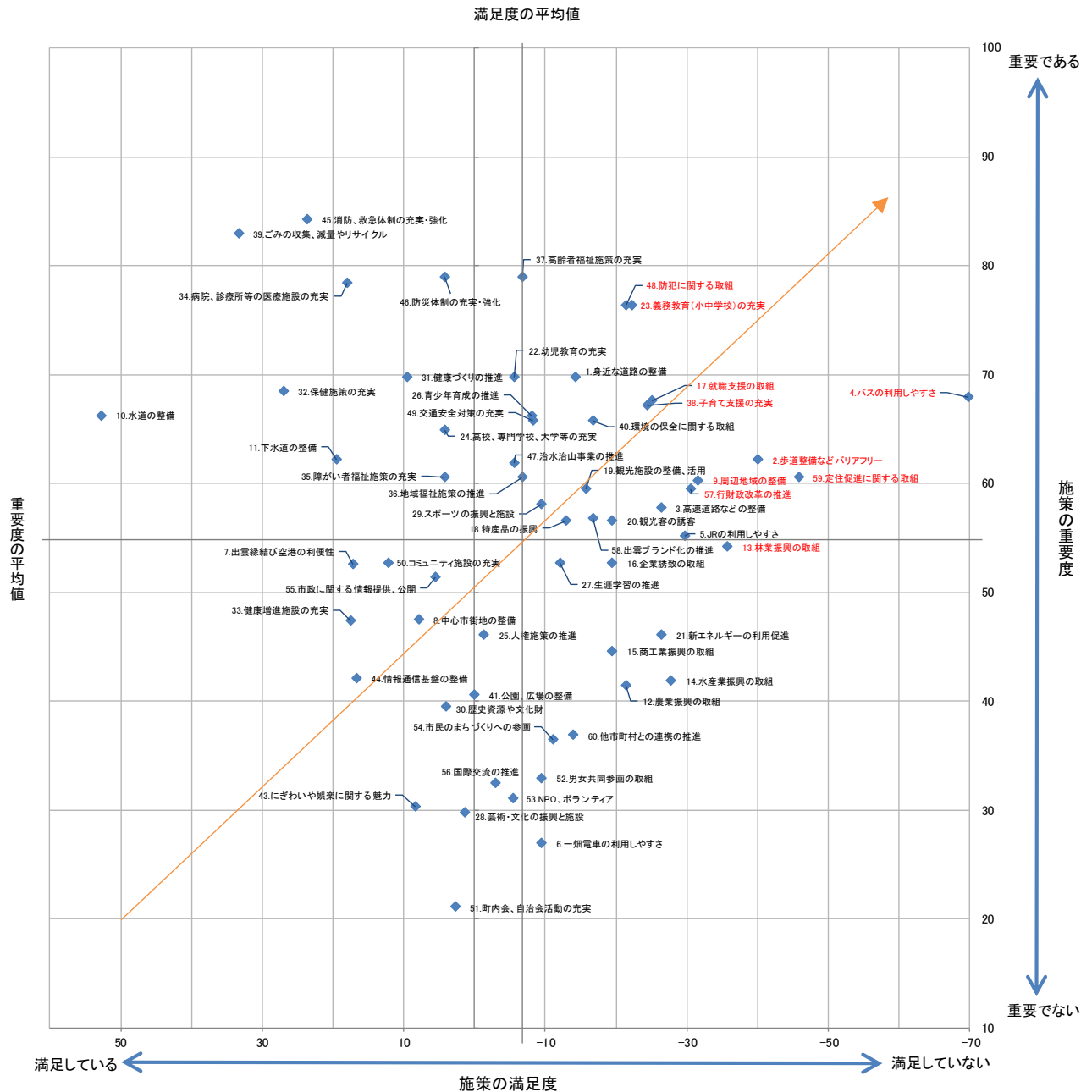
★多岐地域のニーズマップ

右上にあるものほど優先的に取り組むべき施策
(ニーズ度のベスト 10 の施策を赤字)



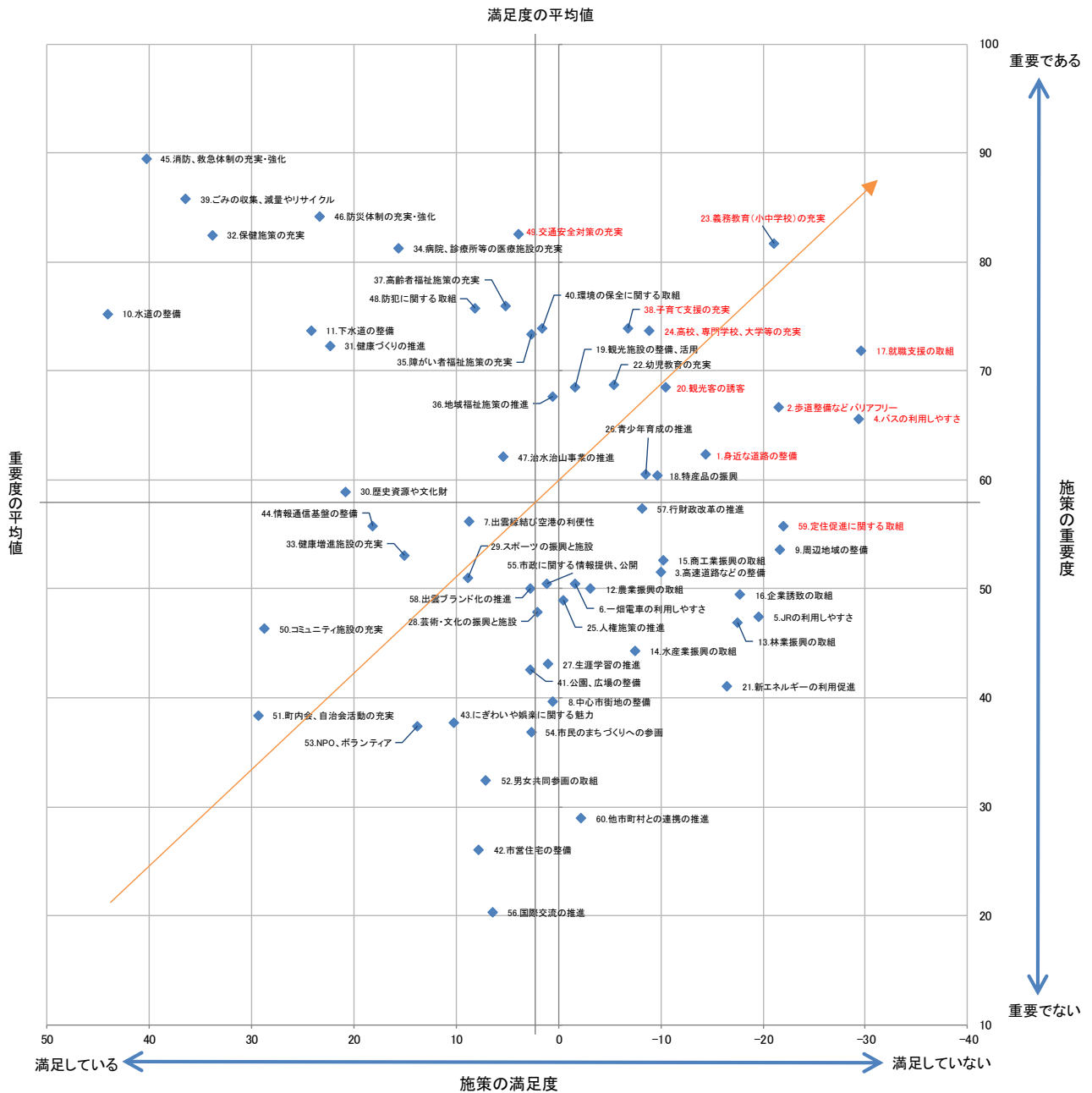
★湖陵地域のニーズマップ

右上にあるものほど優先的に取り組むべき施策
(ニーズ度のベスト10の施策を赤字)



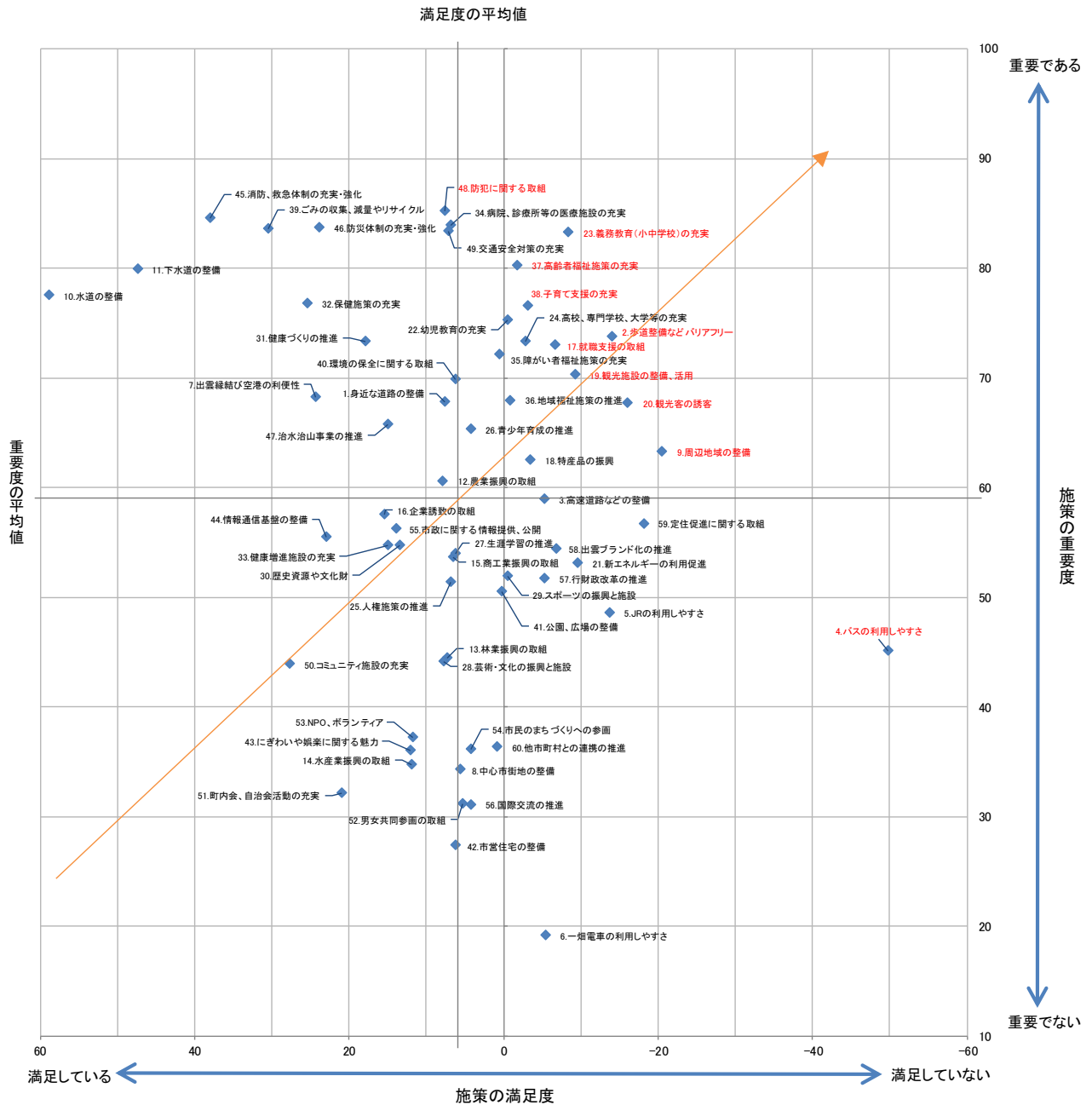
★大社地域のニーズマップ

右上にあるものほど優先的に取り組むべき施策
(ニーズ度のベスト10の施策を赤字)



★斐川地域のニーズマップ

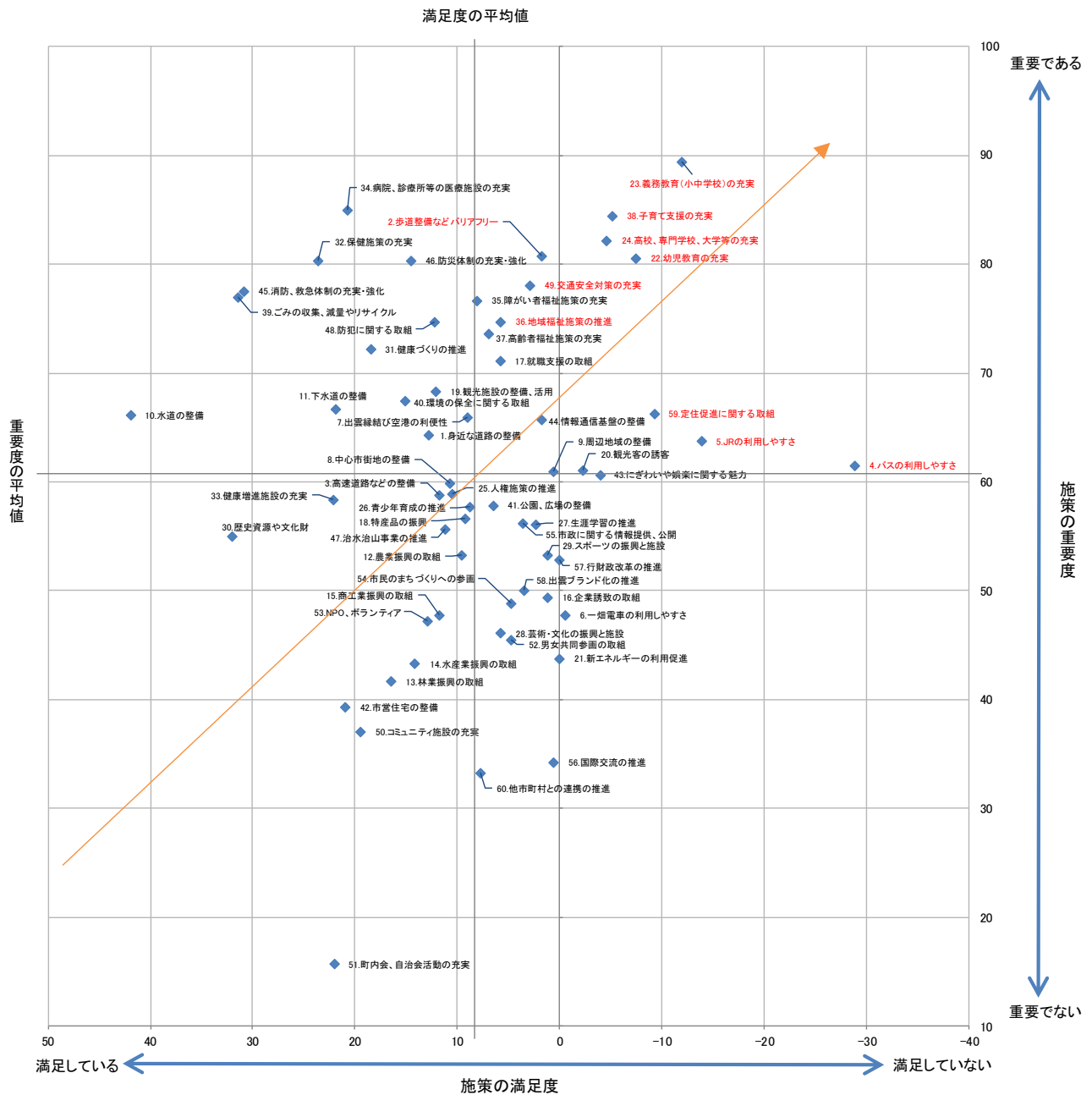
右上にあるものほど優先的に取り組むべき施策
(ニーズ度のベスト10の施策を赤字)



(5) 年齢階層別のニーズマップ

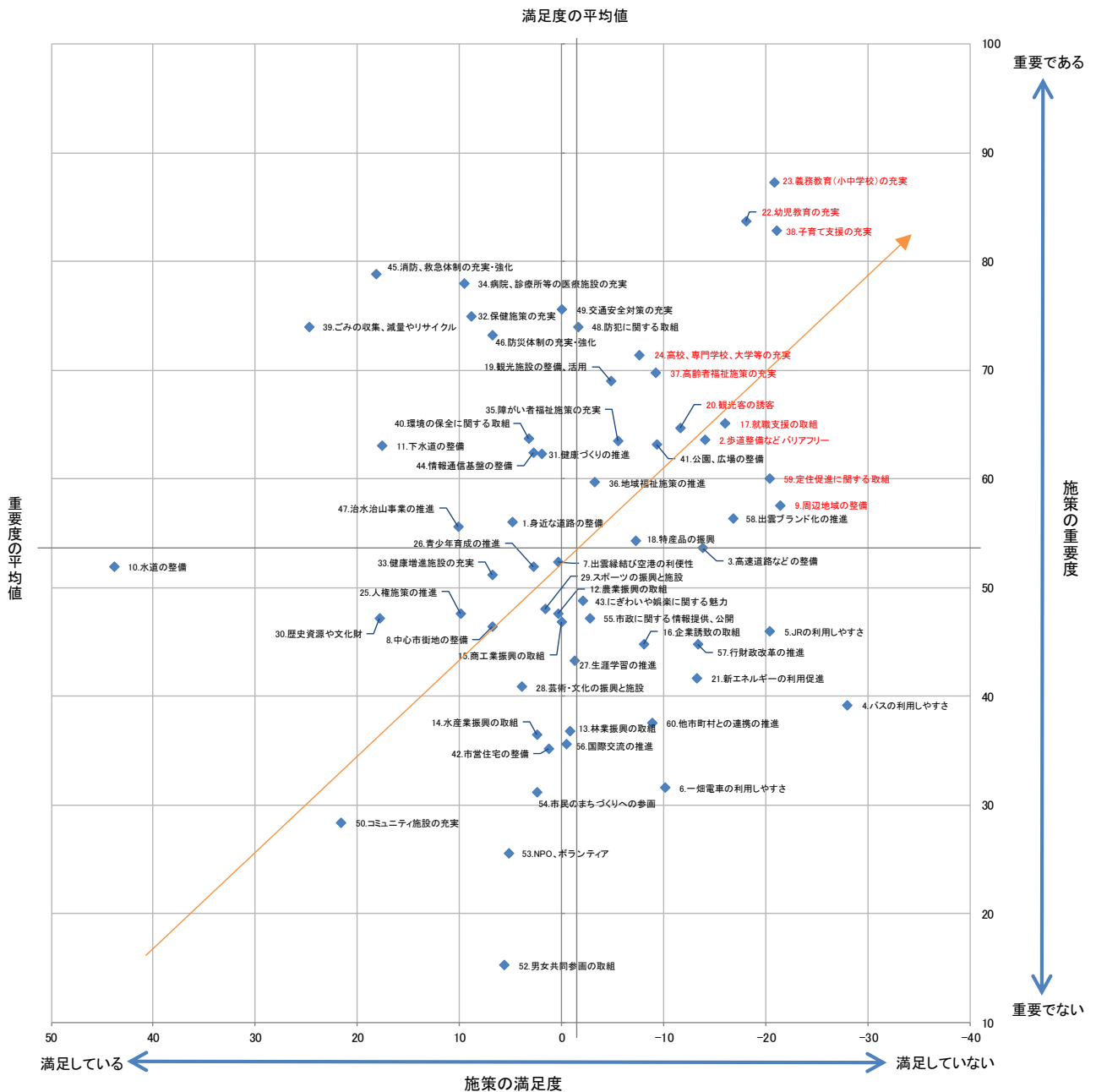
★18-29 歳のニーズマップ

右上にあるものほど優先的に取り組むべき施策
(ニーズ度のベスト 10 の施策を赤字)



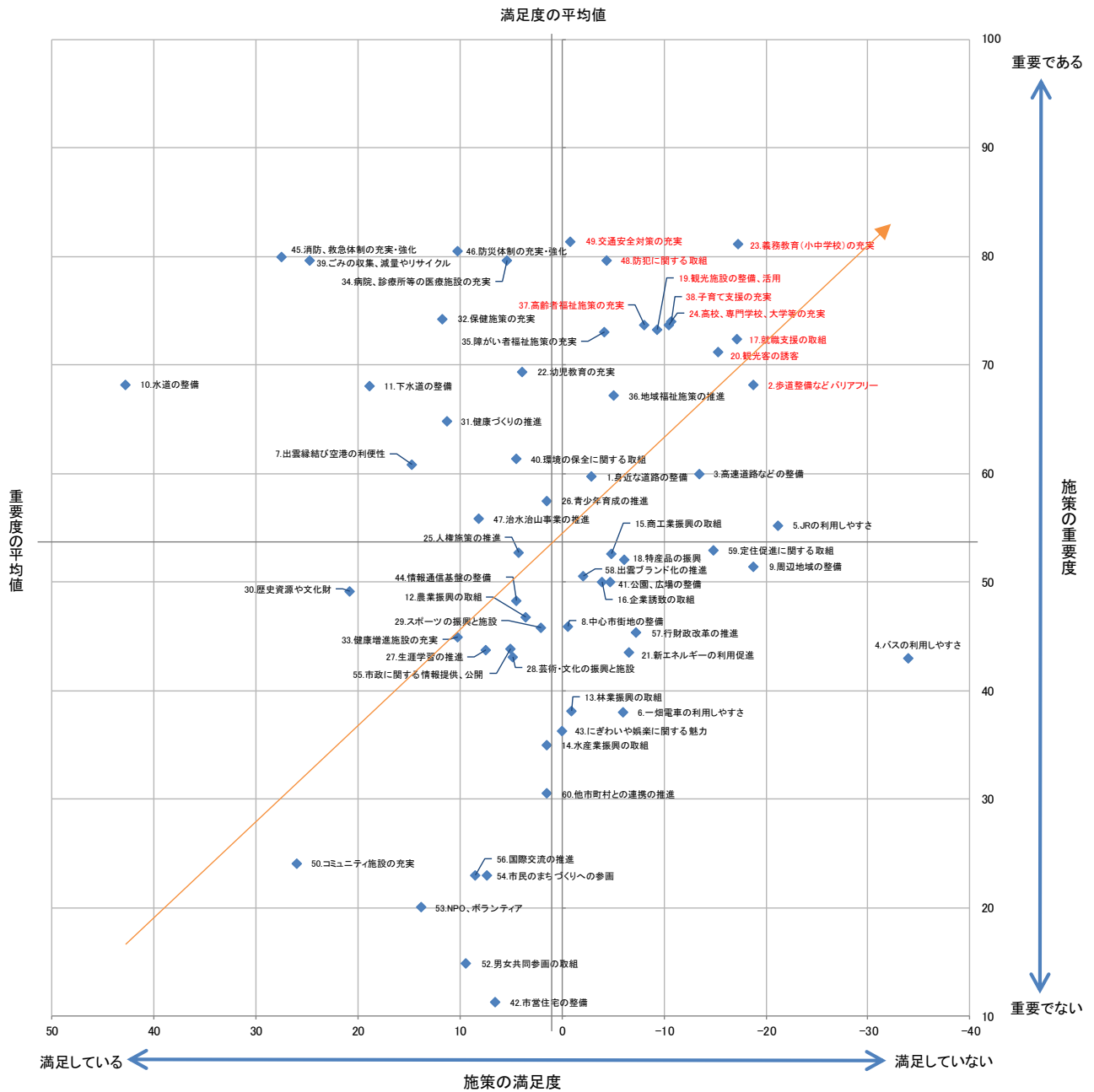
★30 歳代のニーズマップ

右上にあるものほど優先的に取り組むべき施策
(ニーズ度のベスト 10 の施策を赤字)



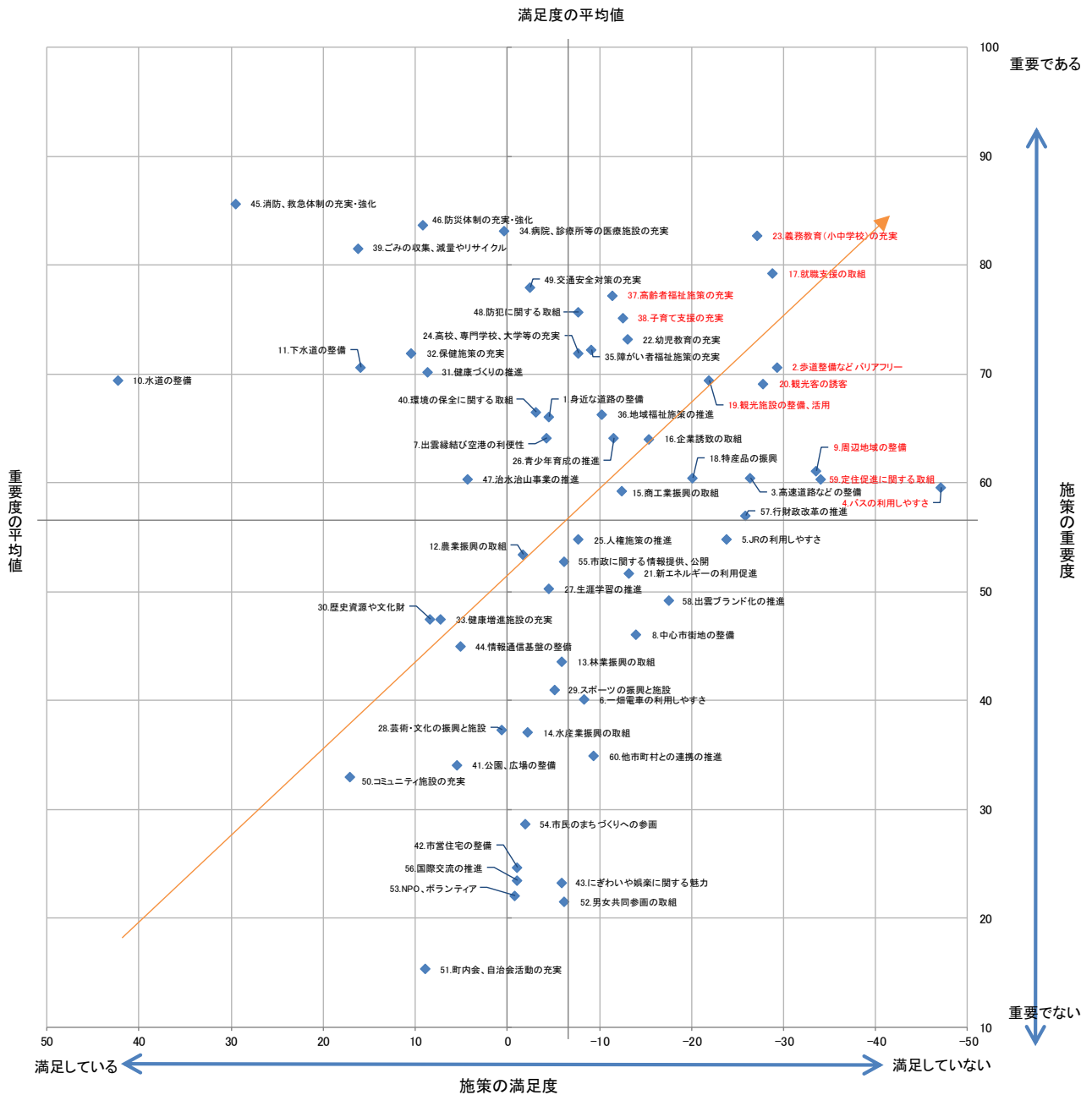
★40 歳代のニーズマップ

右上にあるものほど優先的に取り組むべき施策
(ニーズ度のベスト 10 の施策を赤字)



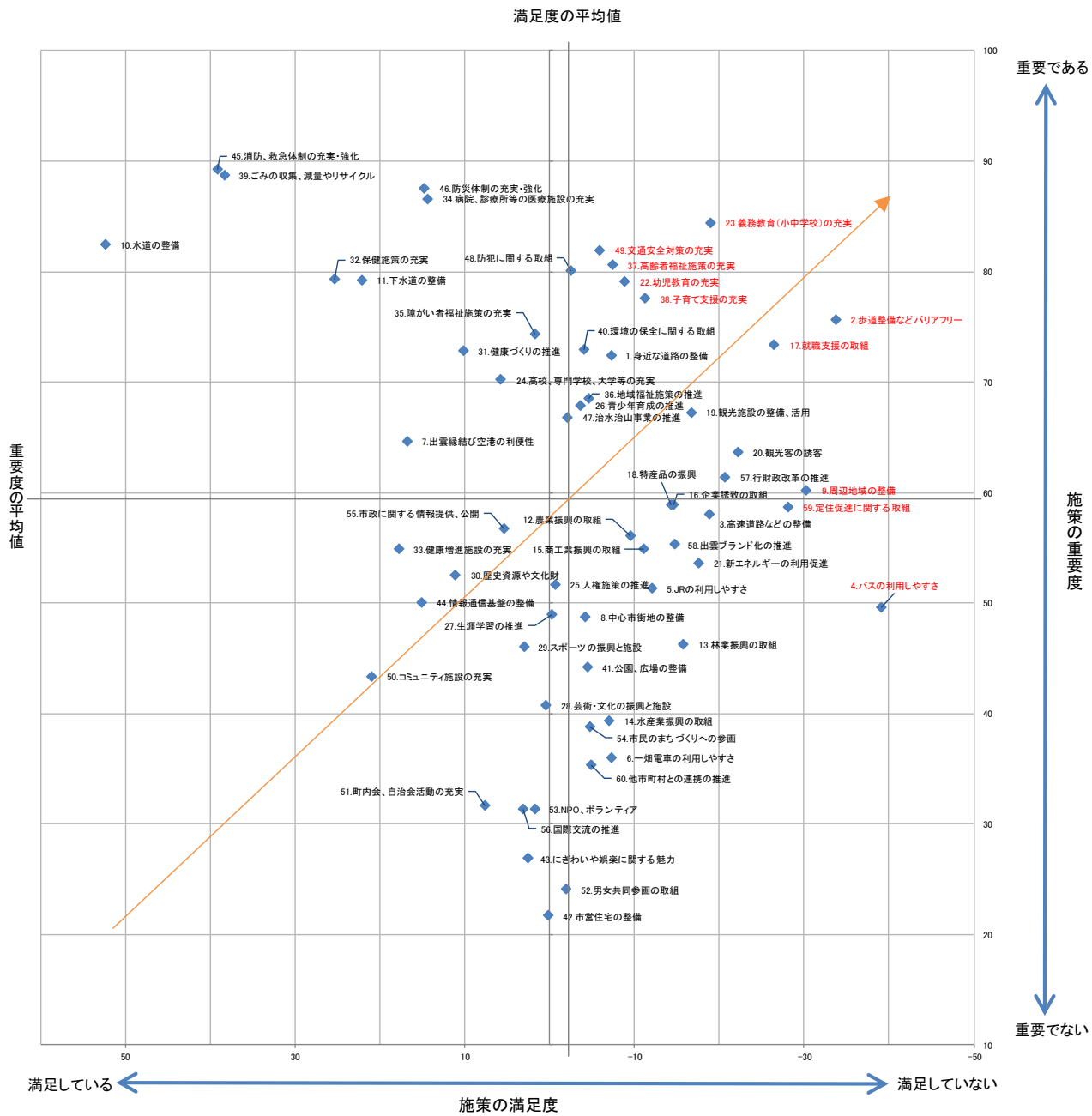
★50 歳代のニーズマップ

右上にあるものほど優先的に取り組むべき施策
(ニーズ度のベスト 10 の施策を赤字)



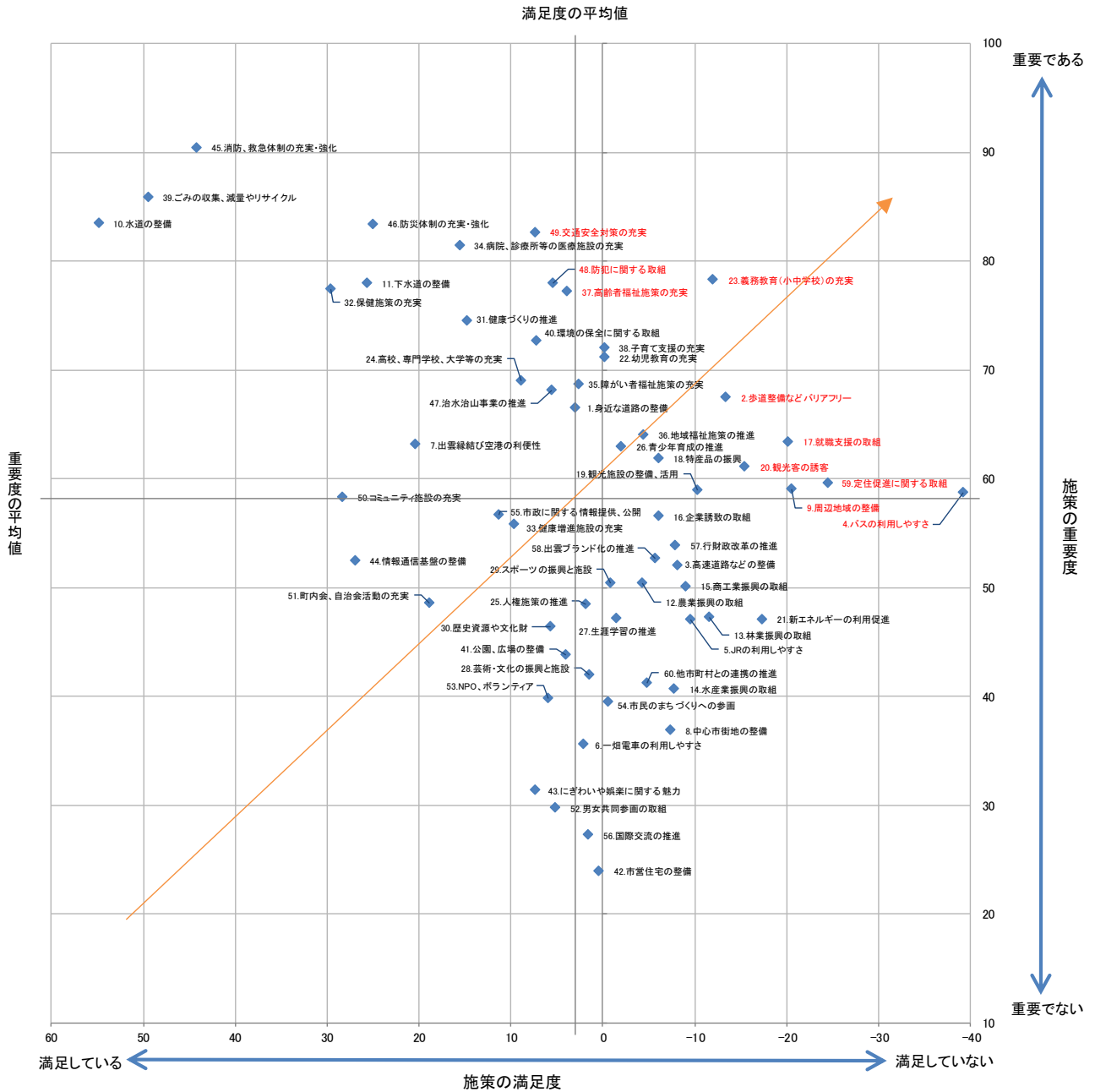
★60 歳代のニーズマップ

右上にあるものほど優先的に取り組むべき施策
(ニーズ度のベスト 10 の施策を赤字)



★70 歳以上のニーズマップ

右上にあるものほど優先的に取り組むべき施策
(ニーズ度のベスト 10 の施策を赤字)



市内高校３年生を対象とした 定住等意識調査報告書

令和元年９月

出雲市 総合政策部 政策企画課

調査の概要

1. 調査目的

出雲市の未来を担う市内高校生３年生の定住、結婚等に関する考えや意見を把握し、第２期出雲市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の基礎資料とすることを目的とします。

2. 調査内容

- 個人属性（性別、居住地域）
- 定住について（定住意向と理由、希望する居住地、将来希望する仕事）
- 結婚・子どもについて（結婚希望年代、子どもを持ちたい年代と人数）
- 出雲市をもっと元気なまちにする取組について
- 自由意見

3. 調査方法

出雲市内の各高等学校を通じて調査票を配布・回収（回答は無記名）

4. 実施時期

平成３１年（２０１９）４月

5. 調査票回収数

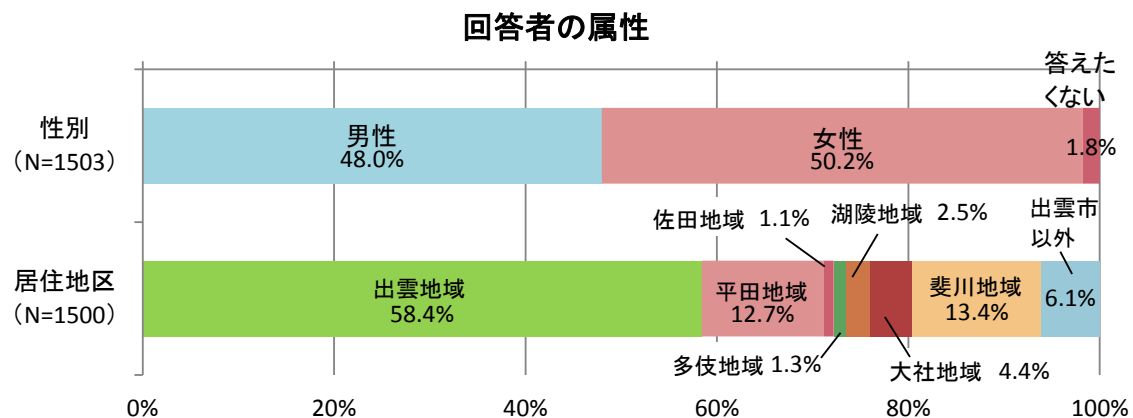
No.	名 称	回収数
1	出雲高校	301 枚
2	大社高校	247 枚
3	平田高校	152 枚
4	出雲工業高校	147 枚
5	出雲商業高校	152 枚
6	出雲農林高校	149 枚
7	出雲北陵高校	166 枚
8	出雲西高校	190 枚
合 計		1,504 枚

調査結果

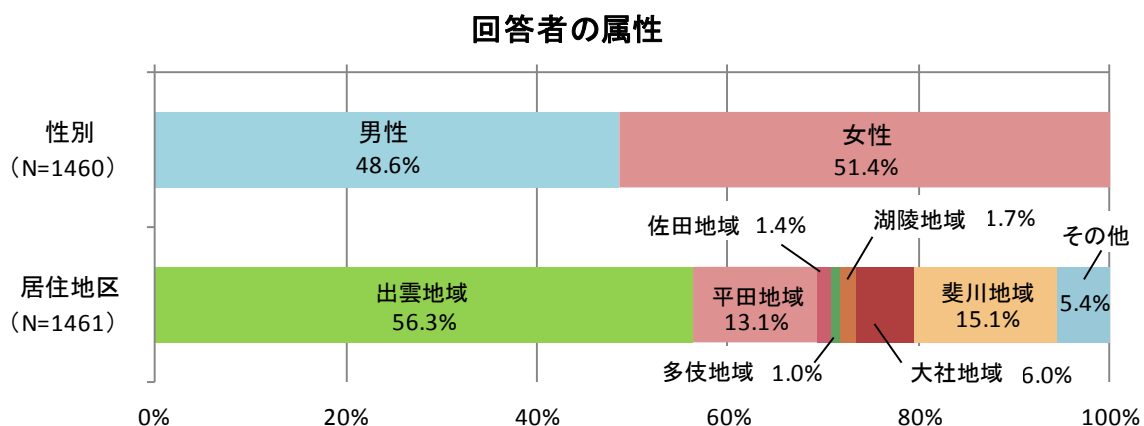
はじめに、あなた自身のことについておたずねします。

問1 あなたの性別を教えてください。

問2 あなたがお住まいになっている地域を教えてください。



参考：前回調査結果（平成 27 年度）



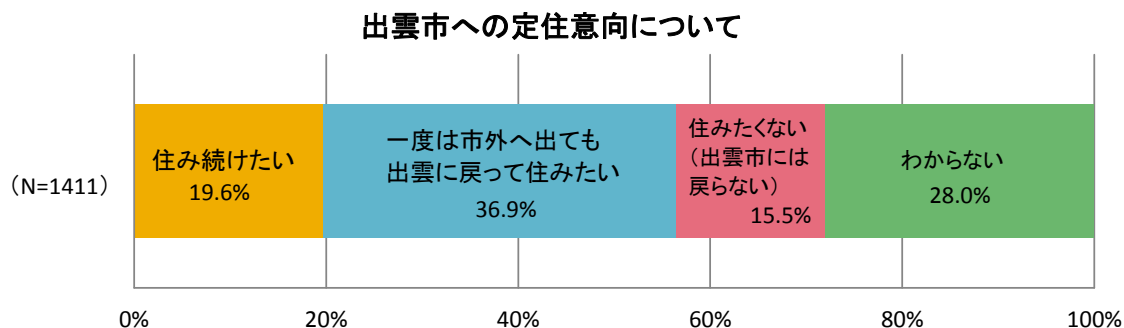
○男女比は男性 48.0%、女性 50.2%でした。なお、今回調査から「答えたくない」の選択肢を追加しました。

○居住地域は出雲地域が 58.4%で全体の約6割を占めました。続いて斐川地域 13.4%、平田地域 12.7%でした。

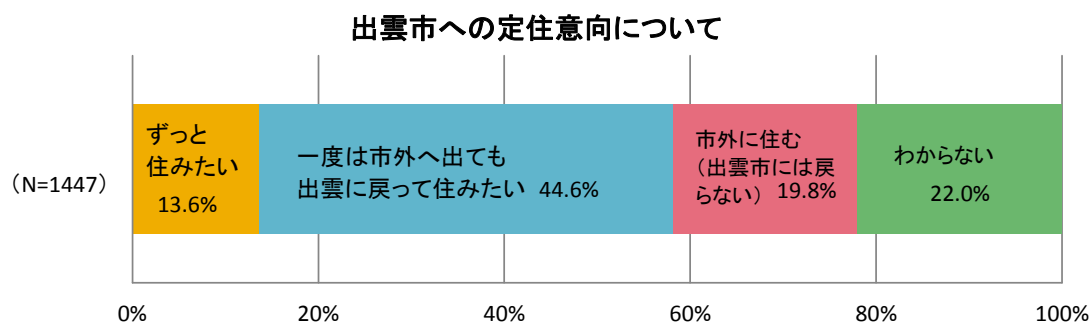
○前回調査と比較すると、回答者は出雲地域、多伎地域及び湖陵地域に居住する人の割合が増加しました。

定住についておたずねします。

問3 あなたは、これからも出雲市に住み続けたいと思いますか。

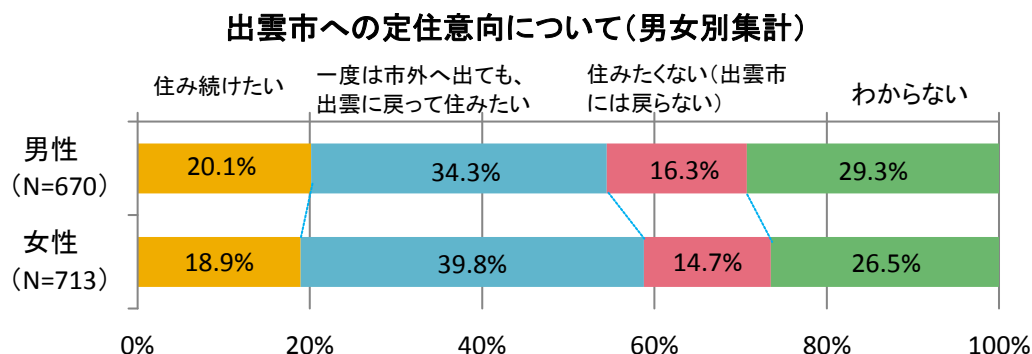


参考：前回調査結果（平成 27 年度）

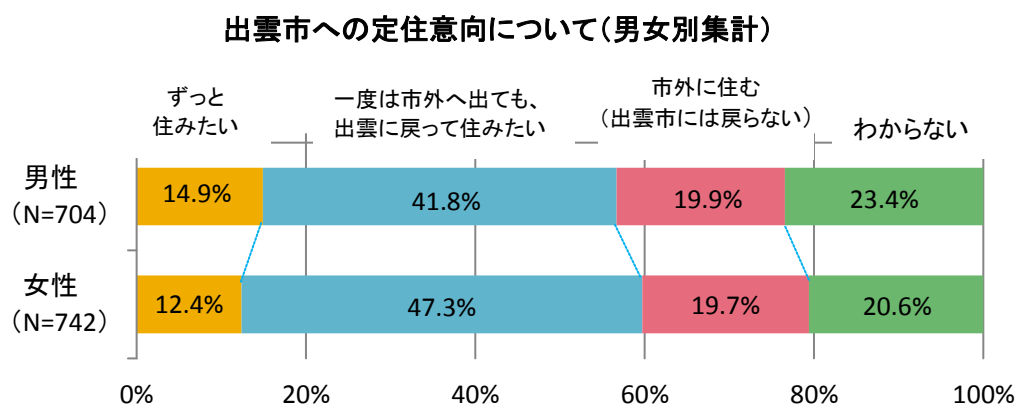


- 出雲市への定住意向については、「一度は市外へ出ても、出雲に戻って住みたい」を選択した人が36.9%と最も高くなりました。
- 「住み続けたい」人は19.6%、「住みたくない（出雲市には戻らない）」人は15.5%でした。
- 前回調査と比較すると、「住み続けたい」を選択した人の割合が6%増加し、「住みたくない（出雲市には戻らない）」を選択した人の割合は、約4%減少しました。
- 「わからない」を選択した人の割合が増加したこともあり、「住み続けたい」と「一度は市外へ出ても、出雲に戻って住みたい」を選択した人をあわせた割合（56.5%）は前回調査（58.2%）より減少しました。

■男女別の集計



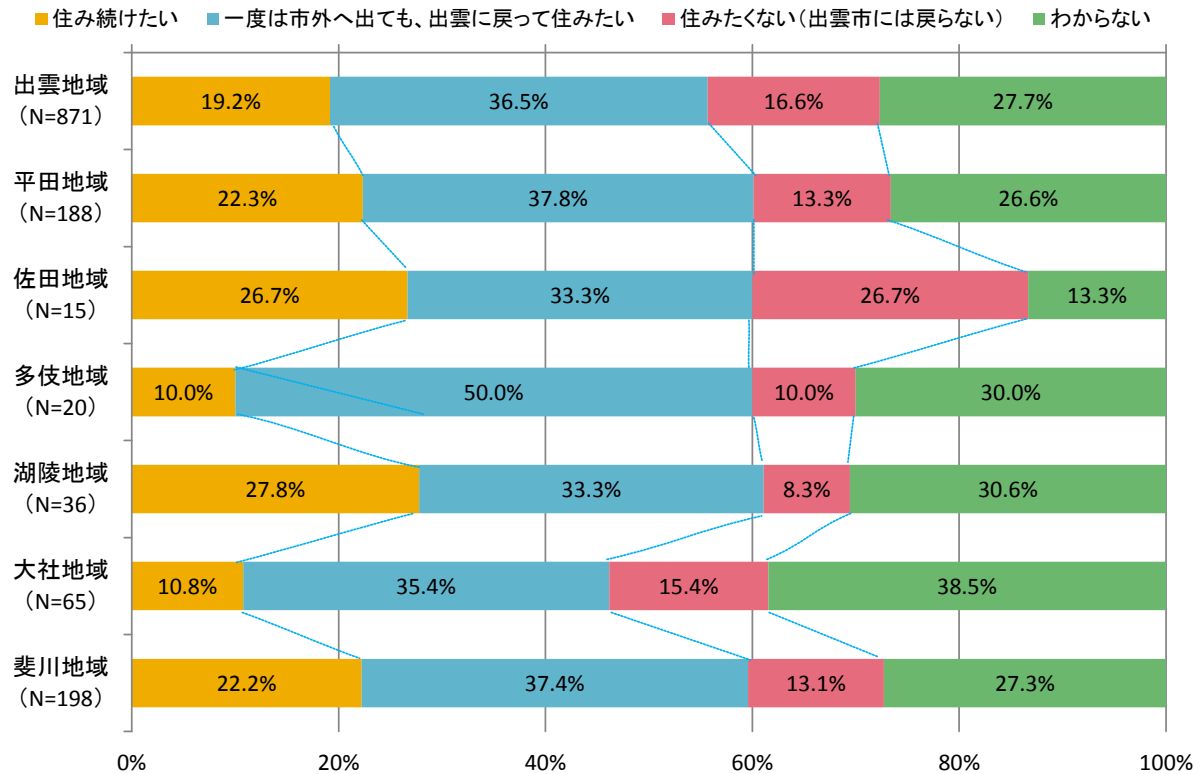
参考：前回調査結果（平成 27 年度）



- 男女別の集計では、「住み続けたい」を選択した人が男性では 20.1%、女性 18.9%とわずかに男性の方が高くなりました。
- 「一度は市外へ出ても、出雲に戻って住みたい」を選択した人は男性では 34.3%、女性では 39.8%と、女性の方が高くなりました。
- 前回調査と比較すると、男女とも「住み続けたい」を選択した人の割合が増加し、「住みたくない（出雲市には戻らない）」を選択した人の割合が減少しました。
- 男女とも「わからない」を選択した人の割合が前回調査より増加し、「一度は市外へ出ても、出雲に戻って住みたい」を選択した人の割合が減少しました。

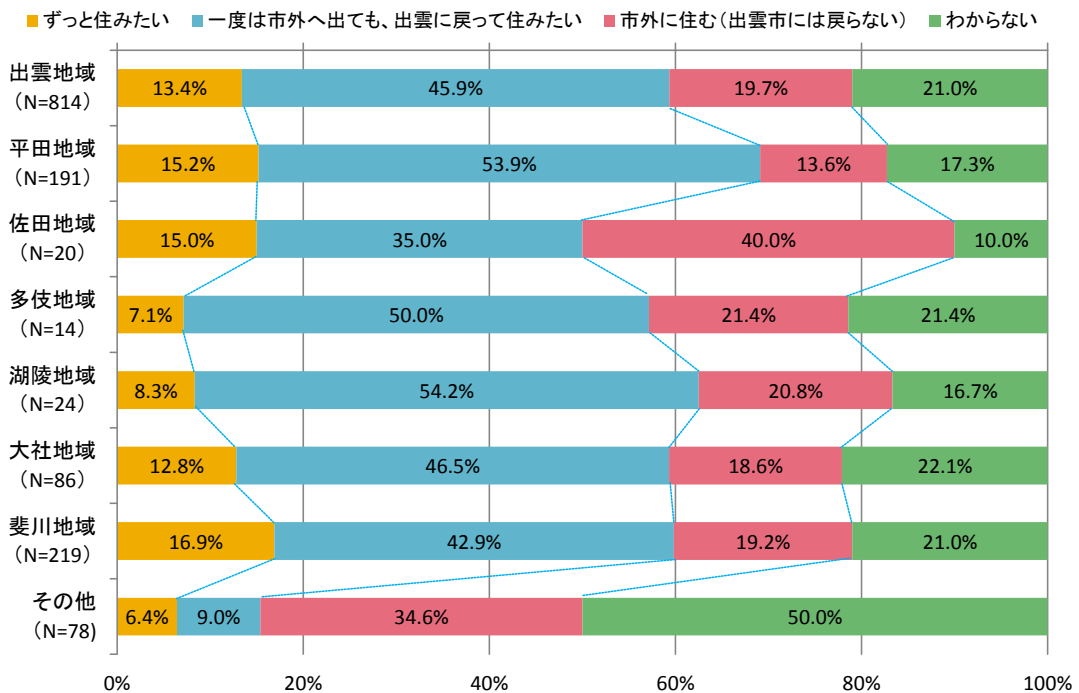
■地域別の集計

出雲市への定住意向について(地域別集計)



参考：前回調査結果（平成 27 年度）

出雲市への定住意向について



○地域別の集計では、「住み続けたい」と答えた人は湖陵地域が最も高く 27.8%でした。一方、「住みたくない（出雲市には戻らない）」と答えた人は佐田地域が最も高く 26.7%でした。

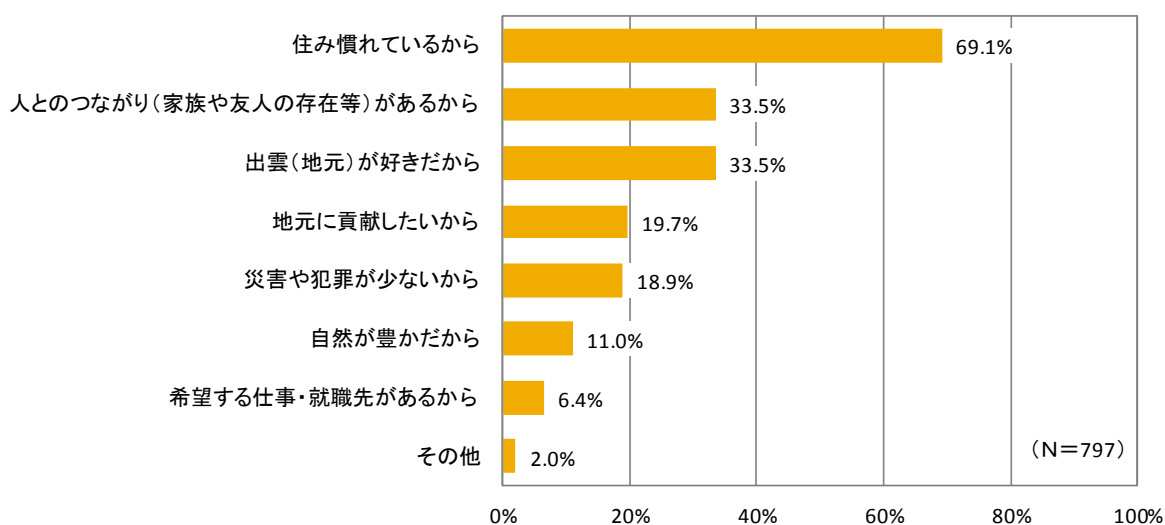
○地域別の比較では、定住意向のある人（「住み続けたい」「一度は市外へ出ても、出雲に戻って住みたい」を選択した人）が、平田地域、佐田地域、多伎地域及び斐川地域で約 60%であり、湖陵地域ではわずかに高く 61.1%でした。最も低いのは大社地域で 46.2%でした。

○前回調査と比較すると、大社地域を除く地域では「住み続けたい」を選択した人の割合が増加しています。また、全地域で「住みたくない（出雲市には戻らない）」を選択した人の割合が減少しました。

○全地域で「わからない」を選択した人の割合が前回調査より増加しました。また、多伎地域を除く地域で「一度は市外へ出ても、出雲に戻って住みたい」を選択した人の割合が減少しました。

問4 問3で出雲市に「住み続けたい」または「一度は市外へ出ても、出雲に戻って住みたい」と回答した方のみお答えください。
出雲市に住みたい理由を教えてください。

出雲市に住みたい理由（2つまで回答可）



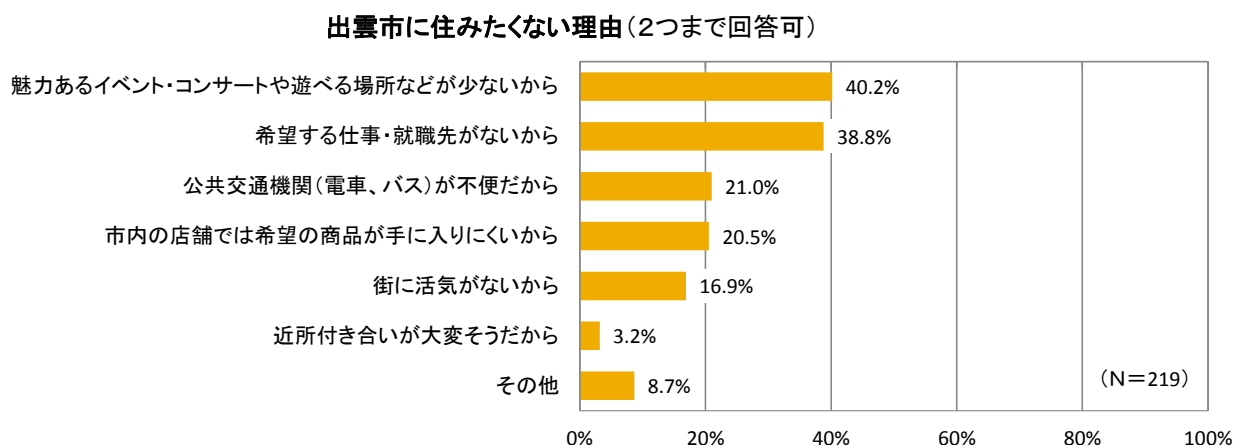
その他の回答内容

項 目	回答者（人）
田舎だから（静かだから、人が少ないから、空気がきれい等）	6
市外に出たくないから	2
親と暮らしたいから	2
その他	7

○出雲市に住みたい理由については、「住み慣れているから」が69.1%と最も高く、続いて「人とのつながり（家族や友人の存在等）があるから」、「出雲（地元）が好きだから」が同率の33.5%で続きました。

問5 問3で出雲市に「住みたくない（市外に出て、出雲市には戻らない）」と回答した方のみお答えください。

出雲市に住みたくない理由を教えてください。

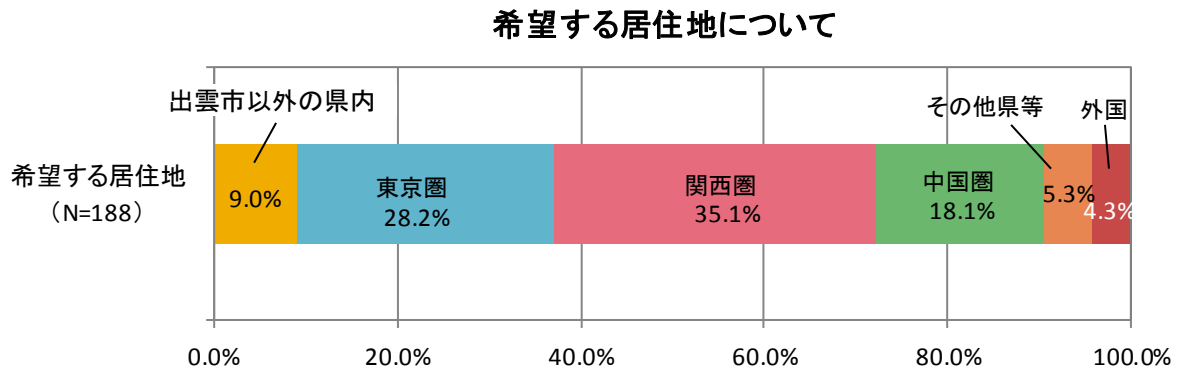


その他の回答内容

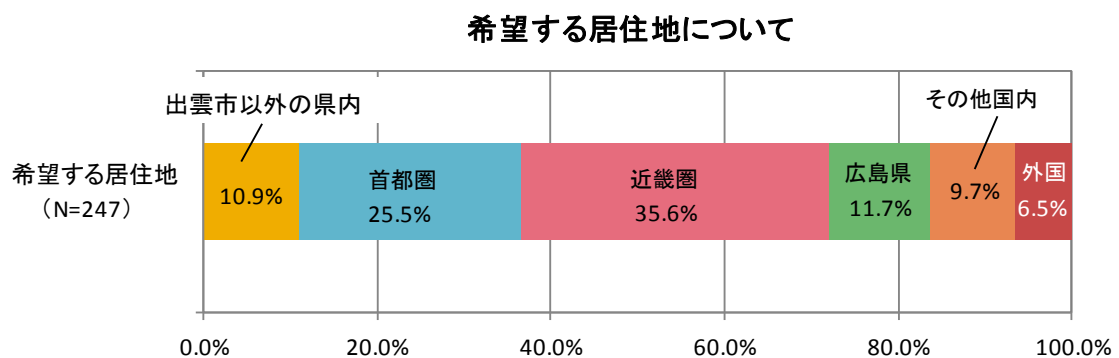
項 目	回答者（人）
都会や外国に興味があるから（色々な国、街に行きたい、色々な経験をしたい）	5
田舎だから（面白くない、地域に自由を拘束されるような慣習がある）	5
実家や地元が別の場所だから	3
その他	6

○出雲市に住みたくない理由については、「魅力あるイベント・コンサートや遊べる場所などが少ないから」が40.2%と最も高く、続いて「希望する仕事・就職先がないから」38.8%、「公共交通機関（電車、バス）が不便だから」21.0%でした。

問6 問3で出雲市に「住みたくない（市外に出て、出雲市には戻らない）」と回答した方のみお答えください。
希望する居住地を教えてください。



参考：前回調査結果（平成 27 年度）

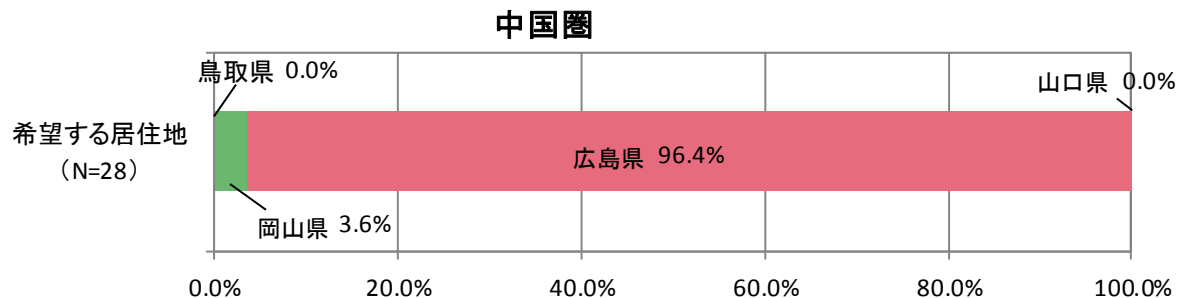
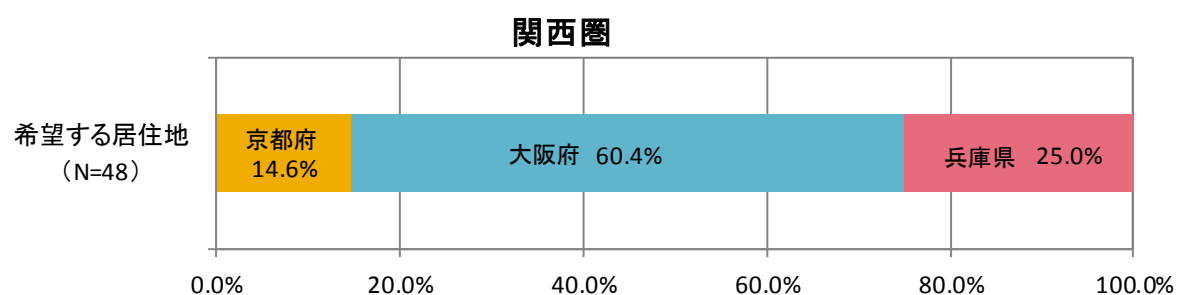
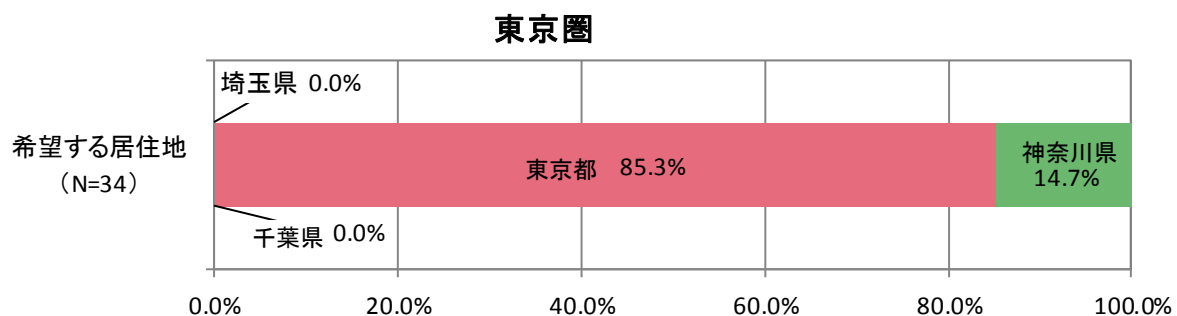


○問3で出雲市に「住みたくない（市外に出て、出雲市には戻らない）」を選択した人が希望する居住地は、「関西圏」の割合が最も高く 35.1%、次いで「東京圏」28.2%、「中国圏」18.1%でした。

○その他の県等では、「北海道」、「福岡県」、「愛知県」などの回答がありました。

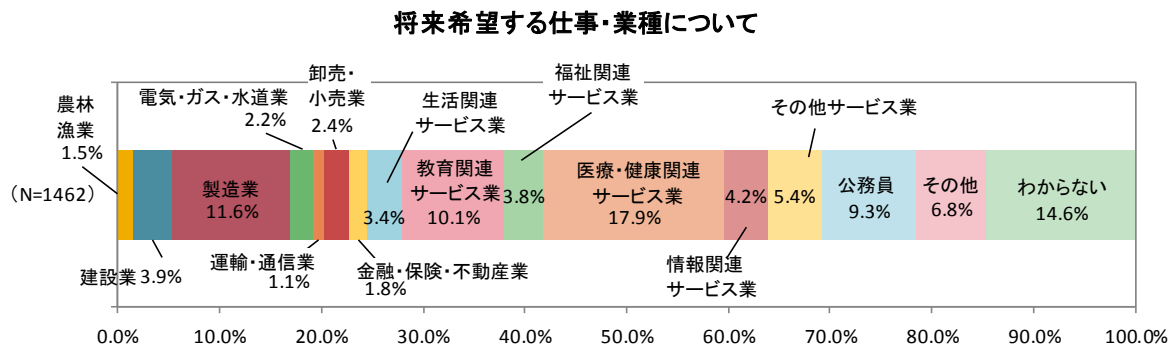
○前回調査とは選択肢が異なるため単純比較はできませんが、似通った傾向を示しています。

■希望する居住地（都府県）の内訳



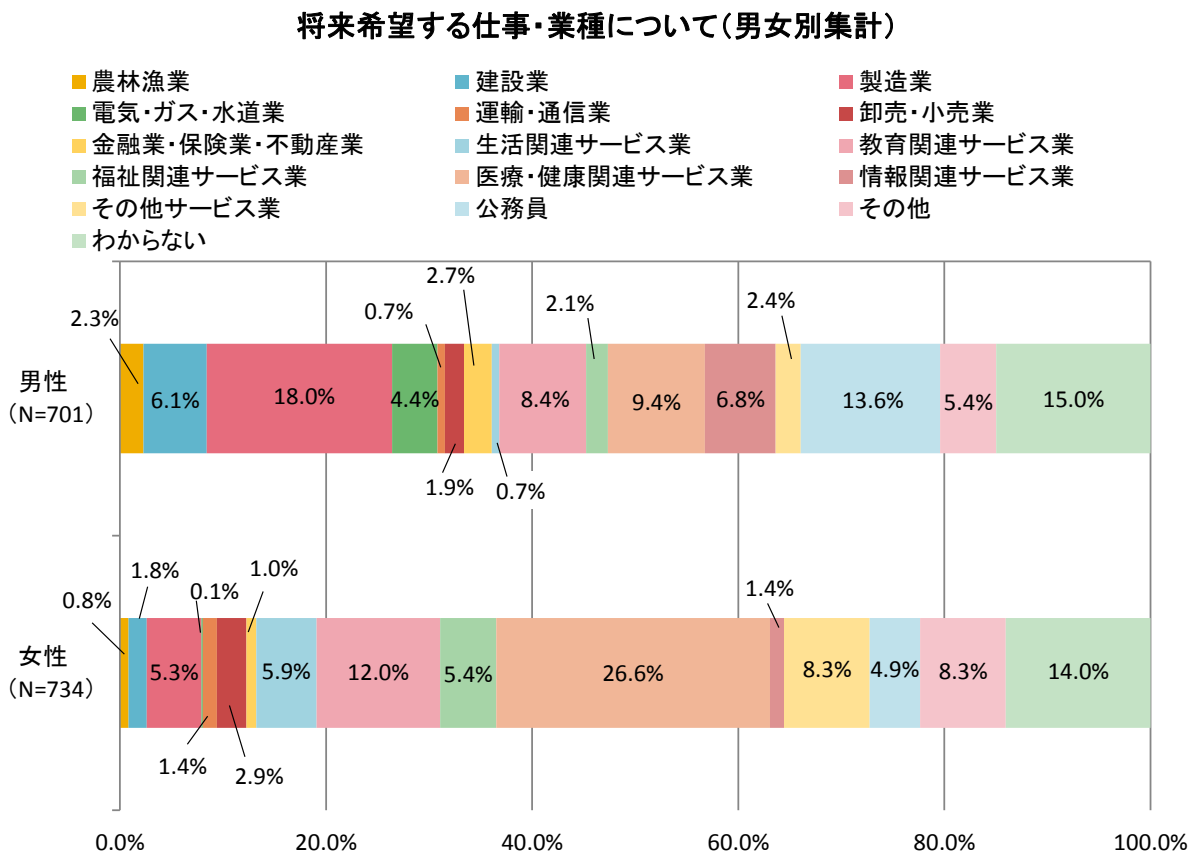
○希望する居住地として東京圏を選択した人のうち、東京都を希望する人の割合が最も高く85.3%、続いて神奈川県14.7%でした。関西圏では、大阪府を希望する人の割合が最も高く60.4%、続いて兵庫県25.0%、京都府14.6%でした。中国圏では、圧倒的に広島県の割合が高く96.4%、次いで岡山県3.6%でした。

問7 将来希望する仕事・業種を教えてください。



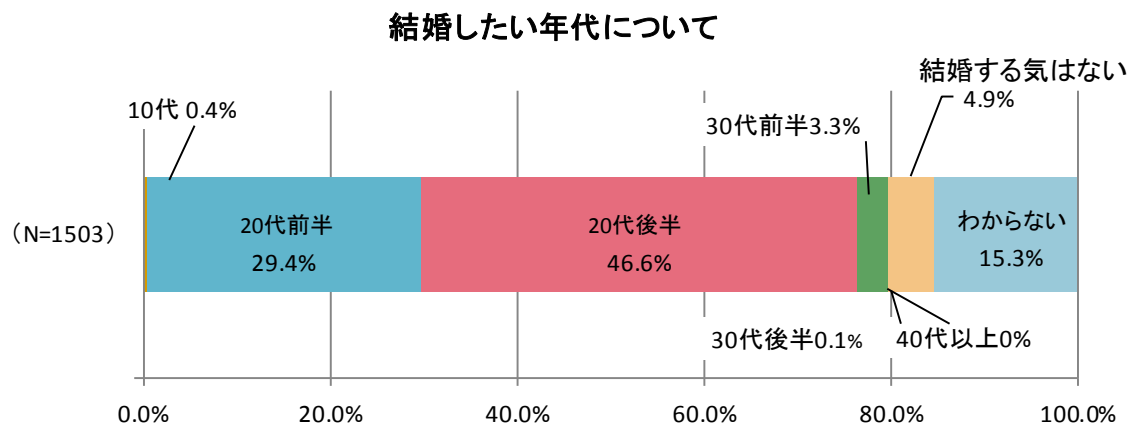
○将来希望する仕事・業種については、「医療・健康関連サービス業（医師、看護師等）」の割合が17.9%と最も高くなりました。次いで「わからない」14.6%、「製造業」11.6%となっています。

■男女別の集計

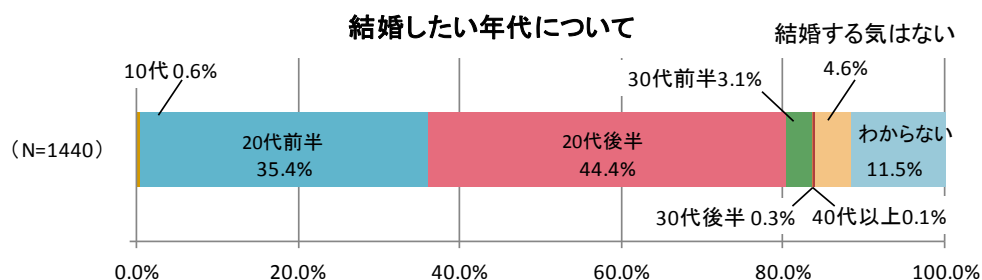


○男女別の集計において、男性では「製造業」18.0%が最も高く、次いで「公務員」13.6%、「医療・健康関連サービス業」9.4%でした。女性では、「医療・健康関連サービス業」26.6%が最も高く、次いで「教育関連サービス業」12.0%でした。

問8 結婚したい年代を教えてください。

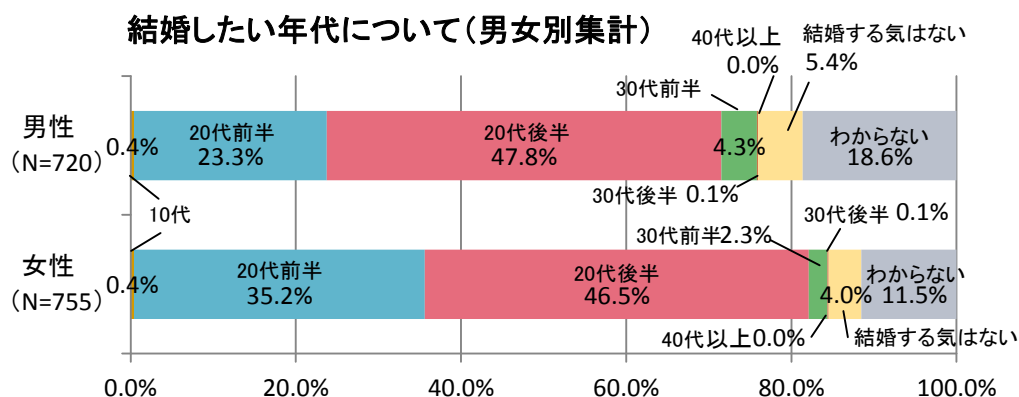


参考：前回調査結果（平成 27 年度）

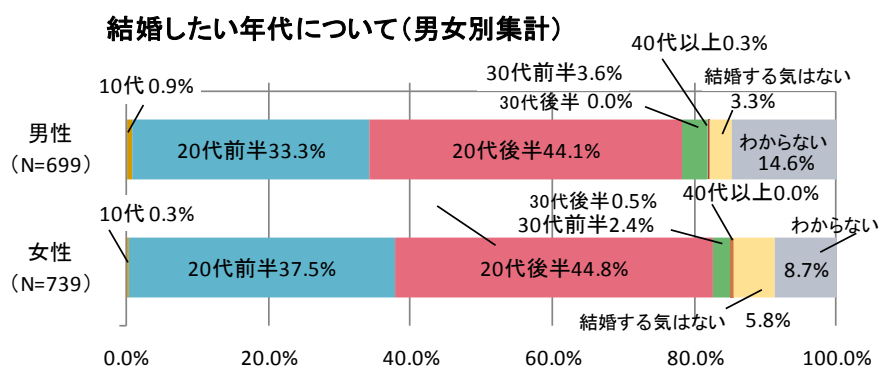


- 結婚したい年代については、「20 代後半」が 46.6%と最も高く、次いで「20 代前半」29.4%であり、20 代での結婚を希望する人が全体の 76%を占めました。
- 「結婚する気はない」と答えた人は 4.9%でした。
- 前回調査と比較すると、「20 代前半」を選択した人の割合が減少し、「20 代後半」、「わからない」を選択した人の割合が増加しました。

■男女別の集計



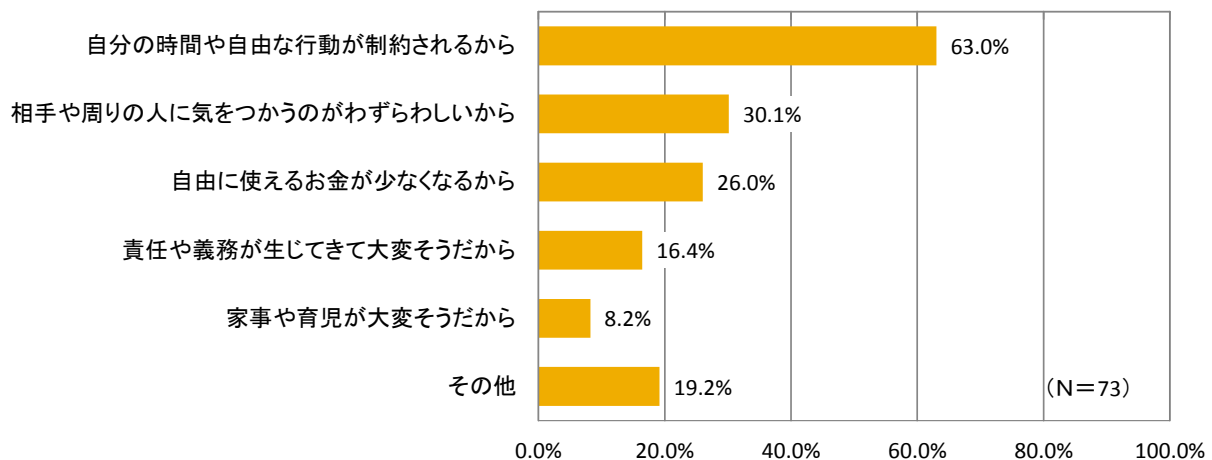
参考：前回調査結果（平成 27 年度）



- 男女別の集計では、20代での結婚を希望する（「20代前半」「20代後半」を選択）と答えた人は、男性では71.1%、女性では81.7%と、女性の方の割合が高くなっています。
- 「結婚する気はない」と答えた人は、男性5.4%に対して、女性4.0%となり、男性の方が高くなっています。
- 前回調査と比較すると、男女とも「20代前半」を選択した人の割合が減少しており、特に男性では10%減少しています。一方、「20代後半」、「わからない」を選択した人の割合は増加しています。男性は、「30代前半・後半」、「結婚する気はない」を選択した人の割合も増加しています。

問9 問8で「結婚する気はない」と回答した方のみお答えください。
結婚する気がない理由を教えてください。

結婚する気がない理由(2つまで回答可)

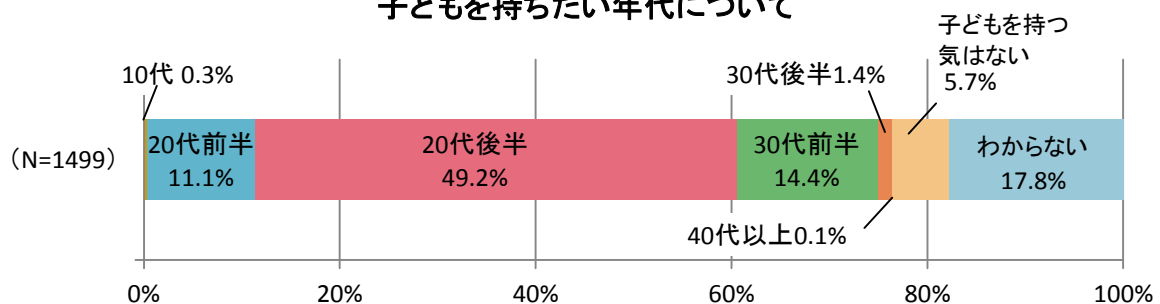


○「結婚する気がない」理由については、「自分の時間や自由な行動が制約されるから」が63.0%と最も高く、次いで「相手や周りの人に気をつかうのがわずらわしいから」30.1%、「自由に使えるお金が少なくなるから」26.0%でした。

○その他の理由では「興味がない」との回答が多くありました。

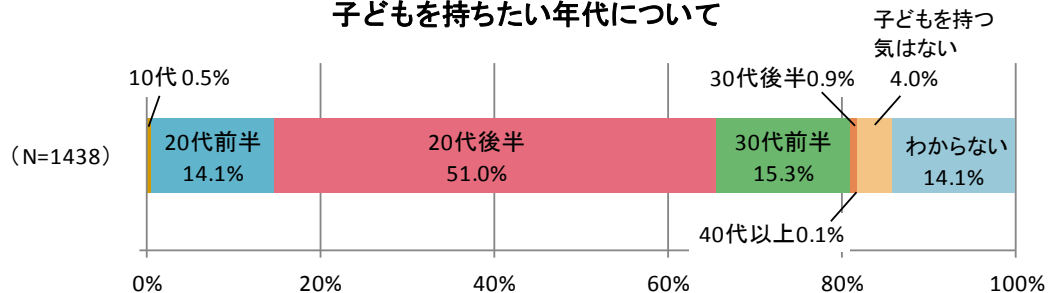
問10 子どもを持ちたい年代を教えてください。

子どもを持ちたい年代について



参考：前回調査結果（平成27年度）

子どもを持ちたい年代について

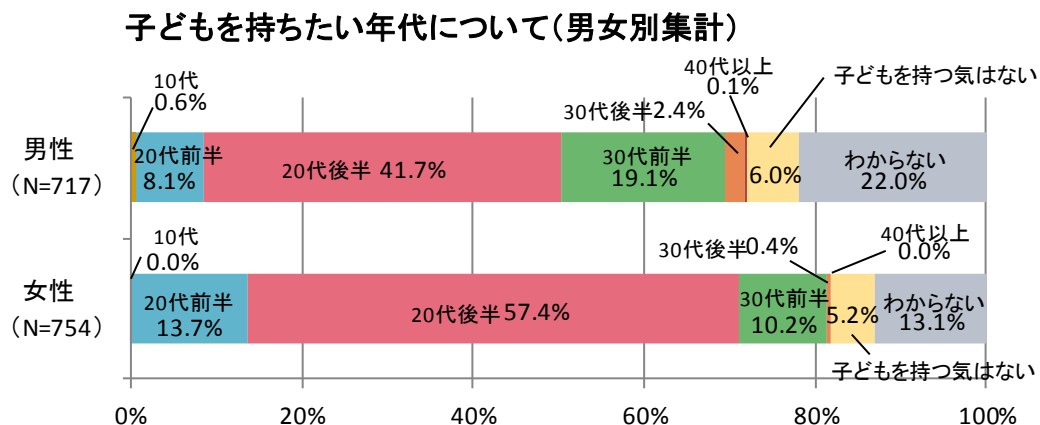


○子どもを持ちたい年代については、「20 代後半」が 49.2%と最も高く、次いで「わからない」17.8%、「30 代前半」14.4%でした。

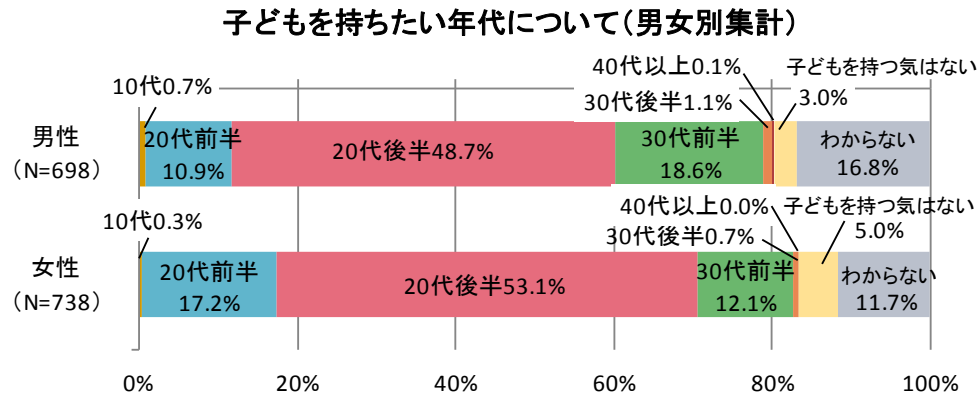
○「子どもを持つ気はない」と答えた人は 5.7%でした。

○前回調査と比較すると、「30 代前半」までに子どもを持ちたい人の割合が減少する一方、「30 代後半」、「子どもを持つ気はない」、「わからない」を選択した人の割合は増加しました。

■男女別の集計



参考：前回調査結果（平成 27 年度）

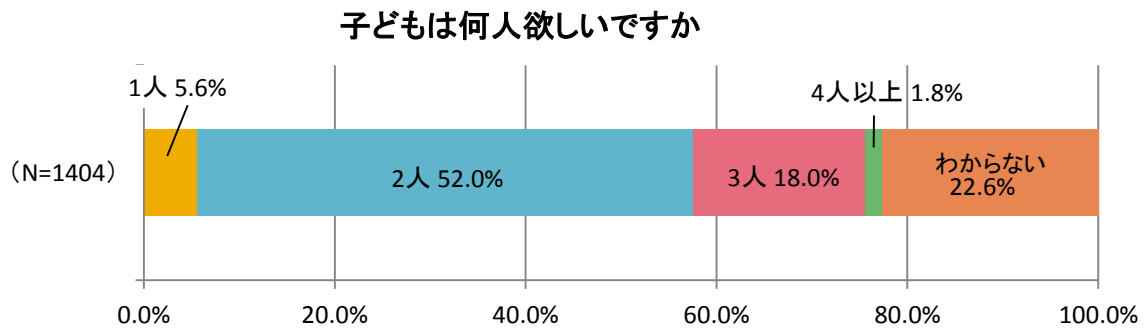


○男女別の集計では、20 代のうちに子どもを持ちたい（「10 代」「20 代前半」「20 代後半」を選択）と答えた人は、男性では 50.4%、女性では 71.1%と、女性の方の割合が高くなっています。

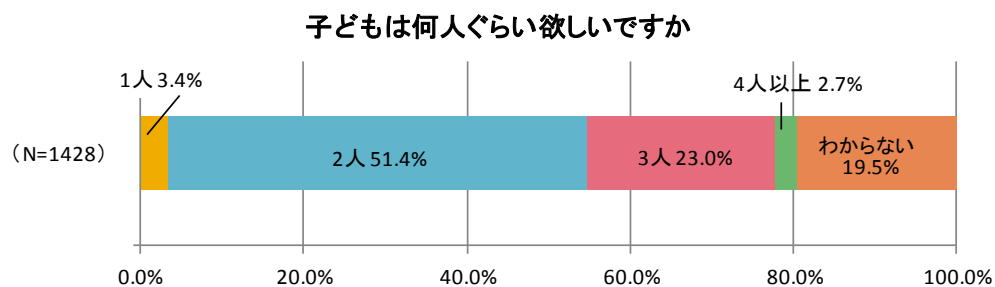
○「子どもを持つ気はない」と答えた人は、男性 6.0%に対して、女性 5.2%となり、男性の方が高くなっています。

○前回調査と比較すると、男女ともに「30 代前半」までに子どもを持ちたい人の割合が減少しました。また、男性は「30 代後半」、「子どもを持つ気はない」、「わからない」を選択した人の割合が増加しました。

問 11 子どもは何人欲しいですか。



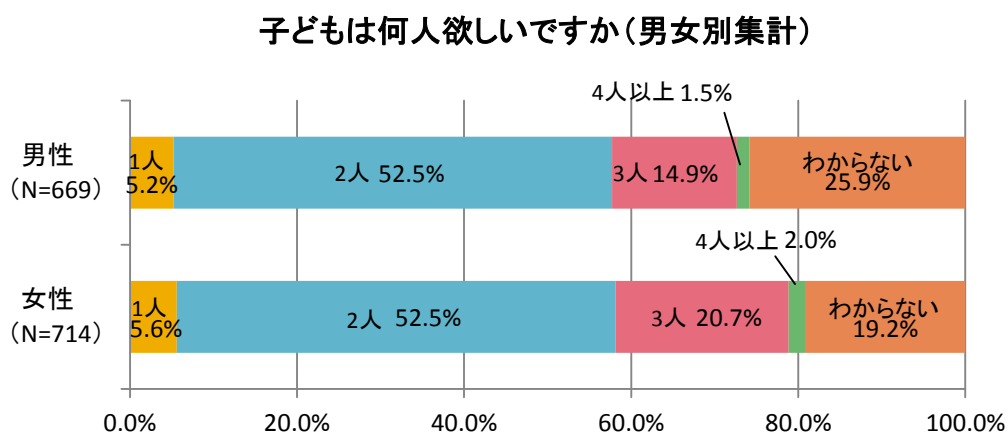
参考：前回調査結果（平成 27 年度）



○希望する子どもの人数は「2人」が 52.0%と最も高く、次いで「3人」の 18.0%となりました。ただし、「わからない」の回答も 22.6%ありました。

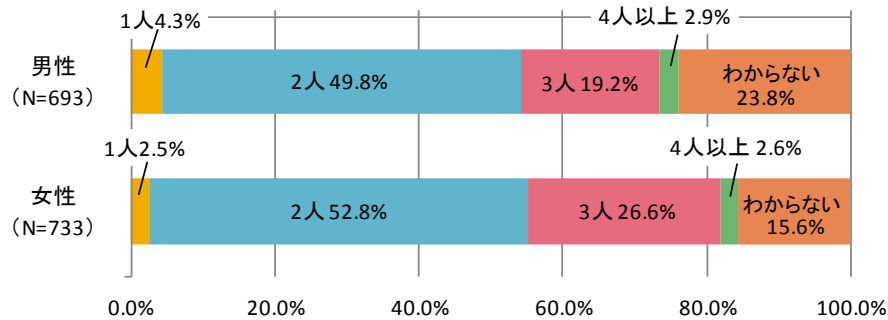
○前回調査と比較すると、「1人」、「2人」を選択した人の割合が増加し、「3人」、「4人以上」、「わからない」を選択した人の割合が減少しました。

■男女別の集計



参考：前回調査結果（平成 27 年度）

子どもは何人欲しいか(男女別集計)



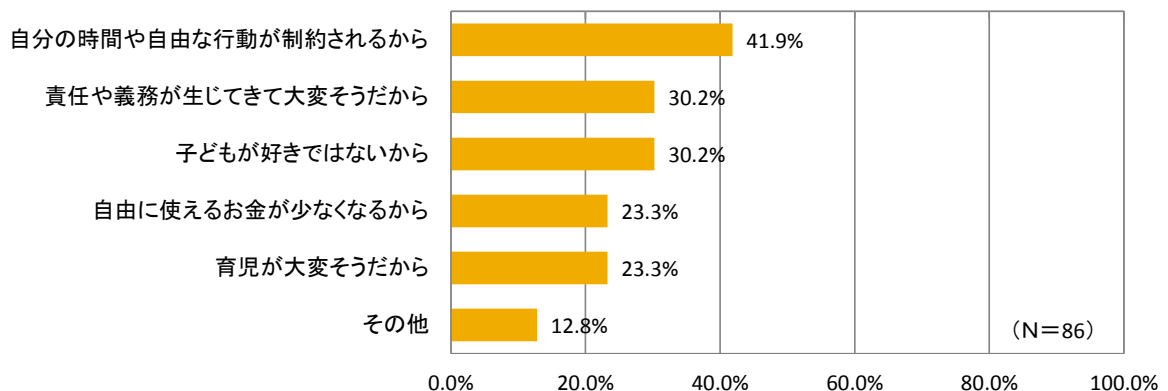
○男女別の集計では、男女ともに「2人」と回答した割合が最も高く、次いで「3人」でした。

「わからない」と回答した割合は、男性が女性より高くなっています。

○前回調査と比較すると、男女別の傾向は変わっていません。男性は「1人」、「2人」、「わからない」を選択した人の割合が増加し、「3人」、「4人以上」を選択した人の割合が減少しました。女性は、「1人」、「わからない」を選択した人の割合が増加し、「2人」、「3人」、「4人以上」を選択した人の割合が減少しました。

問 12 問 10で「子どもを持つ気はない」と回答した方のみお答えください。
子どもを持つ気がない理由を教えてください。

子どもを持つ気がない理由(2つまで回答可)



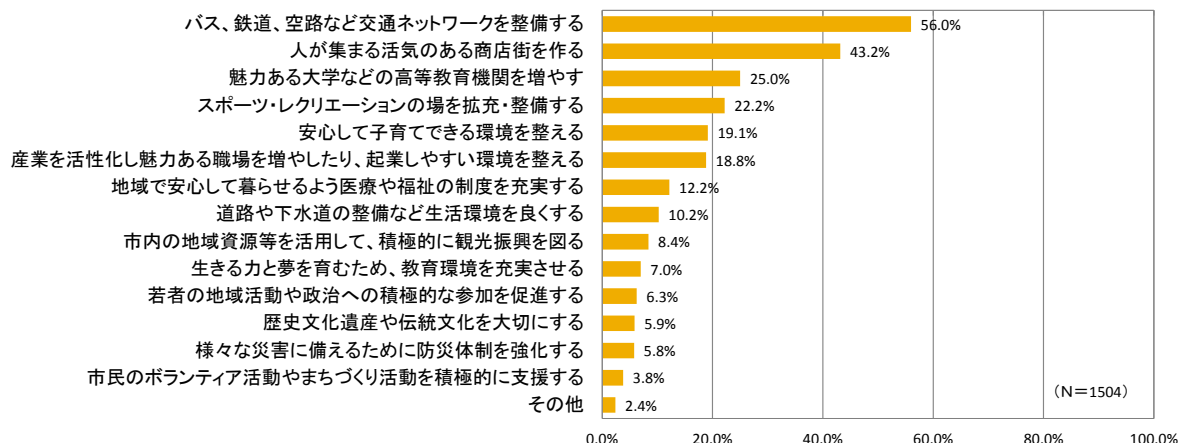
○「子どもを持つ気がない」理由については、「自分の時間や自由な行動が制約されるから」が41.9%と最も高く、次いで「責任や義務が生じてきて大変そうだから」と「子どもが好きではないから」が同率の30.2%で続きました。

○その他の理由では「結婚する気がないから」との回答が多くありました。

出雲市についておたずねします。

問 13 出雲市を今よりもっと元気なまちにするためには、今後どのような取組をすれば良いと思いますか。

出雲市を今よりもっと元気なまちにするための今後の取組について(3つまで回答可)



○出雲市を今よりもっと元気なまちにするための取組については、「バス、鉄道、空路など交通ネットワークの整備」が 56.0%と最も高く、「人が集まる活気のある商店街をつくる」43.2%、「魅力ある大学などの高等教育機関を増やす」25.0%と続きました。

○その他では、「若者向けの商業・娯楽施設の充実」を挙げる人が多くありました。

問 14 出雲市をより良いまちにするためのアイデアや意見があれば、自由に記入してください。

自由意見の内容別分類	回答者(人)	自由意見の内容別分類	回答者(人)
商業・娯楽施設の充実	57	若者文化の取り入れ	4
交通機関の充実	23	給与面の待遇改善	3
地域資源の活用・PR	15	景観・環境美化	3
防犯対策の充実	8	生活インフラの整備	3
子育て支援の充実	6	まちの緑化	3
スポーツ振興、スポーツ施設の整備	6	UIターンの推進	2
都会化	6	空き家対策	2
祭り・イベントの充実	6	自然環境の保護	2
今のままで良い	5	財政健全化	2
観光振興	5	市民の交流	2
教育環境の整備	5	商店街の活性化	2
高等教育機関の充実	4	その他	28

○出雲市をより良いまちにするためのアイデアや意見を記述内容により分類・集計した結果、「商業・娯楽施設の充実」を挙げた人が 57 人と最も多く、次いで「交通機関の充実」23 人、「地域資源の活用・PR」15 人と続きました。

○その他の回答では、「就労環境の整備」「創業支援の充実」「多文化共生の推進」等が挙げられました。